

ISSN 0910-9463

山形県立博物館研究報告

第 11 号

BULLETIN

OF

THE YAMAGATA PREFECTURAL MUSEUM

NO.11

山 形 県 立 博 物 館

YAMAGATA PREFECTURAL MUSEUM

Kajo Machi, Yamagata City, Japan

March,1990

山形県立博物館研究報告

第 11 号

BULLETIN

OF

THE YAMAGATA PREFECTURAL MUSEUM

NO.11

山 形 県 立 博 物 館

YAMAGATA PREFECTURAL MUSEUM

Kajo Machi, Yamagata City, Japan

March,1990

序

『博物館研究報告』第十一号を発行いたしました。

当館は総合博物館で動物、植物、地学、考古、歴史、民俗、教育の部門で構成されています。研究報告は山形を中心にした自然、人文の内容で山形学の基礎的研究とってよいものであります。

調査研究は博物館の活動の中でも非常に重要な分野で、ある意味では博物館の動脈的なものと言っても言い過ぎではありません。調査研究の内容については十分に満足いただけるものかは疑問が残りますが、多忙な活動の中での館員の調査研究活動の結晶であることには間違いありません。なお研究の深化については館員は一層の努力を重ねてまいります。願望としては各位の重ねてのご指導に期待することが大であることも事実であります。

本号に収録した研究報告は地学部門の「山形県村山市基点から産出した長鼻類の大腿骨化石」「山形県天童市原崎の上部中新統山口層から産出した昆虫化石」であり、歴史部門は「最上川流域の古墳時代史」、動物部門から「山形県の蛾類分布資料(V)」であります。また民俗部門の「山形県手漉き和紙の歴史の変遷の考察」は平成二年度の企画展に関わる研究であります。

これらの諸論が郷土山形の自然や文化の理解のためにいささかでも益するところがあれば幸いです。大方のご活用を願うとともに、ご指導ご叱正をお願い申し上げ、研究報告刊行のご挨拶といたします。

平成二年三月

山形県立博物館

館長 矢口隆一

目 次

序	館 長
長澤 一雄:山形県村山市基点から産出した長鼻類の大腿骨化石 ……………	1 - 9
A fossil femur of Proboscidea from Goten,Murayama City,Yamagata Prefecture, Northeast Japan Kazuo NAGASAWA	
長澤 一雄・山野井徹:山形県天童市原崎の上部中新統山口層から産出した 昆虫化石 ……………	11 - 19
Fossil insects from the Upper Miocene Yamaguchi Formation in Barazaki,Tendo City,Yamagata Prefecture, Northeast Japan Kazuo NAGASAWA and Tohru YAMANOI	
木俣 繁:山形県の蛾類分布資料(V) ……………	21 - 60
菊地 和博:山形県手漉き和紙の歴史的変遷の考察 ……………	61 - 100
〈縦組み〉	
加藤 稔:最上川流域の古墳時代史 ……………	右 1 - 20

執筆者紹介(執筆順)

長澤一雄 (山形県立博物館学芸員)

山野井徹 (山形大学教養部助教授)

木俣 繁 (山形県立博物館嘱託)

菊地和博 (山形県立博物館学芸員)

加藤 稔 (山形県立博物館主任専門学芸員)

山形県村山市基点から産出した長鼻類の大腿骨化石

長澤 一 雄*

A fossil femur of Proboscidea from Goten,
Murayama City, Yamagata Prefecture,
Northeast Japan

Kazuo NAGASAWA*

I はじめに

山形県からは、これまでいくつかの長鼻類の化石の産出が報告されてきた(HASEGAWA, 1972; 加藤, 1973; 山形県立博物館, 1983; 沼野, 1985)。これらは、県内の5箇所の地点から産出した計7点の化石で、その部位は臼歯が6点で大腿骨が1点である。臼歯化石の6標本については、長澤(1988)と長澤・高橋(1989)が、ナウマンゾウ *Palaeoloxodon naumanni* (MAKIYAMA)として記載した。これらの長鼻類化石を表1・図1に示す。

本報告は、未記載の大腿骨標本について検討したものである。長鼻類の化石は、日本各地で産出している。なかでも中・後期更新世のナウマンゾウ化石は多産しており、これまで国内の約180箇所から産出している(高橋, 1979)。ただし長鼻類の化石は、ナウマンゾウにおいても1個体分の化石がそろって産出することはまれで、部位では臼歯が最も多かった。このため、長鼻類化石の研究は、臼歯に比べて体幹・体肢骨に関する研究は遅れており、ナウマンゾウについても良好な化石の産出と相まって1970年代以降に本格化してきた(間島, 1987)。

当標本は大腿骨化石としては不完全ではあるが、

日本の長鼻類の体肢骨の化石の産出が決して多くないこと考えると、これを記載しておくことが今後の長鼻類化石の研究の一資料として意義があると考え、ここに報告する次第である。

II 地質概説

産出地点：大腿骨化石は、1970年に山形県村山市基点の最上川河床礫中から、当時行われていた川砂利採取工事によって産出した。産出地点は、最上川の基点橋から約0.5km上流の左岸付近である(図2)。ほぼ同じ場所からはナウマンゾウの臼歯化石が、またこの付近の最上川流域の2箇所からは、やはりナウマンゾウの臼歯化石が2点産出している(表1・図1)。大腿骨化石は、産状から考えて明らかに二次堆積物である。

周辺の地質：村山市基点周辺地域は、山形盆地の北西部にあたり、北方へゆるく蛇行して最上川が流下している。基点橋付近の最上川河床には、中新統が一部露出しており、中新統はすぐ東側に連続して河島山の丘陵地を構成している。河島山のさらに東側は盆地の堆積域で、地下には第四系が発達している。山野井(1986)によると、河島山東側の村山市浮沼で実施した試錐調査では、深度127mでまだ中新統に達しなかったが、深部のコ

*山形県立博物館

表1 山形県産の長鼻類化石

	標本名	種	部位	産地	時代	所蔵
1	基点第1標本	Pn	左下顎第3大白歯	村山市大久保字高島最上川河床	不祥	小山治義(村山市)
2	基点第2標本	Pn	左上顎第3大白歯	村山市基点 最上川河床	不祥	山形県立博物館
*3	基点大腿骨標本	Pn?	右大腿骨遠位部	同上	不祥	同上
4	長島標本	Pn	左下顎第2大白歯	村山市長島 最上川河床	不祥	井上幸雄(村山市)
5	笹森標本	Pn	右または左上顎第3大白歯	最上町富沢字笹森 明神川河床	不祥	笠原富男(最上町)
6	鼠ヶ関第1標本	Pn	左下顎第3大白歯	湯海町鼠ヶ関 鼠ヶ関港海底	不祥	致道博物館
7	鼠ヶ関第2標本	Pn	右下顎第3大白歯	同上	不祥	同上

* : 本報告 , Pn : ナウマンゾウ

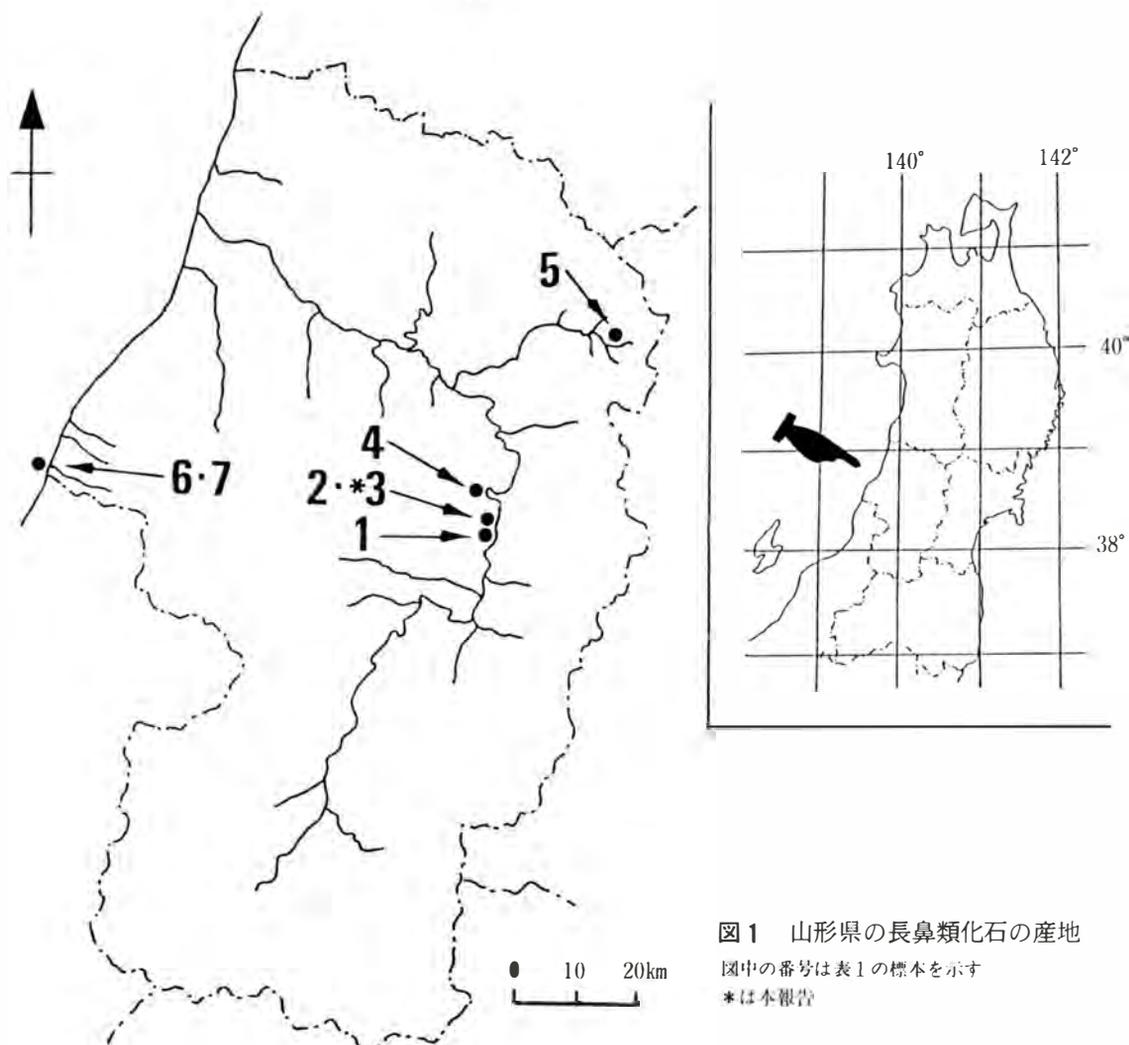


図1 山形県の長鼻類化石の産地
 図中の番号は表1の標本を示す
 *は本報告

アの礫種等から考えて、この深さで基底にかなり近いものと判断している。

一方基点の西側の最上川左岸には、段丘の発達が見られ、東側とは異なる隆起域といえる。最も発達の良い段丘面は、村山市大久保地区をのせる現河床からの比高が20~40mの段丘で、最上川左岸の各支流に開折されながら南北に連続している。段丘堆積物は、砂礫・シルト・粘土を主体として泥炭層を何枚か挟在している(矢口, 1980)。この泥炭層の¹⁴C年代として、最上川左岸のやや南方の河北町岩木付近の法師川沿いでの試料による、 $17,740 \pm 430$ Y.B.P. (Gak-5269) (早坂, 1976MS) と、 $23,190 \pm 1060$ Y.B.P. (Gak-6969) (安原, 1978MS) の報告がある。この段丘は、形態的に村山市北方の尾花沢市街をのせる段丘面を模式地とする、尾花沢I面(最上川団研グループ, 1969)に対比される可能性がある。尾花沢I段丘の年代の多くは、概ね約3万年前を示している(山形ほか, 1985)。これらから、基点西側の段丘の形成時期は、大きくみても後期更新世後期のウルム氷期の時期と考えられる。この段丘の西側には高森山の丘陵地が

あり、山野井(1986)によれば、中期更新世の湖成層(北山層)から構成されるとしている。

村山市基点周辺を含めた山形盆地北西部の地形や地質は、山形盆地を形成した第四紀の構造運動と直接的に関わるといえる。構造運動が活発化したのは、北山層の堆積後の中期更新世以降と考えられている(山野井, 1986)。

産出層準の検討：周辺の地質から考えて、化石が現河床の二次堆積物として産出したことは、化石がより侵食-運搬されやすい場所からもたらされたことを示唆していると考えられる。すなわち、化石もとの埋没層準は、基点東側の盆地内部の沈降-堆積域よりも、基点西側の段丘の発達する隆起-侵食域にあった可能性がより高いと考えられる。基点西側の更新統は、前述のように北山層(中期更新世)と段丘堆積物(後期更新世後期)があり、このいずれかの層準と考えられる。

一方、化石の保存状況から考えると、化石は大腿骨の遠位部のみながら、残存部の保存は比較的良好であり、遠距離河床を転動したとは考えにくい。このことを考え合わせると、化石もとの埋没層準は、産出地点から近距離にある段丘堆積物であった可能性が高いものと考えられる。

III 標本の記載

Order Proboscidea ILLIGER, 1881

Fam., gen. et sp. indet.

図版 I

部位 右大腿骨遠位部

産地 山形県村山市基点。基点橋から約0.5km
上流の最上川左岸付近

産出年 1970年

層準 河床礫層(上流域の更新統からの二次堆積物と推定)

所蔵 山形県立博物館(山形市霞城町1-8)

標本番号 YPMG-531

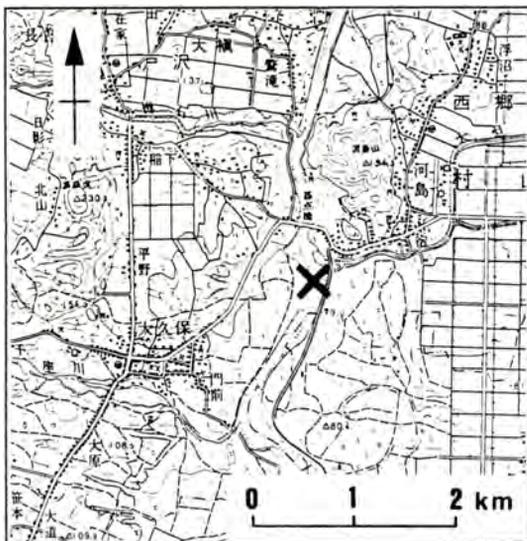


図2 化石の産地(×)

(国土地理院発行5万分の1地形図「楯岡」を使用)

記載：標本の部位は、内・外側顆が明瞭に認められることから、大腿骨の遠位部である。また内・外側顆の大きさの比較や内側上顆の張り出しから、右大腿骨と判定される。そして全体的な大きさと形態から、標本は長鼻目に属するものと判断される。

標本は全体的に大型で、灰色ないし灰黒色を呈している。保存状態は、後面から遠位面にかけて良好でほとんど磨耗していないが、前面と内・外側面は磨耗している。

前面からみて、表面は磨耗のため海綿質が露出しているが、前方へ張り出す外形は保たれている。膝蓋面は、遠位端のほぼ中央から近位の外側方向にかけて、やや斜上する形態が認められる。

後面からみて、内・外側顆は幅広く発達しており、内側顆が外側顆よりやや大きい。関節面は比較的平滑で、内側顆は外側遠位方向を、外側顆は内側遠位方向を向く。内・外側顆と膝窩面とは、内側顆上縁で強く屈曲して境界され、外側顆でなめらかに連続している。膝窩面の内側寄りには、表面に近遠位方向の粗い線構造があり、くぼみが大きい。顆間窩は、逆三角形を呈して遠位ほど狭く、遠位端では幅約2mmの狭い溝状となっている。内・外側上顆のうち、内側上顆の張り出しが明瞭

である。

近位面からみて、横断面は後面が前方に凹湾した半円状の外形を示す。断面には海綿質が露出している。外縁の緻密質の厚さは、4～5mm程度である。

遠位面からみて、外形が心形を呈する。中央は凹状となり、内部に円形の小孔がある。

計測値は次のとおりである。計測部位(図3)は、野尻湖哺乳類グループ(1980)、樽野(1988)等を参考にした。

残存長(A-B)	223mm
最大遠位幅(C-D)	232mm
内外側顆幅(E-F)	208mm
内側顆幅(E-G)	105mm
外側顆幅(H-F)	103mm

特徴：当標本は、次のような特徴をもっと考えられる。1)長鼻類の大腿骨遠位部のうちでも大型の化石である。2)内・外側顆が幅広く発達しており、外側顆も内側顆に相当するほど大きい。3)内・外側顆が、遠位端で非常に狭く隣接している。

種の検討：当標本の産出層準は未詳ながら、前述のように概ね中期更新世から後期更新世の範囲と入ると考えられる。この時期の日本の長鼻類は、ステゴドン科 *Stegodontidae* のトウヨウゾウ *Stegodon orientalis* (中期更新世中期)と、ゾウ科 *Elephantidae* のナウマンゾウ *Palaeoloxodon naumanni* (中期更新世後期～後期更新世)およびマンモスゾウ *Mammuthus primigenius* が存在していた(亀井ほか, 1988)ことから、当標本はこれらのいずれかに属するものと考えられる。

これについて検討するため、大腿骨の遠位部の形態について他の標本との比較を試みた。検討した標本は、トウヨウゾウでは山本コレクション YM-056 図版(樽野, 1988)、ナウマンゾウでは忠類標本図版(亀井, 1978)・浜町標本レプリカ(高橋啓一所蔵)・野尻湖標本 6 NT10-18(野尻湖博物

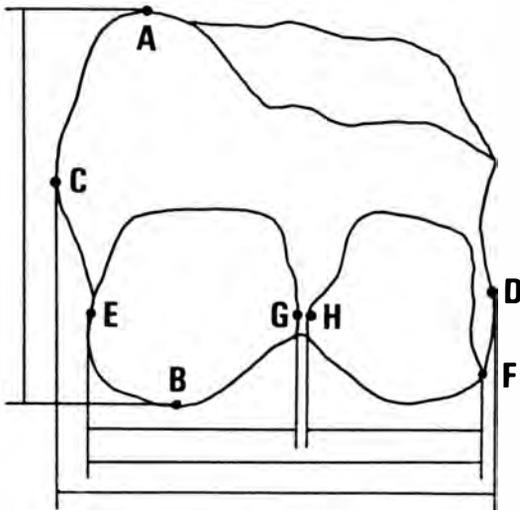


図3 標本の計測部位

館所蔵)・高尾・真屋コレクション(国立科学博物館所蔵),および現生ゾウ科のアジアゾウ *Elephas maximus* (高橋啓一, 野尻湖博物館所蔵)・アフリカゾウ *Loxodonta africana* (国立科学博物館所蔵)等である。

その結果, いずれの大腿骨の遠位部も, 概観的な形態は類似性が高かった。しかし細部の形態では, 同種のナウマンゾウにおいても, 変異が認められた。これらから, 大腿骨遠位部の形態のみから科や属さらには種の特徴を抽出することはやや困難であると考えられた。すなわち当標本の特徴として記した事項は, 長鼻類の変異の範囲内の問題である可能性が高いと考えられた。従って, 当標本は形態だけの検討では, 前述のステゴドン科かゾウ科のいずれなのかについても判定できないと考えられ, 分類学上の位置を「長鼻目」にとどめることとした。

ただし, 当標本は以下の状況を総合すると, トウヨウゾウかマンモスゾウの可能性より, ナウマンゾウの可能性がより強いものと考えられる。

1) 多くのトウヨウゾウの化石は, 化石化がすすんでおり, 古い印象を与える(樽野私信)のに対し,

当標本は, 内部の海綿組織も残されて化石化はあまり進んでおらず, 新しい印象を与えること。

2) トウヨウゾウの産出は, 岩手県からの産出はあるが, 多くが西日本と関東地方の産出であり(三島・宮崎, 1982), 中期更新世での東北日本への進出はまれであったと考えられること。

3) 当標本の磨耗状況からみて, 産出地点から近距離にある後期更新世の段丘堆積物中からもたらされた可能性が高いと考えられること。

4) 後期更新世の日本の長鼻類は, ナウマンゾウとマンモスゾウで, このうちのマンモスゾウの化石は北海道のみからの産出(亀井ほか, 1988)であることから, このゾウが本州へ南下してきた可能性は低いと考えられること。

5) 当標本の産地とほぼ同じ地点からは, 同じ産状でナウマンゾウの臼歯化石が産出しているほか, この周辺の2箇所からナウマンゾウの臼歯化石2点が産出していること。

IV 計測値の比較と考察

当標本の大きな特徴の一つは, 大型であることを先に述べたが, ここでは当標本の計測値を他標

表2 計測値を比較した日本産長鼻類化石の大腿骨標本

標本	種	産地	時代	文献
忠類標本	Pn	北海道広尾郡忠類村	LPE?	1)
浜町標本	Pn	東京都中央区日本橋浜町	LPE	2)
野尻湖標本 (6 NT10-18)	Pn	長野県水内郡信濃町野尻湖	LPL	3)
真屋コレクション	Pn	瀬戸内海備讃瀬戸から小豆島付近の海底	MPL?	4)
山本コレクション (YM-057)	Pn	瀬戸内海西部備讃瀬戸の海底	MPL	5)
山本コレクション (YM-056)	So	同上	MPM	5)

Pn: ナウマンゾウ So: トウヨウゾウ

MPM: 中期更新世中期 MPL: 中期更新世後期 LPE: 後期更新世前期 LPL: 後期更新世後期

1) 亀井(1978) 2) 日本橋ナウマンゾウ研究グループ(1981) 3) 野尻湖哺乳類グループ(1980)

4) HASEGAWA(1972) 5) 樽野(1988)

表3 日本産長鼻類化石の大腿骨標本の計測値

	基点標本 (YPMG-531)	忠類標本	浜町標本	野尻湖標本 (6NT10-18)	真屋コレクション	山本コレクション (YM-057)	山本コレクション (YM-056)
全長	—	935mm	789mm	*1100mm (932)	1010mm	743+mm	875+mm
骨体中央幅	—	125mm	96mm	149mm	145mm	130mm	162mm
骨体中央厚	—	63mm	—	90mm	76.5mm	—	—
最大遠位幅	232mm	178mm	153mm	219mm	228mm	197mm	220mm
内外側顆幅	208mm	—	—	181+mm	208mm	186mm	196mm
内側顆幅	105mm	—	—	—	—	103mm	84mm
外側顆幅	103mm	—	—	—	—	82mm	87mm

計測値は、表2に示した文献より引用した値である。*は、文献に示された推定値である。

本と比較する。また残存部からの大腿骨全長の推定を試み、そしてこれをもとにゾウの体高(肩高)についても考察する。

日本でこれまで産出した長鼻類の大腿骨化石は多くなく、しかも遠位部の保存の良い標本は限られている。またこの部位の計測値の示された標本は、ほとんどがナウマンゾウである。比較に用いた標本を表2に、計測値を表3に示す。表3によって最大遠位幅を比較すると、当標本はこれらのなかで最大となっている。従って限られた比較ながら、当標本は日本で産出した長鼻類の大腿骨化石のうちでも、遠位部とすれば最大級の大きさをもつといえる。

次に、最大遠位幅と大腿骨全長との関係を図4に示す。これによると、遠位部が大きくなるほど全長が長くなっており、ほぼ比例関係が認められる。この関係は、大腿骨の長さに比例して体格も大型化するため、より重い体重を支えるために関節部が大きくなることを示唆していると考えられる。図4の標本は、ナウマンゾウ5標本とトウヨウゾウ1標本で、時代も異なるが、少なくとも同種のゾウについては概ねこの関係は成り立つと考えられる。当標本は、種未詳ながらナウマンゾウ

の可能性が強いことから、同種のゾウとすれば、図4によって全長が1100mm前後と推定される。

大腿骨全長から、ゾウの肩高について検討する。野尻湖哺乳類グループ(1980)は、野尻湖産ナウマンゾウの大腿骨全長を、 $1100 \pm 80 \text{mm}$ と考えており、各種のゾウとの比較から野尻湖産ナウマンゾウの肩高を、 $2750 \pm 200 \text{mm}$ と推定している。当標本が同種のゾウで、大腿骨全長が1100mm程度とすれば、その肩高は野尻湖産ナウマンゾウの範囲に入るものと考えられる。さらに当標本は、遠位部の比較では野尻湖6NT10-18標本を上まわっていることから、野尻湖産ナウマンゾウの最大級(肩高3m弱)に匹敵する可能性も考えられる。

V まとめ

- 1) 各種の長鼻類の大腿骨遠位部を検討した結果、遠位部の形態だけでは、目以上の分類学上の位置を決めることは困難と考え、当標本については「長鼻目」ととどめることとする。
- 2) ただし、種々の状況を総合すると、当標本はナウマンゾウである可能性が強いと考えられる。
- 3) 当標本の大きな特徴は、大型であることで、これまで知られている長鼻類の大腿骨化石の遠位部

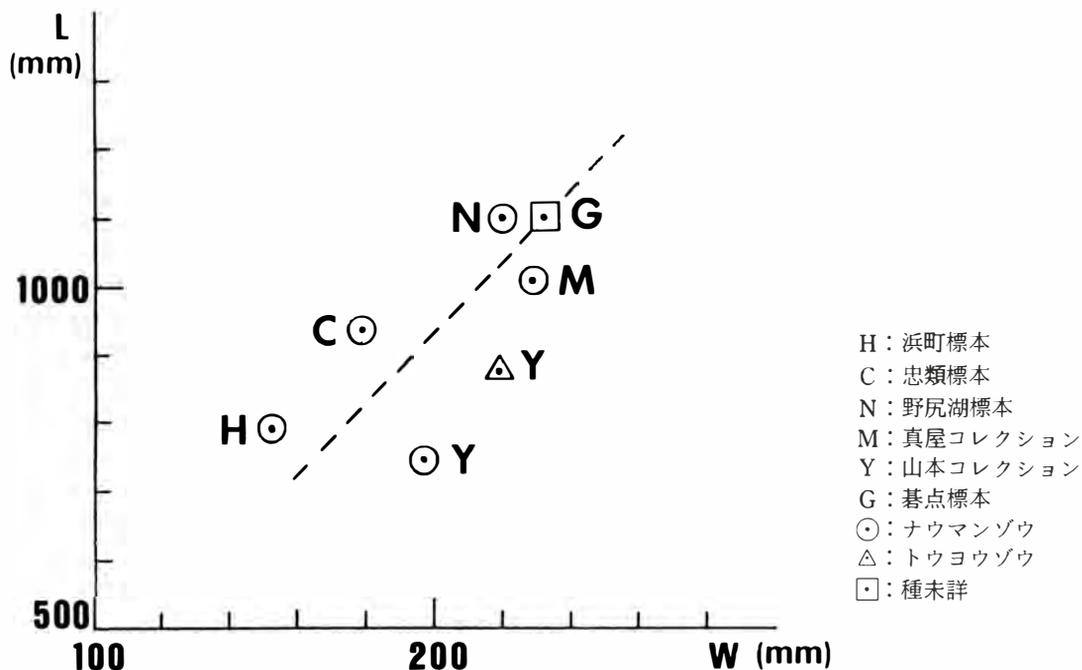


図4 最大遠位幅(W)と大腿骨全長(L)の関係

のなかでも最大級である。

4) 当標本がナウマンゾウとすれば、大腿骨の全長は1100mm前後と推定され、その肩高は野尻湖産ナウマンゾウの推定肩高の範囲(2750±200mm)に入るものと考えられる。

謝 辞 当標本は、1970年に工藤悦夫氏(村山市河島)によって発見されたもので、同氏の御好意により1977年に本館に寄贈されたものである。標本は本館への収蔵時に長谷川善和教授(横浜国立大学)に、また1986年には本館の一部展示替えに関連して、亀井節夫教授(元京都大学、現信州大学)に同定していただいた(長澤, 1987)。

そして、本稿をまとめるにあたっては、本館の加藤 稔主任専門学芸員および山形大学教育学部の阿子島功助教授から地質文献の便宜をはかっていただいた。日本歯科大学新潟歯学部の高橋啓一先生からは、化石文献の便宜とともに、浜町標本レプリカを検討させていただき、また大腿骨の形態について、種々の御教示をいただいた。信濃町

立野尻湖博物館の中村由克学芸員と近藤洋一学芸員両氏には、同館所蔵標本の検討の便宜をはかっていただいた。国立科学博物館の富田幸光博士には、同館所蔵の高尾・真屋コレクションの多くの標本の検討の機会を与えていただいた。また大阪自然史博物館の樽野博幸学芸員からは、トウヨウゾウについて御教示いただいた。

ここに記して、以上の方々に深く感謝申し上げます。

文 献

- HASEGAWA, Y., 1972: The Naumann's Elephant, *Palaeoloxodon naumanni* (MAKIYAMA) from the Late Pleistocene off Shakagahana, Shodoshima Is. in Seto Inland Sea, Japan. *Bull. Natn. Sci. Mus.*, 15, 513-591.
- 早坂律子, 1976MS: 山形盆地の地形ならびに花粉学的研究。山形大教育卒論。
- 亀井節夫, 1978: 忠類産のナウマンゾウ *Palaeoloxodon naumanni* (MAKIYAMA)。地団研

- 専報, no.22, 345-355.
- ・河村善也・樽野博幸, 1988:日本の第四系の哺乳動物化石による分帯. 地質学論集, no.30, 181-204.
- 加藤達也, 1973:温海町の地質. 温海町史別冊温海の自然, 37-106, 温海町.
- 間島信男, 1987:ナウマンゾウの体幹・体肢骨に関する従来の研究について. 埼玉県立栗橋高校紀要, no. 1, 65-84.
- 三島弘幸・宮崎重雄, 1982:日本産東洋象 (*Stegodon orientalis* OWEN)の標本目録. 化石研究会誌, 14, 55-58.
- 最上川団研グループ, 1969:最上川流域・庄内海岸地域の第四紀. 地団研専報, no.15, 85-97.
- 長澤一雄, 1987:第四紀常設展示の一部展示替えについて. 山形県博研報, no. 8, 1-8.
- , 1988:村山市基点から産出したナウマンゾウ臼歯化石. 山形県博研報, no. 9, 41-50.
- ・高橋啓一, 1989:山形県産の長鼻類臼歯化石. 山形県博研報, no.10, 51-73.
- 日本橋ナウマンゾウ研究グループ, 1981:日本橋浜町発見のナウマンゾウ化石について. 東京都埋蔵文化財調査報告, no. 8, 63-118.
- 野尻湖哺乳類グループ, 1980:野尻湖産のナウマンゾウ化石. 地質学論集, no.19, 167-192.
- 沼野達明, 1985:最上地方に産出する化石について. 皆川信弥教授記念論文集 山形県地質誌, 129-136.
- 高橋啓一, 1979:“ナウマンゾウ”の産地・文献目録. 化石研究会誌, 12, 69-74.
- 樽野博幸, 1988:備讃瀬戸海底産出の脊椎動物化石.(その1)長鼻類ほか. 備讃瀬戸海底産出の脊椎動物化石-山本コレクション調査報告書 I -, 11-61, 倉敷市立自然史博物館.
- 矢口広道, 1980MS:山形盆地とその周辺地域の地形学的研究-山形盆地北西部の地形発達を中心として-. 山形大教育卒論.
- 山形県立博物館, 1983:村山市産のナウマン象の化石. 山形県博ニュース, no.71.
- 山形 理・米地文夫・鈴木雅宏・杉村 新, 1985:山形県新庄・尾花沢盆地の泥炭の¹⁴C年代. 皆川信弥教授記念論文集 山形県地質誌, 137-139.
- 山野井徹, 1986:山形盆地の形成とその自然環境の変遷. 山形大学特定研究経費成果報告書, 47-86.
- 安原 泉, 1978MS:山形県内陸北部の地形ならびに花粉学的研究. 山形大教育卒論.

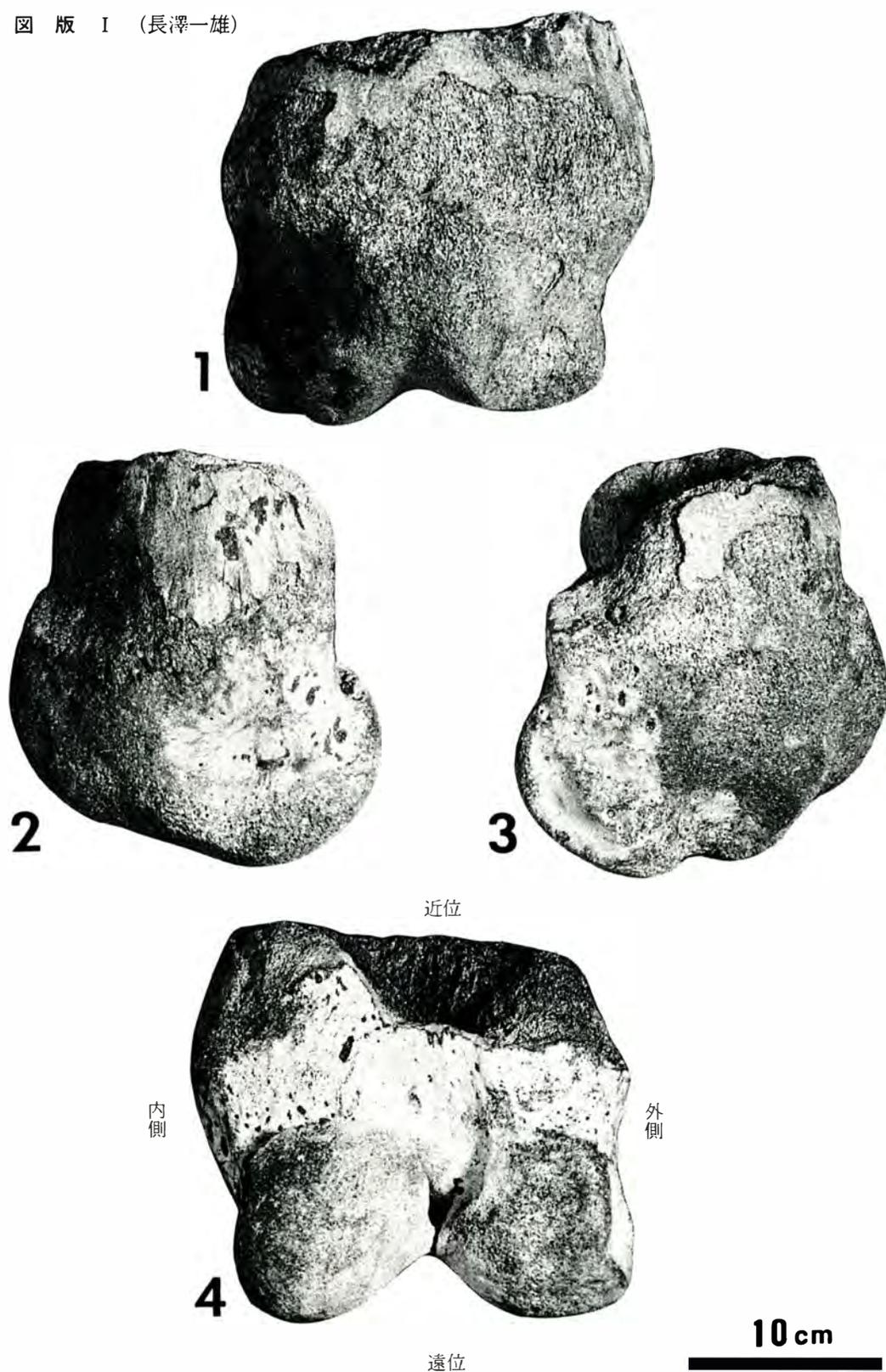
図版の説明

図版 I

基点産大腿骨標本: Proboscidea, fam., gen. et sp. indet. の右大腿骨遠位部

- | | |
|--------|--------|
| 1 前面観 | 2 内側面観 |
| 3 外側面観 | 4 後面観 |

図版 I (長澤一雄)



山形県天童市原崎の上部中新統山口層から産出した昆虫化石

長澤一雄*・山野井徹**

Fossil insects from the Upper Miocene Yamaguchi Formation
in Barazaki, Tendo City, Yamagata Prefecture,
Northeast Japan

Kazuo NAGASAWA* and Tohru YAMANOI**

I はじめに

昆虫化石は、植物化石を含む非海成の細粒堆積岩に多く含まれる傾向がある。この化石は植物化石ほど多産しないが、日本各地からの産出の報告がある。日本で最も古い時代の昆虫化石は、FUJIYAMA (1973) が報告した、山口県美祢市産の中生代三畳紀後期の標本である。

山形県産の昆虫化石は、量的には多くないものの、新第三系からの産出の報告がいくつかなされている(藤田, 1972MS; 菊地・東海林, 1972; FUJIYAMA, 1982; FUJIYAMA, 1983; 藤山, 1985; 山野井, 1986)。

本報告は、これまで報告のなかった天童市原崎付近の山口層(天野, 1980)から産出した、昆虫化石3標本を記載するものである(図1)。当産地からは植物化石が多産しているが、昆虫化石はほとんど産出していない。記録とすれば、天童市理科教育センター(1986)に未同定の昆虫化石の紹介がある程度である。なお、この標本は現在のところ所在が不明である。以上のこれまでに知られている、山形県の昆虫化石の産出状況を、表1・図2

に示す。

本報告は、後述するように標本の1つがミツバチ属の一種と同定され、これは国内的にも数少ない標本であることから、意義深いものと考えられる。また、当産地は最近の採石工事によって大きく壊され、化石の採集が困難になってきている状況にあり、標本数が多くないものこれらを記載しておく必要があると考え、ここに報告する次第である。

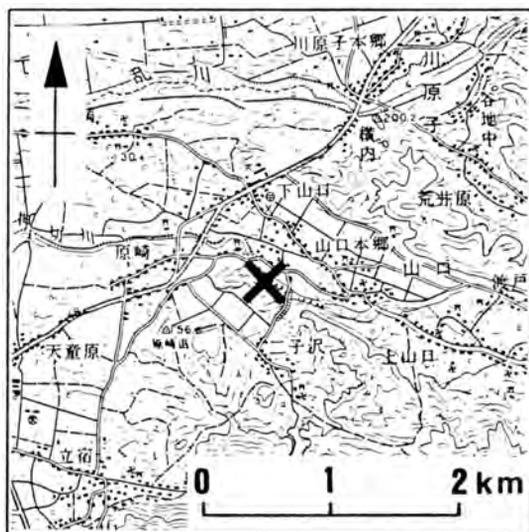


図1 化石の産地 (×)

(国土地理院発行5万分の1地形図「橋岡」を使用)

* 山形県立博物館

** 山形大学教養部地学教室

表 1 山形県の昆虫化石の産地と時代

	産地	層準	時代	産出状況	文献
1	鶴岡市由良白山島	五十川層	EM	△	1)
2	鶴岡市岡山	善宝寺層	EM	△	2)
3	最上郡真室川町及位赤倉	雄勝川層	EM	△	2)
4	最上郡最上町赤倉	管ノ平層	LM?	○	2)
5	村山市樽石	地層名未定	LM~P	△	3)
* 6	天童市原崎	山口層	LM	△	4)・5)
7	東置賜郡高畠町上和田	和田層	LM	○	6)
8	東置賜郡川西町玉庭大休場	手ノ子層	P	△	2)

* 本報告, EM: 前期中新世 LM: 後期中新世 P: 鮮新世, △: 産生まれ ○: 多産
 1) 藤山(1985) 2) FUJIYAMA(1983) 3) 山野井(1986) 4) 天童市理科教育センター(1986)
 5) 藤田MS(1972) 6) 菊地・東海林(1972)

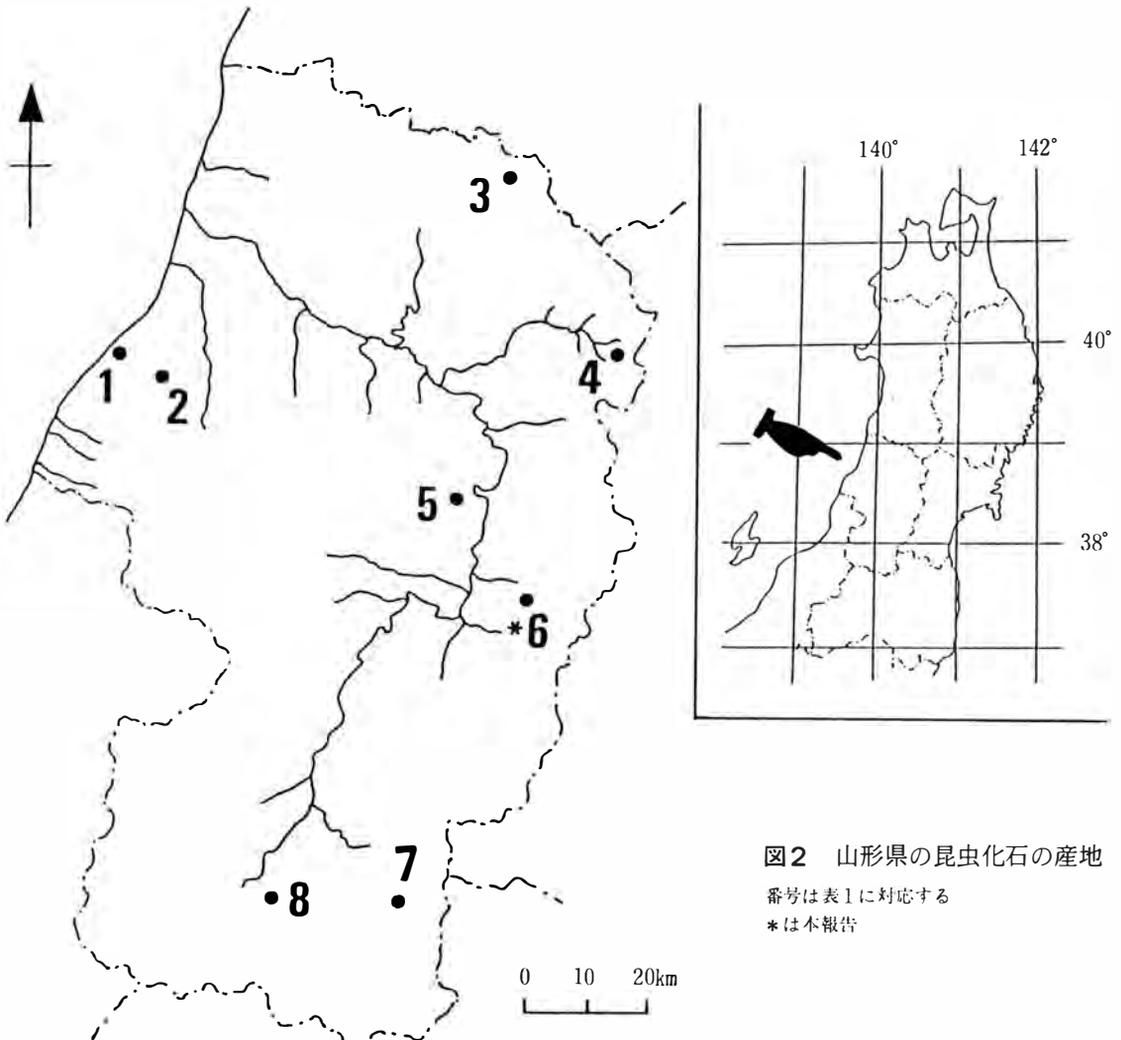


図 2 山形県の昆虫化石の産地

番号は表 1 に対応する

* は本報告

II 地質概説

層序：化石産地の天童市原崎を含む山形盆地東方地域の地質については、これまでも検討されており、主な研究に、斎藤(1960)・FUNAYAMA(1961)・天野(1980)・吉田ほか(1981)・舟山(1985)・吉田(1985)などがある。また原崎の露頭については、天童市理科教育センター(1986)が解説している。

この地域の層序を図3に示す。北村編(1986)によると脊梁山脈の両翼部では、後期中新世になって各地でカルデラ形式を伴う陸成の大規模な酸性火砕岩の活動が起こったとされる。この時代の地層として図3の猪野沢層・山寺層・上野台層・山口層がある。これらの地層では、陸水とその背後の火山活動に関連する堆積現象が観察される。

この地域からの化石は、湖成層である葉理の発

達した凝灰質シルト岩層から主に産する。化石はほとんどが植物で、これまでに猪野沢層から天野(1980)、山口層から斎藤(1958MS・1960)・天野(1980)・青山(1982MS)などの報告がある。ただし、これらのなかに昆虫化石の報告はない。

本報告の昆虫化石は、山口層から産出したものである。本層は、図3のように層序的にこの地域の新第三系最上位の地層である。その分布は、模式地の天童市山口から北東方向と南西方向にかけて、盆地東縁部の丘陵地に狭く限られている。また一部は、やや北方の東根市本郷付近にも分布している。

産出層準：昆虫化石を産出した露頭は、天童市街からやや東方にある原崎付近の採石場である。ここでは過去の開発工事によって山口層の好露頭が出現していた。しかし前述したように、最近になって再開された採石のため、露頭の一部はすでに失われてしまった。

この採石場で観察される山口層は、層理が良く発達して、走向が概ねN60°Eで盆地側に約10°とゆるく傾斜する構造をもつ。採石場での山口層の厚さは約25mで、その柱状は図4のように模式化できる。

露頭の下位の岩相は、シルトの偽礫を含む塊状無層理の軽石凝灰岩層である。偽礫は、中礫から大礫サイズの円礫状のものが多く、ときにヒモ状の断面を呈し、風化のすすんだものは細片となって剥離してくる。この層準に多量に含まれる軽石は、中礫サイズで亜円礫状のものが多く、軽石内部が繊維状に発泡している。また、淘汰の悪い礫も混入している。

中位から上位にかけての岩相は、大きくみて、無層理の砂質凝灰岩層と葉理の発達した凝灰質シルト岩層との、数mのオーダーでの互層である。砂質凝灰岩層は、細礫から中礫サイズの繊維状の軽石とともに、粗粒砂サイズの円磨度の低い石英

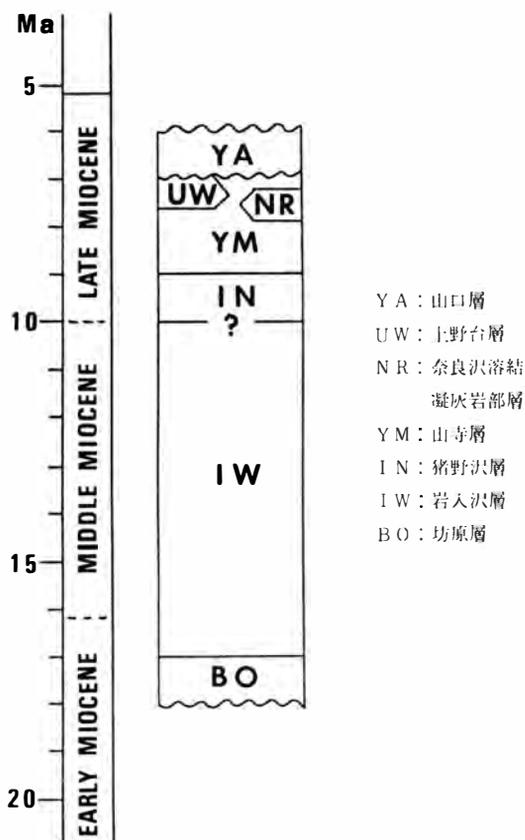


図3 山形盆地東方地域の層序(北村編,1986による)

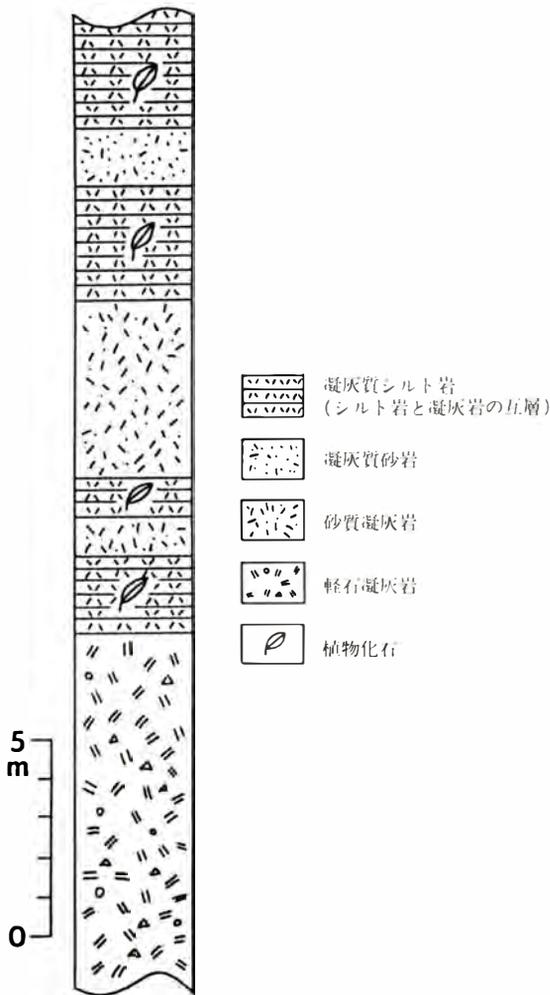


図4 化石産地の模式柱状図

粒子が多く含まれる。凝灰質シルト岩層は、厚さ数mmから数cmのオーダーの、シルト質と凝灰質と軽石質の薄層の互層から成る。このため葉理構造が顕著であり、このほかにも内部にクロスラミナ・ロードキャスト・フレーム構造などの堆積構造が観察される。凝灰質シルト岩層の内部には、しばしば厚さ10数cmから数10cmの無葉理の砂質凝灰岩層が何枚か挟まれている。中位から上位にかけての層準では、より上位ほどシルト質の割合が増加している。

これらのうち、植物化石を含む層準は、中・上位に発達する凝灰質シルト岩層で、化石は内部のシルト質の薄層から良く産出する。植物化石は、有機質の溶脱した印象化石であり、葉脈が明瞭な植物葉片化石のほか、植物破片が掃き集め状に密集して産することもある。

本報告の昆虫化石は、植物化石と同じく印象化石である。これらの化石は、実際は転石から得られたため、図4のどの層準から産出したかはわからない。ただし、昆虫化石を含む石の岩質と、植物化石の産出を確認できる層準の岩質とは酷似することから考えて、昆虫化石は図4の中・上位に発達する凝灰質シルト層のいずれかの層準で産出したことは疑いないと考える。

なお、このほか原崎の採石場からは、1985年にコイ科の魚化石(山形大学教養部所蔵)が1点発見

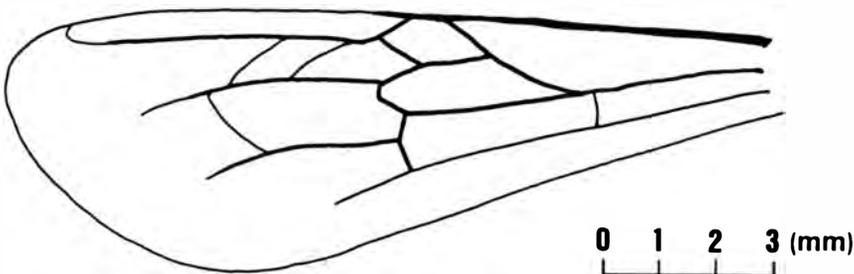


図5 標本：*Apis* sp.の翅脇

されていることを付記しておきたい。

III 標本の記載

標本 1

Order Hymenoptera 膜翅目

Suborder Apocrita 細腰亜目

Superfamily Apoidea ミツバチ上科

Family Apidae ミツバチ科

Apis sp. ミツバチ属の一種

(図版 I, 図 5)

産地 山形県天童市原崎 原崎沼から北東約
0.5kmの丘陵

層準 上部中新統山口層

採集 1988年 山野井徹

所蔵 山形大学教養部地学教室

計測値 体長22.8mm 腹部長14.0mm

腹部の厚さ7.1mm 前翅長15.7mm

記載：標本は右側面の化石で、ほぼ全身と左右の前後翅が保存されている。触角は基部は不明瞭だが、末端方向ではほぼ同じ太さの環節が連なり糸状を呈する。胸部には右の前・後脚が残っており、表面には密毛が存在する。後脚の脛節と第1跗節は特に太く、第2跗節より末端にかけては細い。脛節末端には、距が認められない。翅脈は明瞭である(図5)。腹部は太くやや長い。腹節は明瞭で、各腹節の末端方向の約2/3が濃色にふちどら

れている。腹部と胸部の境界はかすかにくびれている。

同定：前翅では、径室が狭く細長く、その前後縁が平行なことや、第3肘室が斜めであることなど、現生のミツバチ属 *Apis* の翅脈と一致する。また後足の脛節に距を欠いている。これらから判断して、ミツバチ属の一種 *Apis* sp. と同定される。

付記：日本産の昆虫化石のうちで、ミツバチ属 *Apis* の報告は、これまで FUJIYAMA (1970) による長崎県杵岐の中新統から産出した *Apis* sp. が唯一である。藤山(私信)によれば、国内ではこのほか小型の前翅が鳥取県辰巳峠の上部中新統から発見されているものの、世界的にみてもミツバチ属 *Apis* の化石は、バルトこはく(古第三紀始新世)以後、わずかに数種の記録しかないという。こうした状況から、当標本は大変貴重な化石であると考えられる。

また当標本は、ミツバチ属 *Apis* とすれば大型であるのが一つの特徴である。

標本 2

Order Hymenoptera 膜翅目

Suborder Apocrita 細腰亜目

Superfamily Formicoidea アリ上科

Family Formicidae アリ科

Camponotus ? sp. オオアリ属(?)の一種

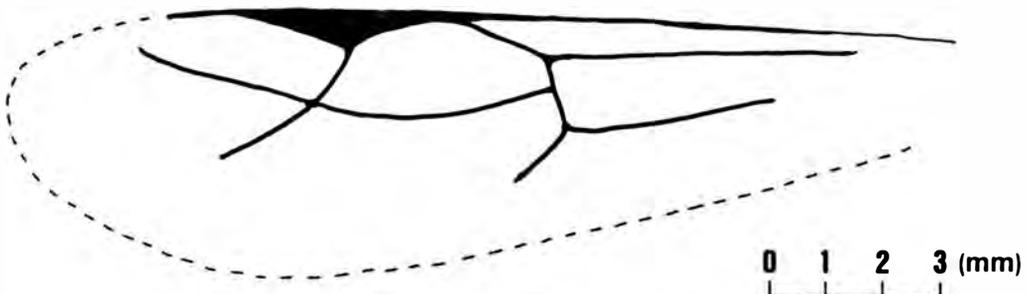


図6 標本2 : *Camponotus*? sp. の翅脈

(図版 I, 図 6)

産地・層準は標本 1 に同じ

採集 1984年 山野井徹

所蔵 山形大学教養部地学教室

計測値 体長13.8mm 腹部長9.2mm 腹部幅
3.6mm 前翅の残存部の長さ14.5mm

記載：標本は腹面の化石で、やや不明瞭ながら頭部も認められる。翅は左前翅が保存されている。脚は右中脚と左中・後脚が残っている。腹部はふくらみが大きく、腹節が明瞭である。胸部と腹部は細くくびれて連結しており、胸部は腹部に比較して幅が狭い。翅脈は比較的明瞭である(図 6)。

同定：胸部や腹部および脚の形態からアリ科と考えられ、加えて翅の中央上部で翅脈が X 字状に交叉していることから、オオアリ属の一種 *Camponotus* sp. と考えられる。

標本 3

Order Hemiptera 半翅目



図 7 標本 3 : Scutellerinae ? の翅脈

Suborder Heteroptera 異翅亜目

Family Pentatomidae カメムシ科

Subfamily Scutellerinae ? キンカメムシ亜科

(?)

Gen. et sp. indet.

(図版 I, 図 7)

産地・層準は標本 1 に同じ

採集 1989年 稲毛 実

所蔵 山形県立博物館

計測値 腹部長13.5mm 腹部幅13.0mm
後翅長13.8mm

記載：標本は頭・胸部が欠損した腹部背面の化石で、右後翅が保存されている。腹部は全体的に丸く幅広く大型で、腹節も明瞭である。結合板は比較的幅広く、結合板上の方形の色斑が腹節を境にして狭く隣接している。色斑の表面には、細かで密な点刻がある。翅脈は明瞭である(図 7)。

同定：腹部が丸型で大きく、結合板も幅広いことや、色斑の模様および翅脈相から、カメムシ科 Pentatomidae と判断され、さらに当標本はキンカメムシ亜科 Scutellerinae の可能性が考えられる。

IV ま と め と 課 題

- 1) 昆虫化石を産出した層準は、上部中新統山口層の葉理構造の発達する凝灰質シルト岩層である。
- 2) 同層からは植物化石が多産しているほか、コイ科の魚化石も産出している。
- 3) 産出した昆虫化石 3 標本は、翅脈等を検討した結果、それぞれミツバチ属の一種、オオアリ属(?)の一種、キンカメムシ亜科(?)と同定された。
- 4) このうちのミツバチ属の化石は、日本での産出例が極めて少ないことから、貴重な標本といえる。

昆虫化石の意義は、過去の昆虫相の変遷を知る上での最も基本となる資料であるとともに、野尻湖昆虫グループ編(1985)も指摘するように、昆虫

が特定の植物との関連が深い場合、古植生や古気候の検討に有効な資料となるものである。

山形県ではこれまで昆虫化石があまり注目されない傾向にあったと思われ、県内には未報告の産地や標本がまだあると考えられる。従って今後の課題として、こうした昆虫化石についての研究を、山形県の過去の昆虫相を知るためとともに、古環境を検討する資料としても、層序的検討と合わせて積極的にすすめていく必要があると考える。

最後に、本報告が昆虫化石研究の一資料となり、あるいは今後の新たな研究のきっかけとなれば幸いである。

謝 辞 本報告の1つのカメムシ科の昆虫化石は、本館職員稲毛実氏によって採集され本館に收藏された標本である。また化石の採集にあたっては、採石場の菊地建設(株)(天童市)より、快く許可していただいた。

本稿をまとめるにあたって、山形工業高校の鈴木雅宏校長および天童中部小学校の青山良雄教諭からは、天童市原崎の昆虫化石の産出状況についての情報を提供していただいた。本館囑託の木俣繁先生からは、昆虫の形態全般にわたって御教示いただき、文献や現生昆虫標本を提供していただいた。元国立科学博物館古生物第二研究室長の藤山家徳博士からは、当標本の同定について指導していただき、文献や現生昆虫標本を提供していただくとともに、標本記載についての原稿を校閲していただいた。同博物館古生物第三研究室長の上野輝彌博士からは、天童市原崎産の魚化石を同定していただいた。

ここに記して、以上の方々に深く感謝申し上げる。

文 献

天野一男, 1980: 奥羽脊梁山脈宮城・山形県地域

の地質学的研究. 東北大理地質古生物邦報, no. 81, 1-56.

青山雄二, 1982MS: 山形県天童市原崎付近における新第三系の層序学的研究—特に植物化石について. 山形大教育卒論.

藤田幸夫, 1972MS: 上和田産第三紀大型植物化石群について. 昭和46年度内地留学報告書, 137-161, pls.1-2.

FUJIYAMA, I., 1970: Fossil insects from the Chôjajbaru Formation, Iki Island, Japan. *Mem. Natn. Sci. Mus.*, no. 3, 65-74, pl.15.

———, 1973: Mesozoic insect fauna of East Asia Part I. Introduction and Upper Triassic faunas. *Bull. Natn. Sci. Mus.*, 16, 331-386, pls.1-5.

———, 1983: Neogene Termites from Northeastern districts of Japan, with references to the occurrence of fossil insects in the districts. *Mem. Natn. Sci. Mus.* no.16, 83-97, pl.7.

藤山家徳, 1985: 佐渡島関の前期中新世化石昆虫相. 国立科博専報, no.18, 35-56, pls.3-5.

FUNAYAMA, Y., 1961: The geology and geological structure in the marginal areas of the Yamagata Basin, with special reference to the ore deposits, Yamagata Prefecture, Japan. *Sci. Rep. Tohoku Univ.*, 2nd Ser. (Geol.) 7, 189-291.

舟山裕士, 1985: 山形盆地東縁部の新第三系について. 皆川信弥教授記念論文集 山形県地質誌, 141-157.

菊地俊彦・東海林秀矩, 1972: 山形県産昆虫化石について. 山形城北女子高校紀要.

北村 信編, 1986: 新生代東北本州弧地質資料集 島孤横断ルート, no.23. 宝文堂, 仙台.

野尻湖昆虫グループ編, 1988: 昆虫化石ハンドブ

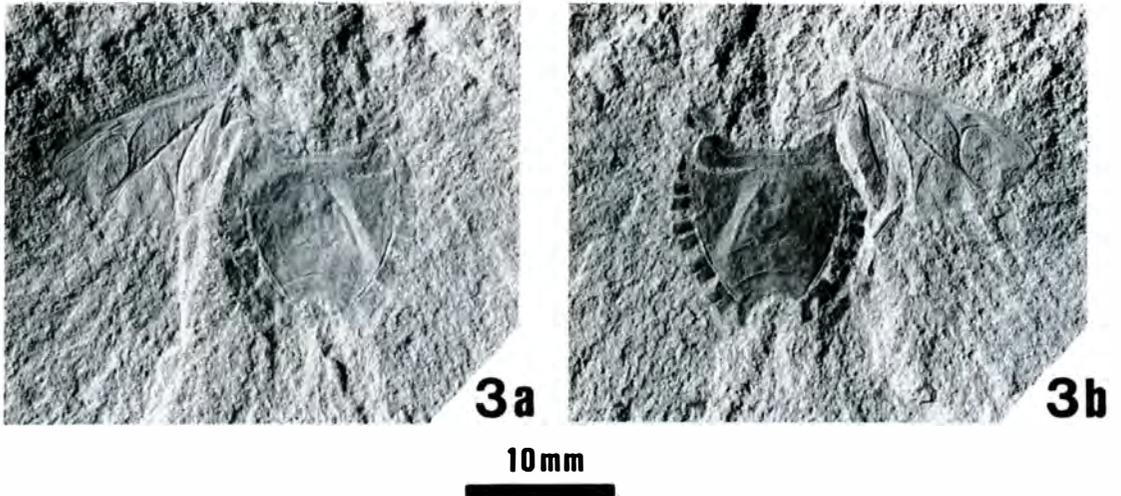
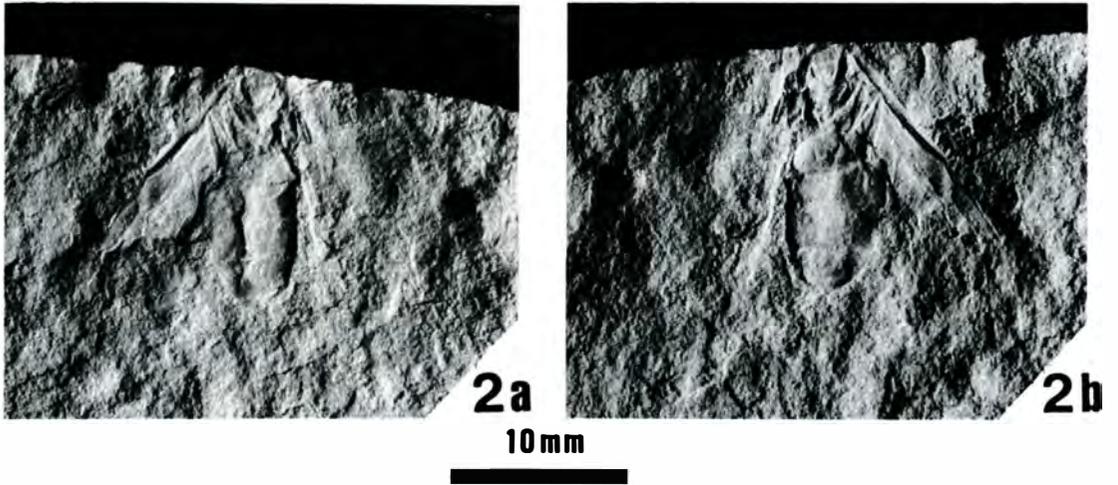
- ック, 126p., ニューサイエンス社, 東京.
- 斎藤常正, 1958MS: 山形盆地北東部の地質. 東北
大地質古生物卒論.
- , 1960: 宮城・山形県境付近脊梁山地の
地質 I 脊梁山地西縁. 地質雑, 66, 157-169.
- 天童市理科教育センター編, 1986: 野外観察指導
手引 天童市内の地質編. 57p., 同センター.
- 山野井徹, 1986: 北山～樽石川周辺の地質. 山形
応用地質, no. 6, 58-60.
- 吉田三郎・加藤 啓・鈴木生男・安彦宏人, 1981:
5万分の1地質図幅「楯岡」及び同説明書, 山
形県.
- , 1985: 5万分の1地質図幅「楯岡」及
び同説明書, 山形県.

図版の説明

図版 I

- 1 標本1: *Apis* sp.
- 2 a・2 b 標本2: *Camponotus* ? sp.
- 3 a・3 b 標本3: *Scutellerinae* ?, gen. et sp. indet.

図版 I (長澤一雄・山野井徹)



山形県の蛾類分布資料(V)

囑託 木俣 繁

NOCTUIDAE ヤガ科 (1)

1 はじめに

県内の蛾の分布資料として、今回はヤガ科を取り上げることにしたが、県内からは現在のところ600種近い種類が発見されており、紙数等の関係から一度に全部を掲載することが出来ないで、*Pantheinae* ウスベリケンモン亜科、*Acronictinae* ケンモンヤガ亜科、*Bryophilinae* キノコヨトウ亜科、*Heliothinae* タバコガ亜科、*Noctuinae* モンヤガ亜科、*Hadeninae* ヨトウガ亜科、*Cucullinae* セダカモクメ亜科及び *Amphipyrynae* カラスヨトウ亜科の一部の8亜科を記載することにした。

この報告を纏めるにあたり、資料を提供、あるいは文献の引用をさせていただいた、東京の岸田泰則氏・春田俊郎氏、横浜の柳田慶浩氏、日野市の神保一義氏、浦和の市川和夫氏、仙台の渡辺義汎氏、新潟の佐藤力夫博士・桜井精氏・清野昭夫氏、白鷹町の加藤和彦氏、山形市の武田隆氏・横倉明氏、山形東高校の菊地賢治氏、鶴岡市の布施寛氏・水野重紀氏・佐藤勝氏・前田稔氏及び南陽市の伊藤之巳氏、また、標本を調べさせていただいた山谷文仁氏、更に常にヤガ科に関して種々ご指導をいただいている日本蛾類学会の杉繁郎氏に対して深く感謝の意を表する。

2 調査地域

調査地域は、所検標本や文献等に記された地域は次のとおりである。

山形市：山形市、本町、緑町、霞城公園、陣場、山寺、奥山寺、山寺遊仙峡、面白山、高瀬、高瀬戸沢、瀬ノ原山、村木沢、村木沢早坂林道、本沢、礫石、門伝大平、西藏王高原、宝沢、上宝沢、不動沢、笹谷峠、盃山、沼の辺、釈迦堂、新山、若木、滑川、二ツ橋、平清水、蔵王温泉
米沢市：館山、白布高湯
鶴岡市：由良、湯野浜、加茂
酒田市：酒田市、北千日町、北里町、松境、飛鳥
新庄市：新庄駅、新庄温泉
上山市：上山市、蔵王ライン、金瓶
村山市：北町、大久保、甌岳
長井市：白川ダム
天童市：荒谷
東根市：関山、柳沢、柳沢小屋、柳沢林道、寒風山木葉沢、水無山泥沢、滝の沢
尾花沢市：銀山温泉、御所山荘、鍋越峠
南陽市：吉野中、荻小、矢ノ沢、須刈田
山辺町：荒沼
中山町：岩谷
西川町：志津、志津月山荘、志津姥沢小屋、志津荒沢橋、弓張平、間沢、本道寺、月山沢、大井沢中村、大井沢日暮合小屋、上島
大江町：古寺、古寺鉱泉
真室川町：新及位
大蔵村：肘折温泉
小国町：叶水、沼沢、飯豊山荘
白鷹町：荒砥
藤島町：藤島

朝日村：下名川，荒沢ダム，八久和林道
 温海町：湯温海，温海岳
 遊佐町：吹浦，杉沢
 鳥海山：鳥海山，千疊ヶ原，河原宿，ソブ谷地，
 鳥ノ海，山頂，吹浦口，御浜，伏拝岳，御田
 朝日連峰：天狗小屋，天狗角力取場，天狗角力取
 山
 月山：鍛冶小屋，胎内岩
 蔵王連峰：蔵王山，ドッコ沼，観松平，御田神，
 坊平
 飯豊連峰：ヌクミ平，烏帽子岳，門内岳，与四太
 郎の池
 吾妻連峰：天元台，新高湯，吾妻温泉

3 目 録

現在まで筆者が見ることの出来た文献等に記録されたものも，疑問のあるものを除き，すべての種類を引用するとともに，未発表の資料としては，筆者の採集したもの，山形県立博物館所蔵の標本，故白畑孝太郎氏の標本の中から未発表のもの，山谷文仁氏の標本等筆者の見ることの出来た標本のすべてを記録することとした。

データの後ろ右肩に示した数字は，文献引用等を示したもので，本報文の最後に文献名をあげてあり，その文献の番号を示してある。また，データの後ろの()内に名前を書いてあるものは未発表の資料で，採集者の名前を記したものであり，(白畑)は白畑孝太郎氏，(山谷)は山谷文仁氏，(加藤)は加藤和彦氏，(横倉)は横倉明氏，(伊藤)は伊藤之巳氏，(木俣)は筆者で，(博物館)とあるのは，山形県立博物館所蔵のものである。

NOCTUIDAE ヤガ科

蛾類の中では最大の科で，日本からは900種を超える種類があり，県内からも現在までのところ578種が見つかっている。調査が進めば，県内から600

種を超える種類が見つかると思う。

Pantheinae ウスベリケンモン亜科

1 *Anacronicta nitida* (Butler) ウスベリケンモン

山形市本町 1 ♀，19610831(木俣)
 // 山寺 1 ♂，19760816(博物館)
 // 高瀬戸沢 2 ♂♂，19840703(木俣)
 // 西藏王高原 1 ♀，19840818¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 村木沢早坂林道 1 ♂，19890803(木俣)
 // 不動沢 2 ♂♂ 2 ♀♀，19880712⁴¹⁾

新庄市新庄温泉 19610615²⁾

上山市金瓶¹⁹⁾

村山市北町⁷⁾

尾花沢市銀山温泉 2 ♂♂，19860712⁴⁰⁾

中山町岩谷 1 ♂，19860628(木俣)

西川町志津¹⁸⁾³⁹⁾・1 ♂，19730706¹³⁾³⁹⁾・2 ♀♀，
 19870729³⁹⁾

// 志津月山荘 1 ♂，19850803¹⁷⁾³⁹⁾・5 ♂♂
 1 ♀，19880723³⁹⁾

小国町叶水 1 ♀，19740629(木俣)・3 ♂♂，
 19750614(木俣)

藤島町藤島 19570808³⁶⁾・19720809³⁶⁾・
 19730526³⁶⁾・19740609³⁶⁾

蔵王山 1 ♂，19620722(木俣)

2 *Anacronicta caliginea* (Butler) コウスベリケンモン

山形市本町 1 ♀，19610619(木俣)・1 ♀，
 19620731(木俣)

// 面白山 1 ♂，19750816⁹⁾

// 山寺 1 ♂，19770826(博物館)

// 西藏王高原 1 ♂，19830826¹⁰⁾

// 高瀬戸沢 1 ♀，19840804¹⁵⁾

// 村木沢¹⁹⁾

新庄市新庄温泉 19610615²⁾

注 目録中8桁の数字は採集年月日を表わす。(例 19610831は1961年8月31日)

- 上山市蔵王ライン 1♂, 19840707¹⁰⁾
 // 金瓶¹⁹⁾
 尾花沢市御所山荘 1♂, 19880613⁴⁰⁾
 南陽市吉野中 1♂, 19880608(伊藤)
 // 荻小 1♂, 19880608(伊藤)
 西川町間沢 1♀, 19750725⁵⁾
 // 志津 1♀, 1970820³⁸⁾³⁹⁾
 小国町沼沢 1♀, 19730626¹³⁾
 // 叶水 6♂♂, 19740629(木俣)・5♂♂,
 19750614(木俣)
 藤島町藤島 19590801³⁶⁾・19670528³⁶⁾・
 19710616³⁶⁾・19730816³⁶⁾・19730826³⁶⁾・
 19741010³⁶⁾
- 3 *Anacronicta plumbea* (Butler) ナマリケンモン
 西川町志津月山荘 1♀, 19850803¹⁷⁾³⁹⁾
 // 志津 1♀, 19860726¹⁸⁾³⁹⁾・1♀,
 19860824¹⁸⁾³⁹⁾・4♂♂1♀, 19870729³⁹⁾
 真室川町 1♂, 19620526²⁹⁾
 小国町叶水 1♂, 19740629(木俣)
 蔵王山 1♂, 19620722(木俣)
 蔵王連峰ドッコ沼 1♀, 19880807⁴¹⁾
- 4 *Trichosea ainu* (Wileman) ニセキバラケンモン
 米沢市白布高湯⁸⁾・1♂, 19650729³⁷⁾
 西川町志津¹⁸⁾・1♀, 19700819¹⁸⁾³⁷⁾³⁹⁾・1♂,
 19730706¹³⁾³⁹⁾・1♀, 19870729³⁷⁾³⁹⁾
 鳥海山千疊ヶ原⁸⁾・1♂, 19710726¹²⁾
 蔵王連峰観松平 1♂, 19710726³⁷⁾
 // 坊平 1♂, 19800817³⁷⁾
 // 御田神 1♂, 19840814¹⁰⁾³⁷⁾
- 5 *Trichosea ludifica* (Linnaeus) キタキバラケンモン
 蔵王連峰坊平 1♂, 19800817³⁷⁾
- 6 *Panthea coenobita idae* Bryk カラフトゴマケンモン
 山形市面白山 1♂, 19740824⁹⁾
 // 上宝沢 1♀, 19880821⁴¹⁾
 米沢市白布高湯 1♀, 19800802(木俣)
 尾花沢市御所山荘 1♀, 19870814⁴⁰⁾
 西川町大井沢日暮合小屋 1♀, 19540812
 // 間沢 1♂, 19730803⁴⁾
 鳥海山河原宿 19660800³⁾
 蔵王連峰坊平 1♂, 19800817(博物館)
- 7 *Colocasia jezoensis* (Matsumura) ネグロケンモン
 西川町間沢 1♀, 19660815⁴⁾
 // 志津姥沢小屋 2♂♂, 19830528¹⁶⁾¹⁸⁾³⁹⁾
 // 志津月山荘 1♀, 19850803¹⁷⁾³⁹⁾
 // 志津 3♂♂, 19860622¹⁸⁾³⁹⁾ (内1♂は博物館)・3♂♂, 19860824¹⁸⁾³⁹⁾ (内1♂は博物館)・5♂♂1♀, 19870820³⁹⁾ (内2♂♂は博物館)
 小国町飯豊山荘 1♂, 19680820³⁴⁾
 鳥海山ソブ谷地 19660800³⁾
 飯豊連峰ヌクミ平 1♂, 19680527¹⁴⁾・1♂,
 19680824¹⁴⁾
- Acronictinae ケンモンヤガ亜科
- 8 *Belciades neveola* (Motschulsky) アオケンモン
 山形市面白山 2♂♂, 19750719⁹⁾
 // 村木沢早坂林道 1♂, 19890829(木俣)
 米沢市白布高湯 1♂, 19800802(木俣)
 上山市蔵王ライン 1♂, 19840707¹⁰⁾
 東根市関山 1♂, 19780615(博物館)
 // 柳沢小屋 1♂, 19860728⁴⁰⁾
 尾花沢市銀山温泉 1♂, 19860712⁴⁰⁾
 山辺町荒沼 1♂, 19870827(木俣)・1♀,
 19880704(木俣)
 小国町叶水 1♂, 19740629(木俣)・1♂1♀,
 19750614(木俣)

朝日村荒沢ダム 1♂, 19820818(木俣)

9 *Moma alpium* (Osbeck)ゴマケンモン

山形市奥山寺 1♂, 19730630

〃 面白山 1♀, 19750630⁹⁾・1♂,
19750719(木俣)・1♂, 19750816⁹⁾・1♂1
♀, 19820619⁹⁾・1♂1♀, 19820710⁹⁾

〃 蔵王高原 2♂♂1♀, 19840614⁹⁾(内
1♂は博物館)・2♂♂2♀♀, 19840711¹⁰⁾
(内1♂1♀は博物館)・1♂, 19840818¹⁰⁾

〃 高瀬戸沢 3♀♀, 19840703¹⁵⁾

〃 不動沢 2♀♀, 19840714(木俣)⁴¹⁾・1
♀, 19880622⁴¹⁾

〃 村木沢¹⁹⁾

〃 村木沢早坂林道 1♀, 19890714(木俣)

〃 門伝大平 1♀, 19850708(木俣)

〃 上宝沢 1♀, 19880709⁴¹⁾・1♀,
19880821⁴¹⁾・1♀, 19890730(木俣)

〃 本沢 2♀♀, 19890727(木俣)

上山市蔵王ライン 2♂♂3♀♀, 19840707¹⁰⁾
(内1♂は博物館)

〃 金瓶¹⁹⁾

村山市北町⁷⁾

天童市荒谷 1♂, 19820804⁹⁾

東根市柳沢 1♂, 19860728⁴⁰⁾

西川町間沢 1♀, 19660813⁴⁾・1♂1♀,
19730804⁴⁾

〃 志津 1♀, 19750725⁶⁾¹⁸⁾³⁹⁾・1♀,
19860726¹⁸⁾³⁹⁾・2♂♂, 19860824¹⁸⁾³⁹⁾

〃 志津荒沢橋 2♀♀, 19850715¹⁸⁾³⁹⁾

〃 志津月山荘 1♀, 19850803¹⁷⁾³⁹⁾・2♂♂
2♀♀, 19880723³⁹⁾

小国町飯豊山荘 1♂2♀♀, 19680820³⁴⁾・1
♀, 19680721³⁵⁾

〃 叶水 4♂♂, 19740629(木俣, 内1♂は
博物館)・4♂♂3♀♀, 19750614(木俣, 内
1♂は博物館)

藤島町藤島 19720704³⁶⁾

温海町温海岳 1♂, 19890825(木俣)

蔵王連峰ドッコ沼⁴¹⁾

10 *Moma fulvicollis* (Lattin)キクビゴマケンモ
ン

西川町志津月山荘 1♀, 19850803¹⁷⁾

〃 志津 1♂, 19860726¹⁸⁾・1♀, 19870729

11 *Nacna malachitis* (Oberthur)ニッコウアオ
ケンモン

山形市本町 1♀, 19580912(木俣)・1♀,
19610831(木俣)

〃 村木沢¹⁹⁾

〃 不動沢 1♂, 19840714¹⁰⁾⁴¹⁾・1♂,
19880712⁴¹⁾

上市市金瓶¹⁹⁾

東根市寒風山木葉沢 2♂♂, 19850629⁴⁰⁾(内
1♂は博物館)

西川町志津 1♂1♀, 19750725⁶⁾・2♂♂,
19860824¹⁸⁾・1♂, 19870729

〃 志津荒沢橋 6♂♂, 19850715¹⁸⁾(内2
♂♂は博物館)

〃 志津月山荘 1♀, 19880723

大江町古寺鉱泉 3♂♂, 19850720(木俣, 内1
♂は博物館)

大蔵村肘折温泉 1♂, 19860703(木俣)

小国町叶水 2♂♂2♀♀, 19750614(木俣)

藤島町藤島 19720828³⁶⁾

温海町温海岳 1♂1♀, 19890825(木俣)

鳥海山河原宿 19660800³⁾

〃 鳥ノ海 19660800³⁾

12 *Nacna sugitanii* (Nagano)スギタニアオケ
ンモン

山形市面白山 1♂1♀, 19750719⁹⁾(内1♀は
博物館)

上市市蔵王ライン 1♂, 19840707¹⁰⁾

〃 金瓶¹⁹⁾

- 鳥海山ソブ谷地 19660800³⁾ 19840711¹⁰⁾
 蔵王連峰坊平 1♂, 19800817(博物館) // 村木沢¹⁹⁾
 // 御田神 1♂, 19840730¹⁰⁾ // 村木沢早坂林道 1♀, 19890714(木俣)
 // 上宝沢 1♂1♀, 19890730(木俣)
 13 *Harrisimemna marmorata* Hampson スギタ
 ニゴマケンモン
 米沢市白布高湯 1♂, 19800802(木俣)
 山形市面白山 1♂, 19740824⁹⁾ 上山市金瓶¹⁹⁾
 // 村木沢 1 ex.,19840830¹⁹⁾ 村山市大久保⁷⁾
 東根市柳沢小屋 1♂1♀, 19860728⁴⁰⁾ 尾花沢市御所山荘 3♂♂, 19870814⁴⁰⁾
 西川町志津荒沢橋 2♂♂, 19850715¹⁸⁾³⁹⁾ 山辺町荒沼 1♂, 19880704(木俣)
 // 志津 1♀, 19870729³⁹⁾・3♂♂2♀♀, 中山町岩谷 1♀, 19860803(木俣)
 19870820³⁹⁾ 西川町間沢 2♂♂, 19730804⁴⁾
 小国町飯豊山荘 1♂, 19680820³⁴⁾・1♂, // 志津荒沢橋 3♂♂, 19850715¹⁸⁾³⁹⁾
 19680721³⁵⁾ // 志津 6♂♂, 19860824¹⁸⁾³⁹⁾・1♂2♀
 小国町 1♀, 19710902(山谷) ♀, 19870729³⁹⁾・1♂, 19870820³⁹⁾
 鳥海山鳥ノ海 19660800³⁾ 小国町飯豊山荘 1♂, 19680820³⁴⁾
 14 *Gerbathodes angusta* (Butler) ヒメケンモン 藤島町藤島 19710622³⁶⁾・19740803³⁶⁾・
 山形市村木沢 1 ex.,19840823¹⁹⁾ 19750716³⁶⁾
 15 *Gerbathodes paupera* (Staudinger) シロフヒ 朝日村荒沢ダム 1♂, 19820818(木俣)
 メケンモン 鳥海山ソブ谷地 19660800³⁾
 山形市奥山寺 1♀, 19730630⁹⁾ 蔵王連峰坊平 1♂, 19790728¹⁰⁾・1♂,
 // 西藏王高原 1♂, 19840711¹⁰⁾ 19800817¹⁰⁾
 // 不動沢 1♂, 19880712⁴¹⁾ // ドッコ沼⁴¹⁾
 // 上宝沢⁴¹⁾・1♀, 19890730(木俣)
 上山市蔵王ライン 1♀, 19840707¹⁰⁾
 小国町叶水 1♀, 19750614(木俣)
 16 *Acronicta leporina leporella* Staudinger シ 18 *Hyboma adaucta* (Warren) サクラケンモン
 ロケンモン 山形市山寺 1 ex.,19770603(博物館)
 山形市村木沢 1♂, 19850610¹⁹⁾ // 面白山 1♂, 19820619⁹⁾・1♂,
 西川町志津荒沢橋 1♀, 19840715¹⁸⁾³⁹⁾ 19820710⁹⁾
 // 西藏王高原 1♂, 19830826¹⁰⁾・1♂,
 // 志津 1♀, 19870729³⁹⁾ 19840614・1♂, 19840818¹⁰⁾
 蔵王連峰御田神 1♂, 19840730¹⁰⁾ // 村木沢¹⁹⁾
 // 村木沢早坂林道 1♀, 19890803(木俣)
 // 門伝大平 1♂1♀, 19890601(木俣)
 17 *Acronicta major* (Bremer) オオケンモン 上山市金瓶¹⁹⁾
 山形市本町 2♂♂, 19620805(木俣) 村山市北町⁷⁾
 // 面白山 1♀, 19750816⁹⁾ // 大久保⁷⁾
 // 山寺 1♂, 19770603(博物館) 天童市荒谷 1♂, 19820831・1♂, 19820901・
 // 西藏王高原 1♀, 19830826¹⁰⁾・1♂, 1♂, 19820913

- 東根市関山 1 ♂, 19780615(博物館)
 山辺町荒沼 1 ♀, 19880704(木俣)
 西川町間沢 2 ♂♂ 2 ♀♀, 19730804⁴⁾
 藤島町藤島 19710615³⁶⁾
 温海町温海岳 2 ♂♂ 1 ♀, 19890825(木俣)
- 19 *Molybdonycta omorii* (Matsumura) オオモリケンモン
 酒田市 1 ♀, 19490524²¹⁾
 藤島町藤島 1 ♂, 19630528³⁶⁾・19710608³⁶⁾・19710808³⁶⁾・19750512³⁶⁾
- 20 *Platyclepta tegminalis* (Sugi) ハイイロケンモン
 山形市本町 2 ♂♂, 19600920(木俣)・1 ♀, 19610520(木俣)
 酒田市 1 ♂, 19590702(白畑)・1 ♂, 19610707¹⁴⁾・1 ♀, 19620727(白畑)
 上山市金瓶¹⁹⁾
 南陽市吉野中 1 ♂, 19880515(伊藤)
 // 中ノ沢 1 ♂, 19880821(伊藤)
 小国町叶水 2 ♂♂ 1 ♀, 19750614(木俣)
- 21 *Platyclepta pruinosa consanguis* (Butler) アサケンモン
 上山市金瓶¹⁹⁾
- 22 *Triaena tridens* (Denis et Schiffermüller) ヒメリンゴケンモン
 山形市山寺 1 ♂, 19770603(博物館)・1 ♂, 19780603(博物館)
 上山市金瓶¹⁹⁾
 西川町間沢 1 ♂, 19730804⁴⁾
- 23 *Triaena intermedia* (Warren) リンゴケンモン
 山形市本町 1 ♂, 19610502(博物館)・1 ♂, 19610509(博物館)・2 ♂♂, 19620801²²⁾(木俣)・1 ♂, 19620805(木俣)
 // 緑町 1 ♂, 19610509(博物館)
 // 山寺 2 ♂♂, 19770603(博物館)・2 ♂♂, 19770606(博物館)・1 ♀, 19770628(博物館)・1 ♂, 19780603(博物館)
 // 西蔵王高原 1 ♂, 19840614¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 村木沢早坂林道 1 ♂, 19890614(木俣)
 新庄市新庄温泉 19610615²⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 西川町間沢 4 ♂♂ 3 ♀♀, 19730804⁴⁾
 藤島町藤島 19710606³⁶⁾・19710630³⁶⁾・19720716³⁶⁾・19730907³⁶⁾
 鳥海山河原宿 19660800³⁾
- 24 *Triaena cuspsis* (Hübner) オオホソバケンモン
 上山市金瓶¹⁹⁾
 南陽市吉野中 1 ♂, 19880622(伊藤)
 西川町間沢 1 ♂, 19660814⁴⁾・3 ♂♂, 19730804⁴⁾
 // 志津 1 ♂, 19750725⁶⁾¹⁸⁾³⁹⁾・2 ♀♀, 19860824³⁹⁾
 藤島町藤島 19610712³⁶⁾・19750731³⁶⁾
- 25 *Triaena leucocuspis leucocuspis* (Butler) キハダケンモン
 山形市村木沢¹⁹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 藤島町藤島 19710720³⁶⁾
- 26 *Jocheaera alni* (Linnaeus) ハンノケンモン
 山形市不動沢 1 ♂, 19880622⁴¹⁾
 東根市柳沢小屋 1 ♀, 19860728⁴⁰⁾
 尾花沢市御所山荘 1 ♀, 19870814⁴⁰⁾
 西川町志津荒沢橋 1 ♂, 19850715¹⁸⁾³⁹⁾
 // 志津 1 ♂, 19860726¹⁸⁾³⁹⁾
- 27 *Hylomyza catocaloida* (Graeser) キシダケンモン
 山形市盃山 1 ♂, 19610715
 // 西蔵王高原 1 ♂, 19840711¹⁰⁾
 // 高瀬瀬戸 1 ♂, 19840804¹⁵⁾

- // 上宝沢 1 ♀, 19880709⁴¹⁾
 上山市蔵王ライン 2 ♂♂, 19840707¹⁰⁾
 // 金瓶¹⁹⁾
 尾花沢市銀山温泉 1 ♂, 19860712⁴⁰⁾
 // 御所山荘 1 ♂, 19870814⁴⁰⁾
 西川町間沢 6 ♂♂ 2 ♀♀, 19730804⁴⁾
 // 志津荒沢橋 1 ♀, 19850715¹⁸⁾³⁹⁾
 朝日村荒沢ダム 2 ♂♂, 19820818(木俣)
- 28 *Hylonycta hercules* (Felder et Rogenhofer)
 シロシタケンモン
 山形市山寺 1 ♂, 19770826(博物館)
 // 蔵王高原 1 ♂, 19830826¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 不動沢 1 ♀, 19880622⁴¹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 山辺町荒沼 1 ♂, 19880704(木俣)
 西川町弓張平 1 ♂, 19880616³⁹⁾
 // 志津月山荘 1 ♂, 19880723³⁹⁾
 藤島町藤島 19710630³⁶⁾・19710802³⁶⁾・
 19730708³⁶⁾・19740619³⁶⁾・19740908³⁶⁾・
 19760723³⁶⁾
- 29 *Viminia remicis* (Linnaeus) ナシケンモン
 山形市本町 1 ♀, 19600727(木俣)・1 ♀,
 19600916(木俣)・3 ♀♀, 19600920(木俣)・
 1 ♂ 1 ♀, 19600921(木俣)・1 ♂, 19600922
 (木俣)・1 ♀, 19600924(木俣)・1 ♀, 19601006
 (木俣)・1 ♂, 19610502(木俣)・1 ♀, 19610503
 (木俣)・1 ♂, 19610503(博物館)・1 ♂,
 19610504(木俣)・1 ♂ 2 ♀♀, 19610504(博物
 館)・1 ♀, 19610511(木俣)・1 ♀, 19610516
 (木俣)・1 ♂, 19610520(木俣)・2 ♀♀,
 19610711(木俣)・1 ♀, 19610821(木俣)・2
 ♀♀, 19610902(木俣)
 // 緑町 1 ♀, 19610507(木俣)
 // 山寺 1 ♂, 19770603(博物館)・1 ♀,
 19770804(博物館)
- // 面白山 1 ♂, 19820530⁹⁾・1 ♀,
 19820710⁹⁾
 // 蔵王高原 1 ♂ 1 ♀, 19830826¹⁰⁾・1
 ♀, 19830826¹⁰⁾・3 ♂♂ 1 ♀, 19840529¹⁰⁾・1
 ♀, 19840711¹⁰⁾・1 ♂, 19840915
 // 不動沢 1 ♂, 19840604¹⁰⁾⁴¹⁾
 // 瀬ノ原山 1 ♂, 19840607¹⁵⁾
 // 高瀬戸沢 1 ♀, 19840804¹⁵⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 上宝沢 1 ♀, 19880709⁴¹⁾
 // 本沢 1 ♀, 19890727(木俣)
 米沢市館山 1 ♀, 19700823(加藤)・1 ♂,
 19700827(加藤)・1 ♀, 19700831(加藤)
 // 白布高湯 1 ♀, 19800802(木俣)
 酒田市 1 ♀, 19580919¹⁴⁾・1 ex., 19590524¹²⁾・
 1 ♂, 19590711¹⁴⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市大久保⁷⁾
 // 甑岳⁷⁾
 天童市荒谷 2 ♀♀, 19800909⁹⁾・1 ♂,
 19820902⁹⁾
 東根市関山 1 ♀, 19780721(博物館)
 中山町岩谷 2 ♀♀, 19860803(木俣)
 西川町大井沢中村⁸⁾・1 ♀, 19610805(博物館)
 // 間沢 2 ♂♂, 19730804⁴⁾
 大江町古寺 1 ♀, 19790902¹²⁾
 小国町叶水 1 ♀, 19740629(木俣)・1 ♂ 2 ♀
 ♀, 19750614(木俣)・2 ♀♀, 19760530(木俣)
 藤島町藤島 19560812³⁶⁾・19710628³⁶⁾・
 19740816³⁶⁾・19750429³⁶⁾
 蔵王連峰坊平 1 ♂, 19800817¹⁰⁾
 // 観松平 1 ♀, 19870718(木俣)
- 30 *Viminia lutea leucoptera* (Butler) ウスジロ
 ケンモン
 上山市金瓶 1 ♂, 19760516¹⁹⁾・1 ♀,
 19770609¹⁹⁾

- 31 *Craniophora ligustri* (Denis et Schiffermüller) イボタケンモン
 上山市金瓶 1 ex., 19780909¹⁹⁾
 尾花沢市御所山荘 6 ♂♂, 19870814⁴⁰⁾ (内 2 ♂♂は博物館)・1 ♂, 19880613⁴⁰⁾
 西川町志津 3 ♂♂ 4 ♀♀, 19870820³⁸⁾³⁹⁾ (内 1 ♂ 1 ♀は博物館)
 藤島町藤島 19760902³⁶⁾・19760915³⁶⁾
 温海町温海岳 1 ♀, 19890825(木俣)
 蔵王連峰ドッコ沼 1 ♀, 19880807⁴¹⁾
- 32 *Craniophora praeclara* (Graeser) ニッコウケンモン
 山形市村木沢¹⁹⁾
 // 面白山 1 ♂, 19750816⁹⁾
 // 西蔵王高原 1 ♀, 19840818¹⁰⁾
 // 不動沢 1 ♂, 19880622⁴¹⁾・1 ♂ 2 ♀♀, 19880712⁴¹⁾
 米沢市館山 1 ♂, 19700831(加藤)
 // 白布高湯 1 ♀, 19800802(木俣)
 上山市蔵王ライン 1 ♂ 1 ♀, 19840707¹⁰⁾
 尾花沢市銀山温泉 1 ♂, 19860712⁴⁰⁾
 南陽市荻小 1 ♂, 19880615(伊藤)
 西川町志津月山荘 1 ♂, 19850803¹⁷⁾³⁹⁾・1 ♂ 1 ♀, 19880723³⁹⁾
 // 志津 3 ♂♂ 2 ♀♀, 19860824¹⁸⁾³⁹⁾ (内 1 ♂ 1 ♀は博物館)・2 ♀♀, 19870729³⁹⁾・2 ♂♂ 3 ♀♀, 19870820³⁹⁾ (内 1 ♂は博物館)
 朝日村荒沢ダム 1 ♂, 19820818(木俣)
 鳥海山鳥ノ海 19660800³⁾
 // 河原宿 19660800³⁾
 // ソブ谷地 19660800³⁾
 朝日連峰天狗小屋⁸⁾・2 ♀♀, 19540814¹⁴⁾
 蔵王連峰坊平 1 ♀, 19800817¹⁰⁾
 // 御田神 1 ♂, 19840730¹⁰⁾
 // 観松平 2 ♂♂ 1 ♀, 19870718(木俣, 内 1 ♂は博物館)
- // ドッコ沼 1 ♀, 19880807⁴¹⁾
- 33 *Craniophora jankowskii* (Oberthür) クロフケンモン
 山形市面白山 1 ♂, 19750816⁹⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 村木沢早坂林道 1 ♀, 19890803(木俣)
 上山市蔵王ライン 2 ♂♂, 19840707¹⁰⁾
 // 金瓶¹⁹⁾
 東根市寒風山木葉沢 1 ♀, 19850629⁴⁰⁾
 南陽市吉野中 1 ♂, 19880531(伊藤)・1 ex., 19880622(伊藤)
 西川町志津月山荘 3 ♂♂ 4 ♀♀, 19850803¹⁷⁾³⁹⁾・3 ♂♂ 1 ♀, 19880723³⁹⁾
 // 志津 3 ♂♂ 4 ♀♀, 19860824¹⁸⁾³⁹⁾ (内 2 ♂♂ 1 ♀は博物館)・2 ♀♀, 19870729³⁹⁾・1 ♂, 19870820³⁹⁾
 // 弓張平 19880616³⁹⁾
 温海町温海岳 10 ♂♂, 19890825(木俣)
 鳥海山ソブ谷地 19660800³⁾
 蔵王連峰ドッコ沼⁴¹⁾
- 34 *Narcotica niveosparsa* (Matsumura) シロフクロケンモン
 藤島町藤島 19730625³⁶⁾
- 35 *Lophonycta confusa* (Leech) アミメケンモン
 山形市村木沢¹⁹⁾
- Bryophilinae キノコヨトウ亜科
- 36 *Byromoa melachlora* (Staudinger) マルモンキノコヨトウ
 東根市柳沢林道 1 ♂, 19870902⁴⁰⁾
 藤島町藤島 19730624³⁶⁾
- 37 *Bryophila granitalis* (Butler) イチモジキノコヨトウ
 山形市面白山 1 ♂, 19740824⁹⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 村木沢早坂林道 1 ♂, 19890714(木

- 俣)・1♀, 19890803(木俣)
 // 不動沢 1♂, 19880902⁴¹⁾
 上市市金瓶¹⁹⁾
 東根市 1♂, 19620827²⁰⁾
 東根市柳沢林道 1♂1♀, 19870902⁴⁰⁾
 尾花沢市御所山荘 1♀, 19870920⁴⁰⁾
 山辺町荒沼 7♂♂1♀, 19870827(木俣, 内4♂♂は博物館)
 中山町岩谷 1♀, 19860803(木俣)
 藤島町藤島 19690808³⁶⁾
- 38 *Cryphia bryophasma* Boursin エゾキノコヨトウ
 鶴岡市内 1♀, 19650825²⁷⁾
- 39 *Cryphia obscura* (Warren) キノコヨトウ
 山形市村木沢¹⁹⁾
 上市市金瓶¹⁹⁾
 西川町間沢 1♂, 19750725⁵⁾
 藤島町藤島 19650823³⁶⁾・19720728³⁶⁾・19720809³⁶⁾・19760916³⁶⁾
- 40 *Cryphia mediofusca* Sugi スジキノコヨトウ
 上市市金瓶 1 ex., 19840827¹⁹⁾
 藤島町藤島 19710818³⁶⁾・19710827³⁶⁾
- 41 *Cryphia griseola* (Nagano) ハイイロキノコヨトウ
 山形市不動沢 1♂3♀♀, 19880902⁴¹⁾
 東根市柳沢林道 6♀♀, 19870902⁴⁰⁾(内2♀♀は博物館)
 尾花沢市御所山荘 2♂♂, 19870814⁴⁰⁾
 山辺町荒沼 1♂, 19870827(木俣)
 西川町志津 1♂3♀♀, 19860824¹⁸⁾³⁹⁾・3♂♂2♀♀, 19870820³⁹⁾(内2♂♂は博物館)
 温海町温海岳 1♀, 19890825(木俣)
 蔵王連峰ドッコ沼⁴¹⁾
- 42 *Cryphia sugitanii* Boursin マダラキノコヨトウ
 東根市 1♂, 19620827²⁰⁾
- 尾花沢市御所山荘 2♂♂, 19870814⁴⁰⁾
 西川町志津 2♂♂1♀, 19860824³⁸⁾³⁹⁾・4♂♂1♀, 19870820³⁸⁾³⁹⁾(内3♂♂は博物館)・1♀, 19880923³⁸⁾³⁹⁾
 温海町温海岳 1♀, 19890825(木俣)
- 43 *Stenoloba clara* (Leech) ウスアオキノコヨトウ
 山形市不動沢 1♂, 19880902⁴¹⁾
 // 村木沢早坂林道 1♂1♀, 19890803(木俣)
 上市市金瓶¹⁹⁾
 山辺町荒沼 1♂1♀, 19870827(木俣)
 温海町温海岳 1♀, 19890825(木俣)
- 44 *Stenoloba assimilis* (Warren) アオキノコヨトウ
 尾花沢市御所山荘 2♂♂1♀, 19870814⁴⁰⁾
 西川町志津 3♂♂, 19860824³⁸⁾³⁹⁾・8♂♂5♀♀, 19870820³⁸⁾³⁹⁾(内2♂♂2♀♀は博物館)
- 45 *Stenoloba manleyi* (Leech) ウンモンキノコヨトウ
 山形市村木沢¹⁹⁾
 藤島町藤島 19690818³⁶⁾
- 46 *Stenoloba jankowskii* (Oberthür) シロスジキノコヨトウ
 山形市村木沢¹⁹⁾
 // 高瀬戸沢 2♂♂1♀, 19840804¹⁵⁾
 // 上宝沢 1♂2♀♀, 19880821⁴¹⁾・1♂, 19890730(木俣)
 // 不動沢⁴¹⁾
 // 村木沢早坂林道 1♂1♀, 19890803(木俣)
 酒田市 1♂, 19590728¹²⁾
 上市市金瓶¹⁹⁾
 尾花沢市御所山荘 2♂♂1♀, 19870814⁴⁰⁾
 中山町岩谷 2♂♂1♀, 19860803(木俣)
 西川町間沢 1♂, 19730803⁴⁾

// 志津 1 ♂, 19870729³⁸⁾³⁹⁾
 藤島町藤島 19570705³⁶⁾

Heliothinae タバコガ亜科

47 *Helicoverpa armigera* (Hübner) オオタバコ
 ガ

山形市村木沢¹⁹⁾

上山市金瓶¹⁹⁾

藤島町藤島 19730901³⁶⁾

48 *Helicoverpa assulta* (Guenée) タバコガ

山形市本町 1 ♂, 19610824(木俣)・2 ♂♂ 2
 ♀♀, 19610902(博物館)

// 山寺 1 ♂, 19770820(博物館)

// 村木沢¹⁹⁾

上山市金瓶¹⁹⁾

藤島町藤島 19680825³⁶⁾・19710903³⁶⁾

49 *Protoschinia scutosa* (Denis et Schiffermul-
 ler) ヨモギガ

山形市本町 1 ♀, 19610515(木俣)・1 ♀,
 19610901(木俣)

50 *Heliothis maritima adacta* Butler ツメクサ
 ガ

山形市本町 3 ♂♂ 1 ♀, 19610902(博物館)

// 面白山 1 ♀, 19740824⁹⁾・1 ♂,
 19750816⁹⁾

// 山寺 1 ♂, 19770804(博物館)・2 ♂♂
 1 ♀, 19770820(博物館)

// 村木沢¹⁹⁾

// 西藏王高原 1 ♂, 19840614¹⁰⁾

米沢市 1 ♂ 1 ♀, 19700523(山谷)

米沢市館山 1 ♂, 19700827(加藤)

酒田市 1 ♂, 19580914¹⁴⁾

// 北千日町 1 ♂, 19680817(博物館)

新庄市新庄温泉 1 ♂, 19610616(木俣)

上山市金瓶¹⁹⁾

村山市大久保⁷⁾

天童市荒谷 1 ♂, 19820804⁹⁾・1 ♀, 19820902⁹⁾

尾花沢市御所山荘 2 ♂♂ 1 ♀, 19870814⁴⁰⁾

西川町間沢 1 ♂, 19730804⁴⁾

藤島町藤島 19560525³⁶⁾・19560605³⁶⁾・
 19670812³⁶⁾・19740715³⁶⁾

鳥海山 1 ♀, 19610608¹⁴⁾

鳥海山河原宿 19660800³⁾

51 *Heliothis fervens* Butler ニセタバコガ

山形市村木沢¹⁹⁾

// 村木沢早坂林道(木俣)

上山市金瓶¹⁹⁾

52 *Pyrrhia umbra* (Hufnagel) キタバコガ

山形市村木沢¹⁹⁾

上山市金瓶¹⁹⁾

藤島町藤島 19730914³⁶⁾

鳥海山河原宿 19660800³⁾

蔵王連峰坊平 1 ♀, 19800817¹⁰⁾

53 *Pyrrhia bifasciata* (Staudinger) ウスオビヤ
 ガ

山形市面白山 1 ♂, 19750816

// 山寺 1 ♂, 19770820(博物館)

// 西藏王高原 2 ♂♂, 19840818¹⁰⁾

// 村木沢¹⁹⁾

上山市金瓶¹⁹⁾

村山市大久保⁷⁾

山辺町荒沼 1 ♂, 19870827(木俣)

中山町岩谷 1 ♂, 19860803(木俣)

西川町間沢 1 ♂, 19750725⁴⁾

藤島町藤島 19710727³⁶⁾・19710812³⁶⁾・
 19720906³⁶⁾・19740617³⁶⁾・19740630³⁶⁾

Noctuinae モンヤガ亜科

54 *Euxoa sibirica* (Boisduval) ウスグロヤガ

上山市蔵王ライン 1 ♀, 19840707¹⁰⁾

// 金瓶¹⁹⁾

藤島町藤島 19590708³⁶⁾・19730915³⁶⁾・

- 19730929³⁶⁾・19750715³⁶⁾
 鳥海山吹浦口⁸⁾
 // 御浜⁸⁾
 // 伏拝岳⁸⁾
 // 鳥ノ海 19660800³⁾
 // 山頂 19660800³⁾
- 55 *Euxoa oberthueri* (Leech) ムギヤガ
 山形市山寺 1 ♂, 19780603(博物館)
 // 西藏王高原 2 ♂♂, 19830826¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 米沢市白布高湯 1 ♀, 19720723(山谷)
 上山市金瓶¹⁹⁾
 東根市柳沢小屋 1 ♀, 19860728⁴⁰⁾
 西川町志津 1 ♀, 19870729³⁸⁾³⁹⁾
 藤島町藤島 19740901³⁶⁾・19760905³⁶⁾
 鳥海山鳥ノ海 19660800³⁾
 // 河原宿 19660800³⁾
 蔵王連峰ドッコ沼⁴¹⁾
- 56 *Agrotis ipsilon* (Hufnagel) タマナヤガ
 山形市 1 ♀, 19601108(博物館)・1 ♂,
 19601120(博物館)
 // 面白山 1 ♂, 19770917
 // 西藏王高原 4 ♂♂ 2 ♀♀,
 19830826¹⁰⁾・2 ♀♀, 19840711
 // 高瀬 1 ♂, 19831113¹⁵⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 不動沢⁴¹⁾
 酒田市 1 ♂, 19580917¹⁴⁾・1 ♂, 19610921¹⁴⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市北町⁷⁾
 // 大久保⁷⁾
 東根市柳沢小屋 1 ♂ 1 ♀, 19860728⁴⁰⁾
 尾花沢市鍋越峠 2 ♂♂, 19870930(木俣)
 西川町志津 1 ♂, 19610808¹³⁾¹⁸⁾³⁹⁾・1 ♂,
 19861010³⁹⁾・1 ♀, 19870729³⁹⁾
 藤島町藤島³⁶⁾
- 朝日村荒沢ダム 1 ♂, 19820818(木俣)
 温海町温海岳 1 ♂, 19890825(木俣)
 鳥海山鳥ノ海 19660800³⁾
 朝日連峰天狗小屋⁸⁾・2 ♂♂ 1 ♀, 19610807(博
 物館)
 // 天狗角力取場 1 ♂, 19610807¹⁴⁾
- 57 *Agrotis exclamatoris informis* Leech セン
 モンヤガ
 山形市不動沢 1 ♀, 19880622⁴¹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 遊佐町吹浦 1 ♀, 19840616(木俣)
- 58 *Agrotis tokionis* Butler オオカブラヤガ
 上山市金瓶¹⁹⁾
- 59 *Agrotis segetum* (Denis et Schiffermüller)
 カブラヤガ
 山形市 1 ♂, 19600926(博物館)・1 ♀,
 19601109(博物館)・1 ♂, 19601111(博物館)・
 1 ♀, 19601115(博物館)
 // 西藏王高原 1 ♂, 19830826
 // 高瀬 1 ♂, 19830910¹⁵⁾・1 ♀,
 19841014¹⁵⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 村木沢早坂林道 1 ♀, 19890714(木俣)
 米沢市白布高湯 2 ♂♂, 19700926¹²⁾
 酒田市 1 ♂, 19611010¹⁴⁾・1 ♀, 19691000¹²⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市北町⁷⁾
 // 大久保⁷⁾
 天童市荒谷 2 ♂♂, 19820831⁹⁾・1 ♂,
 19820909⁹⁾
 東根市水無山泥沢 1 ♂ 1 ♀, 19860527⁴⁰⁾
 西川町志津月山荘 1 ♀, 19850803¹⁷⁾³⁵⁾³⁹⁾
 小国町叶水 1 ♀, 19750614(木俣)
 藤島町藤島³⁶⁾
 鳥海山 1 ♂, 19790901(山谷)
- 60 *Agrotis patula* Walker ホッキョクモンヤガ

- 鳥海山鳥ノ海 19660800³⁾
 // 河原宿 19660800³⁾
 // 御浜小屋 3♂♂, 19710816³²⁾・6♂♂,
 19720806³²⁾
 // 千蛇谷 3♂♂, 19720807³²⁾
 // 扇子森 1♂, 19720807³²⁾
 朝日連峰狐穴 19♂♂, 19720811³²⁾
 // 竜門小屋 8♂♂, 19720809³²⁾・13♂♂,
 19720810³²⁾
 // 中岳 5♂♂, 19720812³²⁾
 // 金玉水キャンプ場 1♂, 19720812³²⁾
 飯豊連峰門内岳 10♂♂, 19680803²⁸⁾
- 61 *Ochropleura praecox flavomaculata*
 (Graeser) ホソアオバヤガ
 山形市 1♂, 19610608(博物館)・1♀,
 19610620(博物館)・1♀, 19610831(博物館)
 酒田市 1♀, 19580814¹⁴⁾・1♀, 19580919¹⁴⁾・
 2♀♀, 19580923¹⁴⁾・1♂1♀, 19581008¹⁴⁾・
 1♂, 19610921¹⁴⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 藤島町藤島³⁶⁾
 鳥海山河原宿 19660800³⁾
- 62 *Ochropleura praecurrens* (Standinger) オオ
 ホソアオバヤガ
 山形市本町 1♀, 19610621(博物館)・1♂1
 ♀, 19610627(博物館)
 // 山寺 1♂, 19770831(博物館)
 // 西藏王高原 1♀, 19830826¹⁰⁾・1♂,
 19830926¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 上宝沢 1♀, 19880709⁴¹⁾
 // 不動沢 1♀, 19880712⁴¹⁾
 米沢市白布高湯 2♀♀, 19720723(山谷)
 上山市蔵王ライン 1♀, 19840707¹⁰⁾
 // 金瓶¹⁹⁾
 村山市大久保⁷⁾
- 山辺町荒沼 1♀, 19870827(木俣)・1♀,
 19880704(木俣)
 西川町志津 1♀, 19870912³⁸⁾³⁹⁾
 藤島町藤島 19740618³⁶⁾・19760714³⁶⁾
 鳥海山ソブ谷地 19660800³⁾
 蔵王連峰観松平¹⁰⁾
 // ドッコ沼⁴¹⁾
- 63 *Ochropleura triangularis* Moore コキマエヤ
 ガ
 山形市不動沢 5♀♀, 19870714¹⁰⁾⁴¹⁾・2♂♂6
 ♀♀, 19880712⁴¹⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 米沢市 1♀, 19720724(山谷)
 上山市蔵王ライン 1♀, 19840707¹⁰⁾
 // 金瓶¹⁹⁾
 村山市北町⁷⁾
 東根市柳沢小屋 2♂♂2♀♀, 19860728⁴⁰⁾
 尾花沢市鍋越峠 1♂, 19870930(木俣)
 藤島町藤島 19710808³⁶⁾・19720714³⁶⁾
 鳥海山千畳ヶ原⁸⁾・1 ex., 19690726¹²⁾
 // 山頂 19660800³⁾
 // 鳥ノ海 19660800³⁾
 // 河原宿 19660800³⁾
 蔵王山 2♀♀, 19620722(木俣)
 蔵王連峰御田神 2♀♀, 19840730¹⁰⁾
 // 観松平 4♀♀, 19870718(木俣, 内2♀
 ♀は博物館)
- 64 *Ochropleura plecta glaucimacula* (Graeser)
 マエジロヤガ
 山形市本町 2♂♂, 19610502(博物館)・2♂
 ♀, 19610511(博物館)
 // 面白山 1♂, 19750630⁹⁾・1♂,
 19820619⁹⁾
 // 西藏王高原 1♂, 19830826¹⁰⁾・1♂,
 19840614¹⁰⁾・1♂, 19840915(木俣)
 // 不動沢 2♂♂1♀, 19840604¹⁰⁾⁴¹⁾

- // 瀬ノ原山 1 ♀, 19840607¹⁵⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 村木沢早坂林道 1 ♂, 19890614(木俣)
 俣)・1 ♂, 19890803(木俣)
 // 上宝沢 1 ♂, 19880821⁴¹⁾
 // 門伝大平 1 ♀, 19890601(木俣)
 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市北町⁷⁾
 尾花沢市御所山荘 1 ♂, 19880613⁴⁰⁾
 山辺町荒沼 1 ♀, 19870827(木俣)
 中山町岩谷 1 ♂ 1 ♀, 19860521(木俣)・1 ♀,
 19860628(木俣)・6 ♂♂, 19860803(木俣)・
 3 ♂♂ 2 ♀♀, 19860915(木俣)
 西川町間沢 1 ♂, 19750725⁵⁾
 // 志津 1 ♀, 19860726¹⁸⁾³⁹⁾
 // 大井沢中村 1 ♀, 19870523(木俣)
 大蔵村肘折温泉 1 ♂, 19860703(木俣)
 小国町叶水 2 ♂♂ 1 ♀, 19750614(木俣)
 藤島町藤島 19570620³⁶⁾・19750614³⁶⁾
 鳥海山山頂 19660800³⁾
 // ソブ谷地 19660800³⁾
 65 *Hermonassa arenosa* (Butler) ホシボシヤガ
 山形市村木沢¹⁹⁾
 // 不動沢 1 ♀, 19880712⁴¹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 東根市柳沢小屋 3 ♀♀, 19860728⁴⁰⁾
 // 柳沢林道 1 ♀, 19870902⁴⁰⁾
 西川町志津月山荘 19880723³⁹⁾
 蔵王連峰御田神 1 ♀, 19840730¹⁰⁾
 66 *Hermonassa cecilia* Butler クロクモヤガ
 山形市本町 2 ♂♂ 1 ♀, 19610603(博物館)
 // 面白山 1 ♂, 19820530⁹⁾
 // 高瀬 3 ♂♂, 19841014¹⁵⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 村木沢早坂林道 1 ♂, 19890614(木俣)
 // 不動沢 2 ♂♂ 4 ♀♀, 19880622⁴¹⁾・1
 ♀, 19880712⁴¹⁾
 酒田市 1 ♀, 19581008(白畑)
 新庄市新庄温泉 1 ♀, 19610616(博物館)
 上山市蔵王ライン 2 ♀♀, 19840707¹⁰⁾
 // 金瓶¹⁹⁾
 東根市柳沢小屋 2 ♂♂ 2 ♀♀, 19860728⁴⁰⁾
 尾花沢市銀山温泉 5 ♀♀, 19860712⁴⁰⁾
 // 御所山荘 2 ♂♂, 19880613⁴⁰⁾
 中山町岩谷 1 ♀, 19860628(木俣)
 西川町志津 1 ♂ 2 ♀♀, 19860622¹⁸⁾³⁹⁾
 藤島町藤島 19710712³⁶⁾・19740618³⁶⁾
 蔵王連峰御田神 1 ♂, 19840730¹⁰⁾
 67 *Noctua undosa* (Leech) ナカグロヤガ
 上山市金瓶 1 ♂, 19740929¹⁹⁾
 68 *Spaelotis valida* (Walker) アカマエヤガ
 上山市金瓶 1 ♂, 19741016¹⁹⁾・1 ♀,
 19841001¹⁹⁾
 69 *Spaelotis lucens* Butler シロオビハイイロヤガ
 東根市柳沢小屋 1 ♂, 19860728⁴⁰⁾
 鳥海山山頂 19660800³⁾
 // 鳥ノ海 19660800³⁾
 // 河原宿 19660800³⁾
 蔵王連峰御田神 1 ♂ 1 ♀, 19840730¹⁰⁾
 70 *Sineugraphe exusta* (Butler) カバスジヤガ
 山形市不動沢 1 ♂ 1 ♀, 19840714(木俣)⁴¹⁾・
 2 ♂♂, 19880712⁴¹⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市北町⁷⁾
 // 大久保⁷⁾
 東根市柳沢小屋 2 ♂♂ 1 ♀, 19860728(木俣)
 尾花沢市御所山荘 1 ♀, 19870814(木俣)
 西川町間沢 1 ♂, 19750725⁵⁾
 大江町古寺鉾泉 2 ♂♂, 19850720(木俣)
 藤島町藤島 19670910³⁶⁾・19730620³⁶⁾・

- 19750811³⁶⁾・19760831³⁶⁾
 鳥海山千畳ヶ原 1♂, 19690726¹²⁾
 蔵王連峰坊平 1♀, 19800817¹⁰⁾
 // 御田神 1♀, 19840730・1♂, 19840814
 // ドッコ沼 1♀, 19880807⁴¹⁾
- 71 *Sineugraphe bipartita* (Graeser) ウスイロカ
 バスジャガ
 山形市 2♂♂, 19600730(博物館)
 // 蔵王温泉 1♂, 19830821¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 上宝沢 1♂, 19880821⁴¹⁾
 // 不動沢 2♀♀, 19880902(木俣)
 米沢市白布高湯 1♀, 19640728(博物館)・1
 ♀, 19720623(山谷)・1♀, 19720806(山谷)
 上山市蔵王ライン 1♀, 19840707(木俣)
 // 金瓶¹⁹⁾
 村山市北町⁷⁾
 天童市荒谷 1♂, 19800828
 東根市柳沢小屋 4♂♂4♀♀, 19860728⁴⁰⁾
 西川町志津 1♂, 19750725⁶⁾¹⁸⁾³⁹⁾
 // 志津荒沢橋 1♂, 19850715¹⁸⁾³⁹⁾
 大江町古寺鉱泉 1♀, 19850720(木俣)
 藤島町藤島 19550702³⁶⁾・19750818³⁶⁾・
 19760725³⁶⁾
 鳥海山千畳ヶ原⁸⁾
 // 鳥ノ海 19660800³⁾
 // 河原宿 19660800³⁾
 // ソブ谷地 19660800³⁾
 朝日連峰天狗小屋⁸⁾・4♀♀, 19610807(博物館)
 // 天狗角力取山 1♀, 19610807¹²⁾・1♀,
 19610807¹⁴⁾
 蔵王連峰坊平 2♀♀, 19790728¹⁰⁾・1♀,
 19800817¹⁰⁾
 // 御田神 1♀, 19840814¹⁰⁾
 吾妻山 1♀, 19730903(山谷)
- 72 *Sineugraphe longipennis* (Boursin) オオカバ
 スジャガ
 山形市村木沢¹⁹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
- 73 *Peridroma saucia* (Hübner) ニセタマナヤガ
 山形市村木沢 1 ex., 19850607¹⁹⁾
 上山市金瓶 1 ex., 19821026¹⁹⁾・1♂,
 19840927¹⁹⁾
- 74 *Diarsia deparca* (Butler) コウスチャヤガ
 山形市 2♀♀, 19601110(博物館)・1♂,
 19601111(博物館)・1♂, 19601122(博物館)
 // 面白山 4♂♂, 19770917⁹⁾・4♂♂1
 ♀, 19820530⁹⁾・2♂♂, 19820619⁹⁾
 // 蔵王高原 1♀, 19830826¹⁰⁾
 // 高瀬 1♂1♀, 19831106¹⁵⁾・1♂,
 19831113¹⁵⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 米沢市白布高湯 2♂♂2♀♀, 19700926¹²⁾・2
 ♂♂4♀♀, 19700926¹⁴⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 尾花沢市御所山荘 1♂, 19880613⁴⁰⁾
 西川町志津姥沢小屋 1♂, 19830528¹⁶⁾¹⁸⁾³⁹⁾
 // 志津 1♀, 19861010³⁹⁾・1♂2♀♀,
 19870912³⁹⁾
 藤島町藤島³⁶⁾
 鳥海山千畳ヶ原⁸⁾・19690926¹²⁾
 // 鳥ノ海 19660800³⁾
 朝日連峰天狗小屋⁸⁾・2♂♂2♀♀, 19610807
 (博物館)
 // 天狗角力取場 2♂♂2♀♀,
 19610807¹⁴⁾
 吾妻連峰天元台 3♂♂, 19690926¹²⁾・3♂♂,
 19690926¹⁴⁾
- 75 *Diarsia canescens* (Butler) オオバコヤガ
 山形市本町 2♂♂, 19610503(博物館)・1♂,
 19610509(博物館)
 // 面白山 1♂, 19770917

- // 西蔵王高原 4 ♂♂ 3 ♀♀,
 19830826¹⁰⁾・5 ♂♂ 4 ♀♀, 19830828¹⁰⁾
- // 高瀬 2 ♂♂, 19831113¹⁵⁾
- // 村木沢¹⁹⁾
- // 不動沢⁴¹⁾
- 米沢市白布高湯 1 ex.,19701009¹²⁾・1 ♂,
 19701009¹⁴⁾
- 酒田市 1 ♂ 1 ♀, 19581007¹⁴⁾
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 尾花沢市銀山温泉 1 ♂, 19870530(木俣)
- 南陽市矢ノ沢 1 ♂, 19880517(伊藤)
- 西川町志津姥沢小屋 1 ♀, 19830528¹⁶⁾¹⁸⁾³⁹⁾
- // 志津 7 ♂♂ 3 ♀♀, 19860622¹⁸⁾³⁹⁾・1
 ♀, 19861010³⁹⁾・1 ♀, 19870912³⁹⁾
- 藤島町藤島³⁶⁾
- 鳥海山鳥ノ海 19660800³⁾
- 湯殿山 1 ♂, 19790929(山谷)
- 朝日連峰天狗角力取場 1 ♂, 19610807¹²⁾
- // 天狗角力取山 1 ♂, 19610807¹⁴⁾
- 蔵王連峰御田神 1 ♂, 19840730¹⁰⁾・5 ♂♂,
 19840814¹⁰⁾
- 吾妻連峰新高湯 1 ♂, 19710929¹⁴⁾
- 76 *Diarsia brunnea* (Denis et Schiffermüller)
 ミヤマアカヤガ
- 山形市門伝大平 3 ♀♀, 19850708(木俣)
- // 不動沢 1 ♂, 19880712⁴¹⁾
- 上山市蔵王ライン 4 ♂♂ 2 ♀♀, 19840707¹⁰⁾
 (内1 ♂ 1 ♀は博物館)
- 東根市柳沢小屋 9 ♂♂ 8 ♀♀, 19860728⁴⁰⁾
 (内2 ♀♀は博物館)
- 尾花沢市銀山温泉 1 ♂, 19860712⁴⁰⁾
- 西川町志津月山荘 1 ♀, 19880723³⁹⁾
- 大江町古寺鉾泉 1 ♀, 19850720(木俣)
- 鳥海山鳥ノ海 19660800³⁾
- // 河原宿 19660800³⁾
- // 千畳ヶ原 1 ♀, 19690726¹⁴⁾
- 蔵王連峰御田神 1 ♂ 8 ♀♀, 19840730¹⁰⁾・3 ♂
 ♂, 19840814¹⁰⁾
- // 観松平 3 ♂♂ 1 ♀, 19870718(木俣, 内
 2 ♂♂は博物館)
- 77 *Diarsia dewitzi* (Graeser) モンキヤガ
- 東根市柳沢小屋 1 ♀, 19860728⁴⁰⁾
- 鳥海山鳥ノ海 19660800³⁾
- 朝日連峰天狗小屋⁸⁾・1 ♂, 19610807(博物館)
- 78 *Diarsia nipponica* Ogata ヤマトウスチャヤ
 ガ
- 上山市金瓶 1 ex.,19840925¹⁹⁾
- 鳥海山千畳ヶ原⁸⁾
- // 御田 19660800³⁾
- // 鳥ノ海 19660800³⁾
- // 河原宿 19660800³⁾
- 蔵王連峰御田神 1 ♂, 19840730¹⁰⁾・1 ♂ 1 ♀,
 19840814¹⁰⁾
- 79 *Diarsia pacifica* Boursin アカフヤガ
- 山形市村木沢¹⁹⁾
- 米沢市白布高湯 2 ♂♂, 19690926¹⁴⁾・3 ♂♂ 1
 ♀, 19700926¹²⁾・1 ♂, 19700927¹⁴⁾
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 西川町志津姥沢小屋 2 ♂♂ 1 ♀,
 19830528¹⁶⁾¹⁸⁾³⁹⁾
- 藤島町藤島 19560606³⁶⁾・19710505³⁶⁾・
 19730801³⁶⁾・19760909³⁶⁾
- 吾妻連峰新高湯 1 ♂, 19710929¹⁴⁾
- 80 *Diarsia ruficauda* (Warren) ウスイロアカフ
 ヤガ
- 山形市山寺 1 ♀, 19780603(博物館)
- // 面白山 1 ♂, 19820530⁹⁾
- // 西蔵王高原 2 ♂♂ 2 ♀♀,
 19830826¹⁰⁾・1 ♂, 19840529¹⁰⁾
- // 村木沢¹⁹⁾
- 米沢市白布 1 ♂, 19820529(山谷)
- 酒田市 1 ♂, 19610510¹⁴⁾

- 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市大久保⁷⁾
 天童市荒谷 1♂, 19820909
 東根市水無山泥沢 1♂1♀, 19860527⁴⁰⁾
 // 滝の沢林道 1♀, 19860605⁴⁰⁾
 尾花沢市銀山温泉 1♀, 19870530(木俣)
 // 御所山荘 1♂, 19880613⁴⁰⁾
 中山町岩谷 1♂1♀, 19860521(木俣)
 西川町志津 19880923³⁹⁾
 藤島町藤島 19720514³⁶⁾・19730731³⁶⁾・
 19730804³⁶⁾・19740912³⁶⁾
- 81 *Pachnobia imperita* (Hübner) ダイセツヤガ
 月山鍛冶小屋 2♂♂, 19700802³⁰⁾¹⁸⁾³⁹⁾
 // 胎内岩 4♂♂, 19700804³⁰⁾¹⁸⁾³⁹⁾
 朝日連峰竜門小屋 29♂♂, 19720809³²⁾・11♂♂
 1♀, 19720810³²⁾
 // 狐穴 13♂♂, 19720811³²⁾
 // 中岳 9♂♂1♀, 19720812³²⁾
 // 金玉水キャンプ場 1♂, 19720812³²⁾
 飯豊連峰烏帽子岳 1♂, 19680731²⁸⁾
 // 門内岳 14♂♂2♀♀, 19680803²⁸⁾
- 82 *Xestia cnigrum* (Linnaeus) シロモンヤガ
 山形市 1♀, 19600923(博物館)・1♂,
 19601010(博物館)・1♂, 19601112(博物館)
 // 面白山 1♂, 19750630⁹⁾・1♂2♀♀,
 19770917⁹⁾・2♂♂8♀♀, 19820530⁹⁾・3♂
 ♂1♀, 19820619⁹⁾
 // 山寺 1♂, 19760915(博物館)・2♂♂,
 19770603(博物館)・1♂1♀, 19780603(博物
 館)
 // 蔵王温泉 3♂♂2♀♀, 19830821
 // 西蔵王温泉 7♂♂3♀♀,
 19830826¹⁰⁾・4♂♂3♀♀, 19840614¹⁰⁾・3♂
 ♂1♀, 19840711¹⁰⁾・1♂2♀♀, 19840818¹⁰⁾
 // 高瀬 2♂♂, 19830910¹⁵⁾
 // 瀬ノ原山 2♂♂2♀♀, 19840607¹⁵⁾
- // 村木沢¹⁹⁾
 // 不動沢 1♀, 19880622⁴¹⁾
 // 上宝沢 1♂, 19880709⁴¹⁾・1♀,
 19880821⁴¹⁾
 米沢市白布高湯 1♂, 19670729(博物館)・1
 ♂, 19700926¹⁴⁾・1♀, 19700926¹²⁾
 米沢市 1♂, 19710623(山谷)・1♂, 19720610
 (山谷)
 // 白布 1♂, 19820902(山谷)
 酒田市 1♂, 19580907¹⁴⁾
 上山市蔵王ライン 2♀♀, 19840707¹⁰⁾
 // 金瓶¹⁹⁾
 村山市北町⁷⁾
 天童市荒谷 1♂, 19820902(木俣)
 東根市寒風山木葉沢 2♂♂, 19850629⁴⁰⁾
 // 滝の沢林道 2♀♀, 19860605⁴⁰⁾
 // 柳沢林道 1♀, 19870902⁴⁰⁾
 尾花沢市銀山温泉 1♂1♀, 19860712⁴⁰⁾・1
 ♀, 19870530⁴⁰⁾
 // 御所山荘 3♀♀, 19880613⁴⁰⁾
 山辺町荒沼 1♂2♀♀, 19870827(木俣)
 中山町岩谷 1♂, 19860915(木俣)
 西川町志津 1♂, 19610808¹²⁾¹⁸⁾³⁹⁾・1♀,
 19730613¹³⁾¹⁸⁾³⁹⁾・1♂, 19730705¹³⁾¹⁸⁾³⁹⁾・3♂
 ♂1♀, 19860622¹⁸⁾³⁹⁾・1♂, 19870820³⁹⁾
 // 志津姥沢小屋 3♂♂, 19830528¹⁶⁾¹⁸⁾³⁹⁾
 // 弓張平 1♂, 19880516³⁹⁾
 // 大井沢中村 1♂1♀, 19870523(木俣)
 真室川町新及位 1♂, 19610622¹⁴⁾
 大蔵村肘折温泉 4♂♂5♀♀, 19860703(木
 俣, 内2♂♂3♀♀は博物館)
 小国町叶水 2♂♂3♀♀, 19750614(木俣)
 藤島町藤島 19710605³⁶⁾・19730731³⁶⁾・
 19730816³⁶⁾・19730830³⁶⁾
 鳥海山河原宿 19660800³⁾
 // ソブ谷地 19660800³⁾

- 朝日連峰天狗小屋⁸⁾・1♀, 19610807(博物館)
 蔵王連峰御田神 2♀♀, 19840814¹⁰⁾
 // ドッコ沼 1♀, 19880807⁴¹⁾
- 83 *Xestia ditrapezium orientalis* (Strand) タン
 ポヤガ
 山形市蔵王高原 1♂, 19840915 (木俣)
 // 不動沢 2♂♂, 19880712⁴¹⁾
 東根市柳沢小屋 1♀, 19860728⁴⁰⁾
 蔵王連峰坊平 1♂, 19790728¹⁰⁾
 // 御田神 1♂1♀, 19840814¹⁰⁾
 // 観松平 1♂, 19870718(木俣)
 // ドッコ沼 1♂, 19880807⁴¹⁾
- 84 *Xestia fuscostigma* (Bremer) クロフトビイロ
 ヤガ
 山形市高瀬 1♂, 19830910¹⁵⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 山辺町荒沼 2♂♂1♀, 19870827(木俣)
- 85 *Xestia kollari phumbata* (Butler) ハコベヤガ
 東根市柳沢林道 3♂♂, 19870902⁴⁰⁾ (内1♂
 は博物館)
 山辺町荒沼 2♂♂, 19870827(木俣)
 中山町岩谷 1♀, 19860915(木俣)
 温海町温海岳 1♂, 19890825(木俣)
- 86 *Xestia stupenda* (Butler) マエキヤガ
 酒田市飛島 1♂, 19690301¹²⁾
 鳥海山千畳ヶ原⁸⁾
- 87 *Xestia dilatata* (Butler) ウスチャヤガ
 新庄市新庄駅 1♂, 19781020¹⁴⁾
- 88 *Xestia efflorescens* (Butler) キシタミドリヤ
 ガ
 山形市 1♂, 19600915(博物館)
 // 本町 1♀, 19610914(博物館)
 // 面白山 1♀, 19740727⁹⁾・2♂♂,
 19770917⁹⁾
 // 山寺 1♂, 19770904(博物館)
- // 蔵王高原 1♂1♀, 19830826¹⁰⁾・2♂♂,
 19840915(木俣)
 // 不動沢 1♀, 19840714(木俣)⁴¹⁾・2♂♂,
 19880902⁴¹⁾
 // 高瀬戸沢 3♀♀, 19840804¹⁵⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 門伝大平 1♀, 19850708(木俣)
 // 上宝沢¹⁰⁾・2♀♀, 19880821⁴¹⁾
 // 村木沢早坂林道 1♂, 19890829(木俣)
 米沢市白布高湯 1♀, 19660728(博物館)
 上山市金瓶¹⁹⁾
 東根市柳沢小屋 2♀♀, 19860728⁴⁰⁾
 // 柳沢林道 3♂♂2♀♀, 19870902⁴⁰⁾
 尾花沢市御所山荘 1♂, 19870814⁴⁰⁾
 山辺町荒沼 3♂♂1♀, 19870827(木俣)
 中山町岩谷 1♀, 19860803(木俣)・1♂4♀
 ♀, 19860915(木俣, 内3♀♀は博物館)
 西川町月山沢 1♂, 19790915¹²⁾¹⁸⁾³⁹⁾
 // 志津 1♀, 19860824¹⁸⁾³⁹⁾・1♀,
 19870729³⁹⁾・2♂♂1♀, 19870820³⁹⁾・1♂,
 19870912³⁹⁾
 小国町飯豊山荘 1♀, 19680721³⁵⁾
 小国町 1♂, 19710902(山谷)
 藤島町藤島³⁶⁾
 温海町温海岳 1♂, 19890825(木俣)
 鳥海山ソブ谷地 19660800³⁾
 // 鳥ノ海 19660800³⁾
 朝日連峰天狗小屋⁸⁾・1♀, 19540814¹⁴⁾
 // 天狗角力取場 1♂, 19610807¹²⁾
 蔵王連峰坊平 1♂4♀♀, 19790728¹⁰⁾
 // 御田神 1♂, 19840730¹⁰⁾・1♂,
 19840814¹⁰⁾
 // ドッコ沼 1♂, 19880807⁴¹⁾
 吾妻連峰天元台⁸⁾
 // 新高湯 1♂, 19710901¹⁴⁾
- 89 *Xestia semiherbida decrata* (Butler) ハイイ

- ロキシタヤガ
山形市本町 2 ♂♂, 19610622(博物館)
// 西藏王高原 1 ♂ 1 ♀, 19830826¹⁰⁾
// 高瀬 1 ♂, 19830910¹⁵⁾
// 霞城公園 1 ♂, 19840622(博物館)
// 村木沢¹⁹⁾
上山市 1 ex., 19350626¹²⁾
// 金瓶¹⁹⁾
山辺町荒沼 1 ♂ 1 ♀, 19870827(木俣)
大蔵村肘折温泉 1 ♀, 19860703(木俣)
藤島町藤島 19720704³⁶⁾
- 90 *Naenia contaminata* (Walker) クロギシギシヤガ
山形市陣場 1 ♀, 19830603(木俣)
// 門伝大平 1 ♂, 19850708(木俣)
上山市金瓶¹⁹⁾
村山市大久保⁷⁾
藤島町藤島 19560602³⁶⁾・19560630³⁶⁾・
19570708³⁶⁾・19670927³⁶⁾・19720903³⁶⁾
- 91 *Anaplectoides prasina* (Denis et Schiffermüller) アオバヤガ
藤島町藤島 19560908³⁶⁾・19740702³⁶⁾
- 92 *Anaplectoides virens* (Butler) オオアオバヤガ
山形市西藏王高原 6 ♂♂ 4 ♀♀, 19830826¹⁰⁾
// 高瀬 1 ♂, 19830910¹⁵⁾
// 村木沢¹⁹⁾
// 上宝沢 2 ♀♀, 19880821⁴¹⁾
米沢市白布高湯 1 ♂, 19660729(博物館)・1
♂, 19700727¹⁴⁾・1 ♂ 1 ♀, 19720723(山谷)・
1 ♀, 19800802(木俣)
// 館山 1 ♂, 19700827(加藤)
上山市金瓶¹⁹⁾
東根市関山 1 ♂, 19780811(博物館)
// 柳沢小屋 1 ♂ 1 ♀, 19860728⁴⁰⁾
// 柳沢林道 1 ♀, 19870902⁴⁰⁾
- 尾花沢市御所山荘 3 ♂♂ 1 ♀, 19870814⁴⁰⁾
(内 1 ♂ 1 ♀ は博物館)
中山町岩谷 1 ♂, 19860803(木俣)
西川町志津 1 ♂ 1 ♀, 19860824¹⁸⁾³⁹⁾・3 ♂♂ 1
♀, 19870729³⁹⁾・1 ♀, 19870820³⁹⁾
大江町古寺鉱泉 2 ♀♀, 19850720(木俣)
小国町飯豊山荘 1 ♂, 19680820³⁴⁾・1 ♂,
19680721³⁵⁾
藤島町藤島 19560717³⁶⁾・19740829³⁶⁾・
19740921³⁶⁾・19760807³⁶⁾
温海町温海岳 2 ♂♂, 19890825(木俣)
鳥海山千畳ヶ原⁸⁾
// 鳥ノ海 19660800³⁾
// ソブ谷地 19660800³⁾
朝日連峰天狗小屋⁸⁾・1 ♂ 1 ♀, 19610807(博物
館)
// 天狗角力取場 7 ♂♂ 3 ♀♀,
19610807¹⁴⁾
蔵王連峰坊平 1 ♂, 19790728¹⁰⁾・1 ♀,
19800817¹⁰⁾
// 御田神 2 ♂♂ 1 ♀, 19840730¹⁰⁾
// 観松平 2 ♂♂ 1 ♀, 19870718(木俣, 内
1 ♀ は博物館)
// ドッコ沼⁴¹⁾
吾妻連峰新高湯 1 ♂, 19700727¹²⁾
- 93 *Cerastis pallescens* (Butler) カギモンヤガ
山形市西藏王高原 1 ♂, 19840519¹⁰⁾
藤島町藤島 19750629³⁶⁾

Hadeninae ヨトウガ亜科

- 94 *Polia nebulosa* (Hufnagel) オオシラホシヨ
トウ
山形市不動沢 2 ♂♂, 19880712⁴¹⁾
東根市柳沢小屋 1 ♂, 19860728⁴⁰⁾
西川町志津荒沢橋 1 ♂, 19850715¹⁸⁾³⁹⁾
蔵王連峰坊平 1 ♀, 19790728¹⁰⁾

- 95 *Polia goliath* (Oberthür) オオシモフリヨトウ
 米沢市白布高湯 1♂, 19800802(木俣)
 西川町志津 1♂, 19860824¹⁸⁾³⁹⁾
 鳥海山鳥ノ海 19660800³⁾
 朝日連峰天狗小屋⁸⁾・1♂, 19610807(博物館)
 // 天狗角力取場 1♂, 19610807¹⁴⁾
 蔵王連峰観松平¹⁰⁾
- 96 *Polia bombycina grisea* (Butler) オオチャイロヨトウ
 西川町本道寺 1♂, 19790817¹²⁾
- 97 *Melanchnra persicariae* (Linnaeus) シラホシヨトウ
 山形市面白山 3♂♂, 19740824⁹⁾
 // 蔵王高原 1♂, 19830826¹⁰⁾・4♂♂,
 19840818¹⁰⁾(内1♂は博物館)
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 高瀬戸沢 1♂, 19840804¹⁵⁾
 // 上宝沢 1♂, 19880821⁴¹⁾
 // 村木沢早坂林道 3♂♂, 19890803(木俣)
 米沢市白布高湯 1♂, 19800802(木俣)
 上山市金瓶¹⁹⁾
 東根市関山 1♂, 19780811(博物館)
 // 柳沢小屋 1♂, 19860728⁴⁰⁾
 尾花沢市御所山荘 1♂, 19870814⁴⁰⁾
 中山町岩谷 3♂♂, 19860803(木俣, 内1♂は博物館)
 西川町志津 3♂♂, 19860824¹⁸⁾³⁹⁾・1♂1♀,
 19870729³⁹⁾
 藤島町藤島 19720618³⁶⁾
 朝日村荒沢ダム 1♂, 19820818(木俣)
 鳥海山鳥ノ海 19660800³⁾
 // ソブ谷地 19660800³⁾
 蔵王連峰御田神 2♀♀, 19840730¹⁰⁾(内1♀は博物館)
- // ドッコ沼⁴¹⁾
- 98 *Mamestra brassicae* (Linnaeus) ヨトウガ
 山形市本町 2♂♂, 19610822(博物館)
 // 山寺 1♀, 19760915(博物館)・1♀,
 19770603(博物館)・1♂, 19770606(博物館)
 // 蔵王高原 2♂♂, 19830826¹⁰⁾・1♂,
 19840818¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 米沢市 1♀, 19710809(山谷)・1♂, 19730604(山谷)
 酒田市 1♂, 19580903¹⁴⁾・1♂, 19580914¹⁴⁾・
 1♂, 19590507¹²⁾・1♂, 19591000¹²⁾・1♂,
 19600518¹⁴⁾・1♀, 19600906¹⁴⁾・1♀,
 19600907¹⁴⁾・1♂, 19610902¹⁴⁾・1♂,
 19610905¹⁴⁾・1♂, 19620728¹⁴⁾・1♂,
 19620826¹⁴⁾・1♂, 19620827¹⁴⁾
 // 北里町 1♂, 19730512(博物館)
 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市北町⁷⁾
 // 大久保⁷⁾
 天童市荒谷 1♀, 19800828⁹⁾・1♀,
 19820901⁹⁾・1♀, 19820903⁹⁾・2♀♀,
 19820909⁹⁾
 東根市関山 1♂, 19780811(博物館)
 山辺町荒沼 1♀, 19870827(木俣)
 西川町間沢 1♂, 19750725⁵⁾
 小国町叶水 2♀♀, 19750614(木俣)
 白鷹町荒砥 1♀, 19700824(加藤)
 藤島町藤島 19560921³⁶⁾・19710608³⁶⁾・
 19710808³⁶⁾・19740725³⁶⁾・19760519³⁶⁾
 蔵王連峰御田神 1♂, 19840730(木俣)
- 99 *Lacanobia contigua* (Denis et Schiffermuller) ムラサキヨトウ
 山形市不動沢⁴¹⁾
 上山市金瓶 1♀, 19820621¹⁹⁾
 藤島町藤島 19740531³⁶⁾

- 100 *Lacanobia thalassina contrastata* (Bryk) ミ
ウ
ヤマヨトウ
山形市本町 1 ♀, 19620830(木俣)
西川町志津 3 ♀♀, 19860824³⁶⁾³⁹⁾
鶴岡市湯野浜 1 ♀, 19731030¹³⁾
小国町飯豊山荘 3 ♂♂, 19680820³⁴⁾
小国町 1 ♀, 19710902(山谷)
鳥海山ソブ谷地 19660800³⁾
104 *Hadena rivularis* (Fabricius) フサクビヨト
ウ
朝日連峰天狗小屋⁸⁾・1 ♂ 1 ♀, 19540814⁴⁴⁾・1
山形市村木沢¹⁹⁾
♀, 19610807(博物館)
酒田市 1 ♀, 19610721¹⁴⁾
蔵王連峰ドッコ沼⁴¹⁾
上山市金瓶¹⁹⁾
101 *Lacanobia splendens* (Hübner) エゾチャイ
ロヨトウ
村山市大久保⁷⁾
上山市金瓶¹⁹⁾
西川町志津 1 ♀, 19870820³⁸⁾³⁹⁾
藤島町藤島 19730818³⁶⁾
藤島町藤島 19570701³⁶⁾・19710730³⁶⁾・
19740611³⁶⁾
102 *Sarcopolia illoba* (Butler) シロシタヨトウ
105 *Protomiselia bilinea* (Hampson) フクスジ
ヨトウ
山形市本町 1 ♂, 19610816(博物館)・1 ♂,
山形市面白山 1 ♀, 19740727⁹⁾・1 ♂,
19610821(博物館)・1 ♂, 19610822(博物館)・
19750719⁹⁾
1 ♂, 19610823(博物館)
// 面白山 1 ♀, 19740824⁹⁾・1 ♂,
// 村木沢¹⁹⁾
19750816⁹⁾・1 ♂, 19770917⁹⁾
上山市金瓶¹⁹⁾
// 山寺 1 ♂, 19770514(博物館)・1 ♂,
村山市大久保⁷⁾
19770603(博物館)
東根市柳沢小屋 1 ♂ 2 ♀♀, 19860728⁴⁰⁾
// 西藏王高原 1 ♂, 19830826¹⁰⁾
西川町間沢 1 ♂, 19730804⁴⁾
// 村木沢¹⁹⁾
106 *Xylopolia bella bella* (Butler) クロスジキリ
ガ
米沢市館山 1 ♂, 19700823(加藤)・1 ♀,
上山市金瓶 1 ex., 19790420¹⁹⁾
19700827(加藤)
107 *Egira saxea* (Leech) ケンモンキリガ
鶴岡市由良 1 ♂, 19880611(木俣)
山形市山寺 1 ♂, 19770521(博物館)
酒田市 1 ♀, 19580820¹⁴⁾・1 ♀, 19580909¹⁴⁾・
// 不動沢 4 ♂♂, 19840604¹⁰⁾⁴¹⁾
1 ♂, 19580914¹⁴⁾・1 ♂, 19620827¹⁴⁾
// 瀬ノ原山 2 ♂♂, 19840607¹⁵⁾
新庄市新庄温泉 19610615²⁾
// 村木沢¹⁹⁾
上山市金瓶¹⁹⁾
村山市大久保⁷⁾
上山市金瓶¹⁹⁾
東根市関山 1 ♂, 19781028(博物館)
南陽市吉野中 1 ♂, 19880506(伊藤)
藤島町藤島 19570509³⁶⁾・19710529³⁶⁾・
// 矢ノ沢 1 ♂, 19880514(伊藤)
19720620³⁶⁾・19720911³⁶⁾・19730821³⁶⁾
中山町岩谷 1 ♂, 19860521(木俣)
遊佐町吹浦 1 ♀, 19840616(木俣)
西川町志津 1 ♀, 19860622¹⁸⁾³⁹⁾
鳥海山ソブ谷地 19660800³⁾
108 *Panolis flammea japonica* Draudt マツキリ

- ガ
- 山形市村木沢¹⁹⁾
- 〃 門伝大平 2♂♂, 19860518(木俣)
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 東根市水無山泥沢 1♂, 19860527⁴⁰⁾
- 南陽市荻小 1♂, 19880511(伊藤)
- 藤島町藤島 19710414³⁶⁾
- 109 *Clavipalpus aurariae* (Oberthür) キンイロ
キリガ
- 山形市面白山 1♀, 19750816⁹⁾・2♀♀,
19820530⁹⁾
- 〃 瀬ノ原山 2♀♀, 19840607¹⁵⁾
- 〃 村木沢¹⁹⁾
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 中山町岩谷 1♂, 19860521(木俣)
- 西川町志津 1♂1♀, 19860622¹⁸⁾³⁹⁾
- 藤島町藤島 19760514³⁶⁾
- 110 *Perigrapha hoenei* Püngeler スギタニキリ
ガ
- 山形市沼の辺 2♂♂, 19830327¹¹⁾
- 〃 釈迦堂 19830000¹¹⁾
- 〃 高瀬 2♂♂, 19840422¹⁵⁾
- 〃 村木沢¹⁹⁾
- 〃 盃山 3♂♂, 19860408(木俣, 内1♂は
博物館)
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 中山町岩谷 1♂, 19860413(木俣)
- 西川町志津姥沢小屋 2♂♂2♀♀,
19830528¹⁶⁾
- 〃 大井沢中村 3♂♂, 19860510(木俣, 内
1♂は博物館)
- 〃 志津月山荘 3♂♂, 19860511¹⁸⁾³⁹⁾ (内
1♂は博物館)
- 〃 志津 1♂, 19860622¹⁸⁾³⁹⁾
- 小国町叶水 1♀, 19750500(木俣)
- 飯豊連峰ヌクミ平⁸⁾・1♂, 19670512¹⁴⁾
- 111 *Orthosia incerta incognita* Sugi ミヤマカバ
キリガ
- 山形市村木沢¹⁹⁾
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 112 *Orthosia exanida* (Butler) カバキリガ
- 山形市山寺 1♂, 19770521(博物館)
- 〃 釈迦堂 3♂♂, 19830327¹¹⁾
- 〃 沼の辺 19830000¹¹⁾
- 〃 新山 19830000¹¹⁾
- 〃 若木 19830000¹¹⁾
- 〃 滑川 1♂, 19830409¹¹⁾
- 〃 西蔵王高原 2♂♂, 19830424¹⁰⁾
- 〃 高瀬 5♂♂, 19840422¹⁵⁾
- 〃 村木沢¹⁹⁾
- 〃 盃山 1♂, 19860408(木俣)
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 南陽市吉野中 1 ex., 19880428(伊藤)
- 西川町志津月山荘 1♂, 19860511¹⁸⁾³⁹⁾
- 〃 弓張平 1♂, 19880516³⁹⁾
- 藤島町藤島 19750406³⁶⁾・19750426³⁶⁾
- 113 *Orthosia aoyamensis* (Matsumura) アオヤ
マキリガ
- 西川町志津姥沢小屋 4♂♂2♀♀,
19830528¹⁶⁾¹⁸⁾³⁹⁾
- 〃 志津月山荘 5♂♂, 19860511¹⁸⁾³⁹⁾ (内
2♂♂は博物館)
- 〃 志津 1♀, 19860622¹⁸⁾³⁹⁾
- 114 *Orthosia lizetta* Butler クロミキリガ
- 山形市村木沢¹⁹⁾
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 藤島町藤島 19740430³⁶⁾
- 115 *Orthosia paromoea* (Hampson) ブナキリガ
- 山形市沼の辺 1♂2♀♀, 19830412¹¹⁾
- 〃 村木沢¹⁹⁾
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 南陽市吉野中 1 ex., 19880501(伊藤)

- 藤島町藤島 19750427³⁶⁾・19760416³⁶⁾
♂ 1 ♀ は博物館)
- 116 *Orthosia angustipennis* (Matsumura) ホソバキリガ
山形市盃山 6 ♂♂, 19830322¹¹⁾
// 沼の辺 19830000¹¹⁾
// 若木 19830000¹¹⁾
// 新山 1 ♂, 19830409¹¹⁾
// 釈迦堂 19830000¹¹⁾
// 高瀬 6 ♂♂, 19840422¹⁵⁾
// 村木沢¹⁹⁾
上山市金瓶¹⁹⁾
西川町弓張平 1 ♂, 19880516³⁹⁾
- 117 *Orthosia ella* (Butler) ヨモギキリガ
山形市村木沢¹⁹⁾
上山市金瓶¹⁹⁾
南陽市矢ノ沢 1 ♀, 19880618(伊藤)
西川町弓張平 1 ♂, 19880516³⁹⁾
藤島町藤島 19740421³⁶⁾
- 118 *Orthosia limbata* (Butler) シロヘリキリガ
山形市村木沢¹⁹⁾
// 盃山 5 ♂♂ 9 ♀♀, 19860408(木俣, 内 4 ♂♂ 1 ♀ は博物館)
上山市金瓶¹⁹⁾
中山町岩谷 1 ♂, 19860413(木俣)
- 119 *Orthosia munda* (Denis et Schiffermüller) スモモキリガ
山形市山寺 1 ♀, 19770411(博物館)・1 ♀, 19770512(博物館)
// 釈迦堂 1 ♂, 19830327¹¹⁾
// 沼の辺 3 ♀♀, 19830412¹¹⁾
// 若木 19830000¹¹⁾
// 西藏王高原 1 ♀, 19830424¹⁰⁾
// 村木沢¹⁹⁾
// 盃山 16 ♂♂ 9 ♀♀, 19860408(木俣, 内 5 ♂♂ 3 ♀♀ は博物館)
// 礪石 5 ♂♂ 2 ♀♀, 19860417⁴²⁾ (内 1
- ♂ 1 ♀ は博物館)
上山市金瓶¹⁹⁾
中山町岩谷 3 ♂♂ 4 ♀♀, 19860413(木俣, 内 1 ♂ 1 ♀ は博物館)
西川町弓張平 4 ♂♂, 19880516³⁹⁾
藤島町藤島 19730422³⁶⁾・19750409³⁶⁾
- 120 *Orthosia odiosa* (Butler) チャイロキリガ
山形市沼の辺 1 ♀, 19830412¹¹⁾
// 西藏王高原 1 ♂ 1 ♀, 19840519¹⁰⁾
// 盃山 7 ♂♂, 19860408(木俣, 内 3 ♂♂ は博物館)
上山市金瓶¹⁹⁾
西川町弓張平 1 ♀, 19880516³⁹⁾
藤島町藤島 19740421³⁶⁾
- 121 *Orthosia gothica askoldensis* (Staudinger) カシワキリガ
山形市山寺 1 ♀, 19770512(博物館)
// 新山 2 ♂♂, 19830409¹¹⁾
// 沼の辺 1 ♀, 19830412¹¹⁾
// 高瀬 2 ♂♂, 19840422¹⁵⁾
// 村木沢¹⁹⁾
// 盃山 6 ♂♂, 19860408(木俣, 内 2 ♂♂ は博物館)
上山市金瓶¹⁹⁾
南陽市荻小 2 ♀♀, 19880428(伊藤)
// 矢ノ沢 1 ♀, 19880510(伊藤)
西川町志津月山荘 1 ♂, 19860511¹⁸⁾³⁹⁾
// 志津 1 ♂, 19860622¹⁸⁾³⁹⁾
// 大井沢中村 1 ♀, 19870523(木俣)
小国町叶水 2 ♂♂, 19750500(木俣)
藤島町藤島 19740513³⁶⁾・19750406³⁶⁾・19760425³⁶⁾・19760504³⁶⁾
飯豊連峰ヌクミ平⁸⁾・1 ♂, 19670512¹⁴⁾・1 ♂, 19690528(博物館)
- 122 *Orthosia carnipennis* (Butler) アカバキリガ

- 山形市緑町 2 ♂♂ 1 ♀, 19610414 (博物館) 19860915 (木俣)
- // 本町 1 ♀, 19610502 (博物館) 西川町間沢 1 ♂, 19660812⁴⁾
- // 山寺 1 ♀, 19770511 (博物館) 小国町沼沢 1 ♀, 19730626 (博物館)
- // 沼の辺 2 ♀♀, 19830412¹¹⁾ 藤島町藤島 19590608³⁶⁾・19660622³⁶⁾・
19660906³⁶⁾・19730728³⁶⁾
- // 蔵王高原 1 ♂, 19830424¹⁰⁾・2 ♂♂, 19840519¹⁰⁾ 124 *Mythimna matsumuriana* (Bryk) ミヤマフ
タオビキヨトウ
- // 盃山 2 ♂♂, 19860408 (木俣) 山形市面白山 1 ♂, 19740824⁹⁾・2 ♂♂,
19750816⁹⁾
- // 村木沢¹⁹⁾ // 村木沢¹⁹⁾
- 上山市金瓶¹⁹⁾ // 上宝沢 1 ♀, 19880821⁴¹⁾
- 南陽市荻小 1 ♂, 19880511 (伊藤) 酒田市 1 ♀, 19591000¹²⁾
- 西川町弓張平 4 ♂♂ 2 ♀♀, 19880516³⁹⁾ 上山市金瓶¹⁹⁾
- 藤島町藤島 19730415³⁶⁾・19730508³⁶⁾・ 村山市北町⁷⁾
- 19730518³⁶⁾・19740413³⁶⁾ 南陽市矢ノ沢 1 ex., 19880821 (伊藤)
- 123 *Mythimna turca* (Linnaeus) フタオビキヨ 中山町岩谷 1 ♀, 19860803 (木俣)
- トウ 西川町志津 2 ♂♂, 19610808¹²⁾¹⁴⁾¹⁸⁾³⁹⁾
- 山形市 1 ♀, 19600911 (木俣)・1 ♂, 19600912 鳥海山ソブ谷地 19660800⁹⁾
- (木俣) 朝日連峰天狗小屋 1 ♀, 19540814⁴⁾
- // 本町 1 ♀, 19610621 (博物館)・1 ♀, 蔵王連峰坊平¹⁰⁾
- 19610816 (博物館)・1 ♂, 19610823 (博物館) 125 *Mythimna grandis* Butler オオフタオビキ
ヨトウ
- // 奥山寺 1 ♀, 19730903⁹⁾ 山形市高瀬 1 ♂, 19830910¹⁵⁾
- // 山寺 2 ♂♂, 19770606 (博物館) // 村木沢¹⁹⁾
- // 高瀬 4 ♂♂, 19830910 (木俣) // 不動沢 1 ♀, 19880712⁴¹⁾
- // 村木沢¹⁹⁾ 酒田市 1 ♂, 19590619¹⁴⁾・1 ♂, 19610711¹⁴⁾
- // 不動沢 1 ♂, 19880622⁴¹⁾ // 北千日町 1 ♀, 19680619 (博物館)
- // 上宝沢 1 ♂ 1 ♀, 19880821 (木俣) 上山市金瓶¹⁹⁾
- 米沢市 1 ♀, 19720619 (山谷) 天童市荒谷 1 ♀, 19820902⁹⁾
- 酒田市北千日町 1 ♀, 19680800 (博物館) 西川町間沢 1 ♂, 19750725⁵⁾
- 上山市金瓶¹⁹⁾ 藤島町藤島 19570624³⁶⁾・19590608³⁶⁾・
19730723³⁶⁾
- 村山市北町⁷⁾ 吾妻連峰天元台 1 ♀, 19800803 (木俣)
- // 大久保⁷⁾ 126 *Mythimna divergens* Butler ナガフタオビ
キヨトウ
- 天童市荒谷 1 ♂, 19800909⁹⁾・1 ♀, 山形市本町 1 ♂, 19620805 (木俣)
- 19820830⁹⁾・2 ♂♂, 19820831⁹⁾・1 ♂, 19820901⁹⁾・1 ♀, 19820902⁹⁾・1 ♂, 19820903⁹⁾
- 山辺町荒沼 1 ♂ 1 ♀, 19870827 (木俣)・2 ♂ 吾妻連峰天元台 1 ♀, 19800803 (木俣)
- ♂, 19880704 (木俣) 126 *Mythimna divergens* Butler ナガフタオビ
キヨトウ
- 中山町岩谷 2 ♂♂, 19860628 (木俣)・1 ♀, 山形市本町 1 ♂, 19620805 (木俣)

- // 村木沢¹⁹⁾
 // 門伝大平 1 ♀, 19850708(木俣)
 // 上宝沢⁴¹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市北町⁷⁾
 尾花沢市御所山荘 1 ♀, 19870814⁴⁰⁾
 中山町岩谷 1 ♀, 19860803(木俣)
 藤島町藤島 19730722³⁶⁾・19740714³⁶⁾
 鳥海山 19660800³⁾
 蔵王連峰観松平 2 ♀♀, 19870718(木俣)
- 127 *Aletia rufipennis* (Butler) アカバキヨトウ
 山形市村木沢¹⁹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
- 128 *Aletia conigera* (Denis et Schiffermüller)
 シロテンキヨトウ
 山形市村木沢¹⁹⁾⁴²⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 藤島町藤島 19730720³⁶⁾・19760802³⁶⁾
- 129 *Aletia pudorina subrosea* (Matsumura) ウ
 スベニキヨトウ
 上山市金瓶¹⁹⁾
- 130 *Aletia pallens* (Linnaeus) タンポキヨトウ
 山形市蔵王高原 1 ♂, 19840614¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 酒田市飛島⁸⁾・1 ex.,19700604¹²⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市大久保⁷⁾
 藤島町藤島³⁶⁾
- 131 *Aletia flavostigma* (Bremer) マダラキヨトウ
 山形市本町 1 ♀, 19610511(木俣)・1 ♀,
 19610603(木俣)・1 ♀, 19620503(木俣)
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 上宝沢 2 ♂♂, 19880709(木俣)
 // 不動沢 1 ♂, 19880712⁴¹⁾
 // 村木沢早坂林道 1 ♂, 19890614(木俣)
- 鶴岡市由良 1 ♀, 19880611(木俣)
 上山市蔵王ライン 1 ♀, 19840707¹⁰⁾
 // 金瓶¹⁹⁾
 村山市大久保⁷⁾
 東根市柳沢小屋 3 ♀♀, 19860728⁴⁰⁾
 西川町志津 1 ♀, 19750725⁶⁾¹⁸⁾³⁹⁾・1 ♂ 1 ♀,
 19860726¹⁸⁾³⁹⁾・1 ♂, 19860824¹⁸⁾³⁹⁾・2 ♂♂,
 19870729
 // 志津荒沢橋 1 ♂, 19840715³⁹⁾
 // 志津月山荘 1 ♂, 19850803¹⁷⁾³⁹⁾・2 ♂♂
 1 ♀, 19880723³⁹⁾
 藤島町藤島³⁶⁾
 蔵王連峰坊平 1 ♀, 19790728¹⁰⁾
- 132 *Aletia inornata* (Leech) ツマアカキヨトウ
 山形市村木沢¹⁹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 藤島町藤島 19740522³⁶⁾
- 133 *Aletia perstriata* Sugi ヒトツメキヨトウ
 山形市村木沢¹⁹⁾
 // 村木沢早坂林道 1 ♀, 19890803(木俣)
 上山市金瓶¹⁹⁾
- 134 *Aletia simplex* (Leech) ツマグロキヨトウ
 上山市金瓶¹⁹⁾
- 135 *Aletia radiata stellata* (Hampson) フタテン
 キヨトウ
 山形市面白山 1 ♀, 19820710
 // 蔵王高原 1 ♂, 19840614¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 鶴岡市由良 1 ♀, 19880611(木俣)
 上山市蔵王ライン 1 ♀, 19840707¹⁰⁾
 // 金瓶¹⁹⁾
 東根市柳沢小屋 1 ♀, 19860728⁴⁰⁾
 南陽市荻小 1 ex.,19880531(伊藤)
 西川町志津 1 ♂, 19750725⁶⁾¹⁸⁾³⁹⁾
 // 間沢 1 ♂, 19750728⁵⁾
 // 志津月山荘 1 ♂, 19880723³⁹⁾

- 藤島町藤島 19720714³⁶⁾・19720820³⁶⁾
 蔵王連峰観松平 1♂, 19680818(木俣)
 // 坊平 2♂♂, 19790728¹⁰⁾
- 136 *Aletia salebrosa* (Butler) カバフクロテンキ
 ヨトウ
 山形市村木沢¹⁹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 藤島町藤島 19650825³⁶⁾・19710608³⁶⁾・
 19710615³⁶⁾・19720730³⁶⁾
- 137 *Aletia nigrilinea* (Leech) スジグロキョトウ
 上山市金瓶¹⁹⁾
- 138 *Pseudaletia separata* (Walker) アワヨトウ
 山形市蔵王温泉 1♂, 19580814¹⁴⁾
 山形市 1♂, 19601108(博物館)・1♂,
 19601110(博物館)・1♂, 19601111(博物館)・
 1♂, 19601115(博物館)
 酒田市 1♂, 19581017¹⁴⁾・1♂, 19591000¹²⁾・
 1♂, 19601126¹⁴⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 天童市荒谷 1♂, 19820903⁹⁾
 西川町志津 1♂1♀, 19870729³⁸⁾³⁹⁾
 藤島町藤島 19710608³⁶⁾・19721012³⁶⁾・
 19730821³⁶⁾・19740725³⁶⁾
 朝日連峰天狗小屋 1♂, 19610807(博物館)
 鳥海山河原宿 19660800³⁾
- 139 *Dysaletia inanis* (Oberthür) ウスイロキョ
 トウ
 藤島町藤島 19660809³⁶⁾・19730511³⁶⁾
- 140 *Anapoma postica* (Hampson) アカスジキョ
 トウ
 山形市蔵王高原 1♀, 19830826¹⁰⁾・1♂,
 19840614¹⁰⁾
 // 村木沢早坂林道 1♂, 19890614(木俣)
 上山市金瓶¹⁹⁾
 天童市荒谷 1♀, 19820904⁹⁾
- 141 *Leucania insecta* Walker ノヒラキョトウ
 上山市金瓶¹⁹⁾
 藤島町藤島 19720730³⁶⁾・19740519³⁶⁾・
 19740601³⁶⁾
- 142 *Leucania striata* Leech スジシロキョトウ
 藤島町藤島 19760612³⁶⁾
- 143 *Acantholeucania loreyi* (Duponchel) クサシ
 ロキョトウ
 上山市金瓶¹⁹⁾
 藤島町藤島 19760708³⁶⁾
- 144 *Senta flammea stenoptera* (Staudinger) ナ
 カスジキョトウ
 藤島町藤島 19680901³⁶⁾・19730901³⁶⁾
- Cuculliinae セダカモクメ亜科
- 145 *Cucullia maculosa* Staudinger ハイイロセ
 ダカモメ
 山形市蔵王高原 2♂♂, 19830826¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 鶴岡市湯野浜⁷⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 天童市荒谷 1♀, 19800905⁹⁾・1♂,
 19820830⁹⁾・1♀, 19820831⁹⁾・1♀, 19820909⁹⁾
 山辺町荒沼 2♂♂, 19870827(木俣, 内1♂は
 博物館)
 蔵王連峰観松平 1♀, 19680818¹⁰⁾
- 146 *Cucullia perforata* Bremer セダカモクメ
 山形市蔵王高原 1♂, 19830826¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 西川町志津 1♂, 19870820³⁸⁾³⁹⁾
 朝日村荒沢ダム 1♂, 19820818(木俣)
- 147 *Cucullia jankowskii* Oberthür ギンモンセ
 ダカモクメ
 鳥海山鳥ノ海 19660800³⁾
 // ソブ谷地 19660800³⁾
 // 河原宿 19660800³⁾

- 148 *Cucullia fraterna* Butler ホソバセダカモク
メ
山形市村木沢¹⁹⁾
上山市金瓶¹⁹⁾
西川町間沢 1♂, 19730804⁴⁾
- 149 *Cucullia elongata* Butler キクセダカモクメ
山形市西藏王高原 1♀, 19840614¹⁰⁾
// 村木沢¹⁹⁾
新庄市新庄温泉 19610615²⁾
上山市金瓶¹⁹⁾
村山市大久保⁷⁾
天童市荒谷 1♂, 19820909⁹⁾
尾花沢市御所山荘 2♀♀, 19870814⁴⁰⁾
西川町間沢 1♂, 19730804⁴⁾
小国町叶水 3♂♂, 19750614(木俣)
藤島町藤島 19570908³⁶⁾・19730801³⁶⁾・
19730821³⁶⁾
鳥海山河原宿 6♂♂3♀♀, 19660810³¹⁾
// ソブ谷地 1♀, 19660810³¹⁾
// 千蛇ヶ谷 4♂♂3♀♀, 19720807³¹⁾
月山胎内岩 1♂, 19700803³¹⁾
朝日連峰天狗小屋⁸⁾・1♂, 19610807(博物館)
// 竜門小屋 1♀, 19640723³¹⁾
蔵王山 2♂♂, 19720813(木俣)
蔵王連峰観松平¹⁰⁾
- 150 *Cucullia ledereri* Staudinger タカネキクセ
ダカモクメ
月山胎内岩 1♂, 19700803³¹⁾
朝日連峰竜門小屋 1♂, 19720810³¹⁾
飯豊連峰烏帽子岳 1♂, 19680731³¹⁾・1♀,
19680801³¹⁾
- 151 *Daseochaeta viridis* (Leech) ケンモンミド
リキリガ
山形市高瀬 1♂, 19831106¹⁵⁾
// 西藏王高原 1♂, 19841018¹⁰⁾
// 不動沢⁴¹⁾
- 尾花沢市鍋越峠 1♀, 19870930⁴⁰⁾
西川町志津 1♂, 19741025¹³⁾¹⁸⁾³⁹⁾・11♂♂,
19861010¹⁸⁾³⁹⁾(内2♂♂は博物館)
吾妻連峰吾妻温泉⁸⁾
// 新高湯 1♂, 19700926¹²⁾・1♂,
19700926¹⁴⁾・3♂♂, 19710929¹³⁾(内2♂♂は
博物館)
- 152 *Dryobotodes intermissa* (Butler) ナカオビ
キリガ
山形市西藏王高原 1♀, 19841018¹⁰⁾
// 村木沢 1 ex., 19841019¹⁹⁾
南陽市吉野中 1 ex., 19881114(伊藤)
- 153 *Dryobotodes pryeri* (Leech) プライヤオビキ
リガ
山形市面白山 1♂, 19770917⁹⁾
// 西藏王高原 1♂1♀, 19841018¹⁰⁾・1♂
1♀, 19841023¹⁰⁾
上山市金瓶 1♀, 19851021¹⁹⁾
朝日村下名川 1♂, 19821023(木俣)
- 154 *Dasyptolia fani* Staudinger オガサワラヒゲ
ヨトウ
上山市金瓶 1♂, 19741212¹⁹⁾
- 155 *Xylena fumosa* (Butler) アヤモクメキリガ
山形市村木沢 1 ex., 19830408¹⁹⁾
上山市金瓶 1♂, 19780620¹⁹⁾
- 156 *Xylena formosa* (Butler) キバラモクメキリ
ガ
山形市本町 1 ex., 19610411(木俣)・1 ex.,
19620406(木俣)・2 exs., 19620407(木俣)・1
ex., 19620409(木俣)
// 山寺 1♂, 19761024(博物館)
// 盃山 1♂, 19830322¹¹⁾・5♂♂2♀♀,
19860408(木俣, 内1♂2♀♀は博物館)
// ニツ橋 19830000¹¹⁾
// 釈迦堂 19830000¹¹⁾
// 沼の辺 19830000¹¹⁾

- // 若木 1 ♂, 19830331¹¹⁾ 19701009¹²⁾
 // 高瀬 1 ♂, 19840422¹⁵⁾ 南陽市矢ノ沢 1 ♀, 19880517(伊藤)
 // 西藏王高原 1 ex.,19840529¹⁰⁾ 161 *Lithophane venusta* (Leech) ウスアオキリ
 // 村木沢¹⁹⁾ ガ
 上山市金瓶¹⁹⁾ 山形市西藏王高原 3 exs.,19841018¹⁰⁾
 南陽市吉野中 1 ♂, 19880501(伊藤) 162 *Lithophane rosinae* (Püngeler) カタハリキ
 // 荻小 1 ex.,19880506(伊藤) リガ
 藤島町藤島 19711025³⁶⁾・19750414³⁶⁾ 鶴岡市大山八森山 1 ♀, 19620406²³⁾・1 ♀,
 飯豊連峰ヌクミ平 1 ♀, 19670921¹⁴⁾ 19640330²⁴⁾
 // 高館山 1 ♂, 19640414²⁴⁾
 157 *Lithophane ustulata* (Butler) ハンノキリガ
 山形市沼の辺 1 ♂ 1 ♀, 19830327¹¹⁾・1 ♂ 3 ♀ 163 *Lithophane socia* (Hufnagel) ナカグロホソ
 ♀, 19830412¹¹⁾ キリガ
 // 西藏王高原 1 ♂, 19841018¹⁰⁾ 山形市本町 1 ♂, 19620412(木俣)
 // 盃山 4 ♂♂ 3 ♀♀, 19860408(木俣, 内 1 ♂ 1 ♀ は博物館) // 西藏王高原 1 ♂, 19840915¹⁰⁾
 // 礫石 1 ♂, 19860417(木俣) 米沢市白布高湯 1 ♂, 19701009¹²⁾・1 ♂,
 西川町志津 2 ♀♀, 19861010¹⁸⁾³⁹⁾ 19701009¹⁴⁾
 西川町月山沢 1 ♂, 19791011¹²⁾¹⁸⁾³⁹⁾
 // 志津姥沢小屋 5 ♀♀, 19830528¹⁶⁾¹⁸⁾³⁹⁾
 朝日連峰天狗小屋 1 ♀, 19680917(木俣)
 158 *Lithophane pruinosa* (Butler) カシワキボシ 164 *Eupsilia contractra* (Butler) ウスミモン
 キリガ
 山形市沼の辺 1 ♂, 19830327¹¹⁾ キリガ
 // 西藏王高原 1 ex.,19841018¹⁰⁾・2 exs., 山形市二ツ橋 1 ♂ 1 ♀, 19830323¹¹⁾
 19841023(木俣) // 若木 1 ♂, 19830331¹¹⁾
 // 盃山 2 ♂♂ 2 ♀♀, 19860408(木俣, 内 2 ♂♂ は博物館) 165 *Hemiglaea costalis* (Butler) キマエキリガ
 上山市金瓶 1 ♂, 19840416¹⁹⁾ 上山市金瓶 1 ♀, 19831130¹⁹⁾
 南陽市吉野中 1 ex.,19881114(伊藤) 藤島町藤島 19711004³⁶⁾
 159 *Lithophane consocia* (Borkhausen) シロク 166 *Sugitania lepida* (Butler) スギタニモンキリ
 ビキリガ ガ
 山形市沼の辺 1 ♂, 19830412¹¹⁾ 上山市金瓶 1 ♀, 19821104¹⁹⁾
 西川町弓張平 19880516³⁹⁾ 西川町志津 1 ♀, 19871118³⁹⁾
 吾妻連峰新高湯 1 ♂, 19701009¹²⁾・1 ♂, 167 *Agrochola evelina* (Butler) フサヒゲオビキ
 19701009¹⁴⁾・1 ♂, 19710929¹³⁾ リガ
 山形市盃山 1 ♂, 19830322¹¹⁾・2 ♀♀,
 160 *Lithophane plumbealis* (Matsumura) モン 19860408(木俣)
 ハイイロキリガ // 沼の辺 3 ♀♀, 19830412¹¹⁾
 山形市釈迦堂 1 ♂, 19830327¹¹⁾ 168 *Conistra grisescens* Draudt ミヤマオビキリ
 米沢市白布高湯 1 ♂, 19701003¹⁴⁾・1 ♂,

- ガ
- 山形市平清水 19830000¹¹⁾
- // 釈迦堂 19830000¹¹⁾
- // 沼の辺 19830000¹¹⁾
- // 新山 1 ♂ 2 ♀ ♀, 19830409¹¹⁾
- // 盃山 11 ♂ ♂ 4 ♀ ♀, 19830322¹¹⁾
- // 村木沢¹⁹⁾
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 南陽市矢ノ沢 2 ♂ ♂, 19880514(伊藤)
- 169 *Conistra fletcheri* Sugi テンスジキリガ
- 山形市盃山 5 ♂ ♂ 1 ♀, 19830322¹¹⁾・4 ♂ ♂ 3 ♀ ♀, 19860408(木俣, 内 2 ♂ ♂ 1 ♀ は博物館)
- // 平清水 19830000¹¹⁾
- // 釈迦堂 19830000¹¹⁾
- // 沼の辺 19830000¹¹⁾
- // 新山 1 ♂ 1 ♀, 19830409¹¹⁾
- // 村木沢¹⁹⁾
- // 礫石 1 ♂, 19860417(木俣)
- // 西蔵王高原 3 ♂ ♂ 1 ♀, 19860424(木俣, 内 1 ♂ 1 ♀ は博物館)
- // 不動沢⁴¹⁾
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 中山町岩谷 1 ♂ 1 ♀, 19860413(木俣)
- 西川町志津 19871118³⁹⁾
- 170 *Conistra albipuncta* (Leech) ホシオビキリガ
- 山形市盃山 11 ♂ ♂ 8 ♀ ♀, 19830322¹¹⁾・9 ♂ ♂ 3 ♀ ♀, 19860408(木俣, 内 4 ♂ ♂ 1 ♀ は博物館)
- // 釈迦堂 19830000¹¹⁾
- // 沼の辺 19830000¹¹⁾
- // ニツ橋 19830000¹¹⁾
- // 若木 19830000¹¹⁾
- // 新山 2 ♂ ♂, 19830409¹¹⁾
- // 平清水 19830000¹¹⁾
- // 霞城公園 1 ♂, 19840406(博物館)
- // 村木沢¹⁹⁾
- // 礫石 2 ♂ ♂ 1 ♀, 19860417(木俣, 内 1 ♂ は博物館)
- // 西蔵王高原 1 ♀, 19860424(木俣)
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 中山町岩谷 1 ♂, 19860413(木俣)
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 藤島町藤島 19660621³⁶⁾・19760501³⁶⁾
- 172 *Orbona fragariae* (Vieweg) イチゴキリガ
- 山形市本町 2 ♂ ♂, 19610408(博物館)
- // 盃山 2 ♂ ♂, 19830322¹¹⁾・1 ♂ 1 ♀, 19860408(木俣)
- // 平清水 19830000¹¹⁾
- // ニツ橋 19830000¹¹⁾
- // 釈迦堂 19830000¹¹⁾
- // 沼の辺 19830000¹¹⁾
- // 若木 19830000¹¹⁾
- // 新山 1 ♂, 19830409¹¹⁾
- // 村木沢¹⁹⁾
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 南陽市吉野中 1 ♀, 19880428(伊藤)
- 173 *Xanthia togata* (Esper) キイロキリガ
- 山形市笹谷峠 5 ♂ ♂ 2 ♀ ♀, 19680928¹⁰⁾
- // 面白山 1 ♂, 19770917(木俣)
- // 山寺 1 ♂, 19771009(博物館)
- 尾花沢市鍋越峠 1 ♂, 19870930⁴⁰⁾
- 西川町志津 1 ♂, 19731002¹³⁾¹⁸⁾³⁹⁾・1 ♂ 1 ♀, 19861010¹⁸⁾³⁹⁾
- // 月山沢 2 ♂ ♂, 19791011¹²⁾¹⁸⁾³⁹⁾
- 吾妻連峰新高湯 1 ♂, 19701009¹²⁾・1 ♂, 19701009¹⁴⁾
- 174 *Xanthia japonago* (Wileman et West) エゾキイロキリガ

- 山形市面白山 1 ♀, 19770917(木俣)
 // 村木沢 1 ♂, 19841017¹⁹⁾
 // 西蔵王高原 1 ♂, 19841023(木俣)
 米沢市白布高湯 1 ♀, 19700926(博物館)・1 ♀, 19701009(博物館)
 吾妻連峰新高湯 1 ♀, 19700926¹⁴⁾・1 ♂, 19700926¹²⁾・1 ♂, 19710901¹³⁾
- 175 *Jodia sericea* (Butler) ミスジキリガ
 山形市盃山 2 ♂♂ 1 ♀, 19830322¹¹⁾・10 ♂♂ 4 ♀♀, 19860408(木俣, 内 2 ♂♂ 3 ♀♀は博物館)
 // 沼の辺 10 ♂♂ 4 ♀♀, 19830327¹¹⁾
- 176 *Telorta acuminata* (Butler) ウスキトガリキリガ
 山形市山寺 1 ♀, 19761024(博物館)
 上山市金瓶¹⁹⁾
 東根市関山 2 ♂♂, 19780721(博物館)
 南陽市吉野中 1 ♀, 19881106(伊藤)・1 ♂, 19881114(伊藤)・1 ♂, 19881122(伊藤)・1 ♂, 19881123(伊藤)
 藤島町藤島 19731021³⁶⁾・19731030³⁶⁾
- 177 *Telorta edentata* (Leech) キトガリキリガ
 山形市笹谷峠 3 ♂♂ 1 ♀, 19680928(木俣)¹⁰⁾
 // 山寺 1 ♂ 2 ♀♀, 19761024(博物館)・1 ex., 19780603(博物館)
 // 面白山 4 ♂♂ 2 ♀♀, 19771022(木俣)
 // 高瀬 4 ♂♂ 7 ♀♀, 19831113¹⁵⁾
 // 西蔵王高原 1 ♂ 2 ♀♀, 19841018(木俣)・1 ♂ 3 ♀♀, 19841023(木俣)
 // 不動沢⁴¹⁾
 米沢市白布高湯 1 ♀, 19701009¹²⁾・1 ♀, 19701009¹⁴⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 尾花沢市鍋越峠 7 ♂♂ 1 ♀, 19870930⁴⁰⁾
 南陽市吉野中 3 ♂♂ 3 ♀♀, 19881114(伊藤)・1 ♂, 19881122(伊藤)
- 西川町志津 23 ♂♂ 2 ♀♀, 19861010¹⁸⁾³⁹⁾ (内 13 ♂♂は博物館)
 朝日村荒沢ダム 1 ♂ 1 ♀, 19821023(木俣)
 吾妻連峰新高湯 1 ♂, 19700909¹²⁾・1 ♂, 19700909¹⁴⁾
- 178 *Telorta divergens* (Butler) ノコメトガリキリガ
 山形市 1 ♂, 19601111(博物館)・2 ♂♂, 19601113(博物館)・1 ♂, 19601114(博物館)
 // 高瀬 1 ♂, 19831106¹⁵⁾・1 ♂, 19831113¹⁵⁾
 // 笹谷峠¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 酒田市 1 ♂, 19591004¹²⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 尾花沢市鍋越峠 1 ♂, 19870930⁴⁰⁾
 南陽市吉野中 1 ♂ 1 ♀, 19881106(伊藤)
 西川町志津 4 ♀♀, 19861010¹⁸⁾³⁹⁾ (内 2 ♀♀は博物館)
 藤島町藤島 19711002³⁶⁾・19740609³⁶⁾・19740617³⁶⁾・19760930³⁶⁾・19761014³⁶⁾
- 179 *Antivaleria viridimacula* (Graeser) アオバハガタヨトウ
 山形市山寺 1 ♂, 19761024(博物館)
 // 高瀬 1 ♂, 19831113¹⁵⁾
 // 西蔵王高原 1 ♂, 19841023(木俣)
 米沢市白布高湯 1 ♂, 19701007¹²⁾・1 ♂, 19701009¹⁴⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 尾花沢市鍋越峠 1 ♂, 19870930⁴⁰⁾
 南陽市吉野中 6 exs., 19881114(伊藤)
 西川町月山沢 1 ♀, 19791011¹²⁾¹⁸⁾³⁹⁾
 // 志津 1 ♂, 19861010¹⁸⁾³⁹⁾
 小国町叶水 1 ♂, 19761009(木俣)・1 ♀, 19771103(木俣)
 朝日村荒沢ダム 1 ♂, 19821023(木俣)

- 飯豊連峰ヌクミ平 1 ♀, 19670512¹⁴⁾
 吾妻連峰新高湯 1 ♂, 19710929¹⁴⁾
- 180 *Blepharita amica ussuriensis* Sheljuzhko ム
 ラサキハガタヨトウ
 山形市高瀬 2 ♂♂, 19831106¹⁵⁾
- 181 *Blepharita melanodonta* (Hampson) オオハ
 ガタヨトウ
 山形市山寺 1 ♀, 19761024 (博物館)
 // 高瀬 2 ♂♂ 1 ♀, 19831113¹⁵⁾
 // 蔵王高原 1 ♂, 19841023 (木俣)
 上山市金瓶¹⁹⁾
 南陽市吉野中 2 ♂♂, 19881106 (伊藤)・1 ♂,
 19881122 (伊藤)
 西川町志津月山荘 1 ♂, 19850803¹⁷⁾³⁸⁾³⁹⁾
 朝日村荒沢ダム 1 ♂, 19821023 (木俣)
 蔵王連峰ドッコ沼⁴¹⁾
 吾妻連峰新高湯 1 ♂, 19700926¹²⁾
- 182 *Blepharita bathensis* (Lutzu) ミヤマハガ
 タヨトウ
 鳥海山千畳ヶ原⁸⁾
 // 鳥ノ海 19660800³⁾
 蔵王連峰御田神 2 ♀♀, 19840730¹⁰⁾・1 ♂,
 19840814¹⁰⁾
- 183 *Meganephria funesta* Leech ホソバハガタヨ
 トウ
 山形市山寺 1 ♂, 19761024 (博物館)
 // 村木沢¹⁹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
- 184 *Meganephria extensa* (Butler) ミドリハガタ
 ヨトウ
 山形市高瀬 2 ♂♂, 19831113¹⁵⁾
 南陽市吉野中 1 ♂ 1 ♀, 19881122 (伊藤)
- Amphipyriinae カラスヨトウ亜科**
- 185 *Sidemia bremeri* (Erschoff) クロビロード
 ヨトウ
- 上山市金瓶¹⁹⁾
 藤島町藤島 19720901³⁶⁾
- 186 *Apamea crenata* (Hufnagel) カドモンヨト
 ウ
 山形市不動沢 1 ♀, 19880712⁴¹⁾
 東根市柳沢小屋 1 ♀, 19860728⁴⁰⁾
 鳥海山御田 19660800³⁾
 // 鳥ノ海 19660800³⁾
 蔵王連峰御田神 1 ♀, 19840730¹⁰⁾
 // 観松平 4 ♂♂ 4 ♀♀, 19870718 (木俣,
 内 3 ♀♀は博物館)
- 187 *Apamea striata* Haruta スジアカヨトウ
 山形市蔵王高原 2 ♀♀, 19830826 (木俣)
 西川町志津³⁹⁾
 鳥海山河原宿 19660800³⁾
 蔵王連峰御田神 1 ♂, 19840814¹⁰⁾
 // 観松平¹⁰⁾
 飯豊連峰ヌクミ平 1 ♀, 19680824¹⁴⁾
- 188 *Apamea aquila oriens* (Warren) アカモク
 メヨトウ
 山形市蔵王高原 1 ♂ 1 ♀, 19830826¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 不動沢 1 ♂, 19880712⁴¹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 藤島町藤島 19730826³⁶⁾・19740923²³⁾・
 19750911³⁶⁾・19760622³⁶⁾・19760901³⁶⁾
 朝日村荒沢ダム 1 ♂, 19820818 (木俣)
 鳥海山千畳ヶ原⁸⁾
 // 鳥ノ海 19660800³⁾
 // ソブ谷地 19660800³⁾
 朝日連峰天狗小屋⁸⁾
- 189 *Apamea lateritia* (Hufnagel) オオアカヨト
 ウ
 山形市不動沢 2 ♂♂, 19880712⁴¹⁾
 米沢市白布高湯 1 ♂, 19720723 (山谷)
 上山市金瓶 1 ex., 19740818¹⁹⁾

- 東根市柳沢小屋 1♂, 19860728⁴⁰⁾
- 西川町月山沢 1♂, 19790915¹²⁾¹⁸⁾³⁹⁾
- 〃 志津荒沢橋 1♀, 19850715³⁹⁾
- 〃 志津月山荘 1♂, 19850803¹⁷⁾³⁹⁾
- 鳥海山鳥ノ海 19660800³⁾
- 〃 河原宿 19660800³⁾
- 朝日連峰天狗小屋 1♂2♀♀, 19540814¹⁴⁾
- 蔵王連峰御田神 7♂♂2♀♀, 19840730¹⁰⁾・2♂♂1♀, 19840814¹⁰⁾
- 〃 観松平 9♂♂1♀, 19870718(木俣, 内3♂♂1♀は博物館)
- 〃 ドッコ沼 1♂, 19880807⁴¹⁾
- 190 *Apamea hampsoni* Sugi ネスジシラクモヨトウ
- 山形市西藏王高原 1♀, 19840711(木俣)
- 〃 村木沢¹⁹⁾
- 〃 不動沢 2♀♀, 19880712⁴¹⁾
- 鶴岡市由良 1♂1♀, 19880611(木俣)
- 上山市蔵王ライン 6♂♂4♀♀, 19840707¹⁰⁾
(内2♂♂2♀♀は博物館)
- 〃 金瓶¹⁹⁾
- 東根市柳沢小屋 1♂, 19860728⁴⁰⁾
- 南陽市須刈田 1 ex., 19880702(伊藤)
- 山辺町荒沼 2♂♂, 19880704(木俣)
- 中山町岩谷 2♂♂, 19860628(木俣)
- 西川町志津 5♂♂2♀♀, 19860726¹⁸⁾³⁹⁾・1♀, 19860824¹⁸⁾³⁹⁾
- 191 *Apamea rubrivena pacifica* Sugi アルプスクロヨトウ
- 飯豊連峰烏帽子岳 5♂♂1♀, 19680731²⁸⁾
- 〃 与四太郎の池 2♂♂, 19680802²⁸⁾
- 〃 門内岳 1♂, 19680803²⁸⁾
- 192 *Apamea wasedana* Sugi イイデクロヨトウ
- 飯豊連峰烏帽子岳 3♂♂, 19680731²⁸⁾
- 193 *Pabulatrix pabulatricula fraudulenta* (Staudinger) ウスクモヨトウ
- 藤島町藤島 19680825³⁶⁾・19690812³⁶⁾
- 194 *Leucapamea kawadai* (Sugi) マエアカシロヨトウ
- 山形市西藏王高原 1♂, 19830826¹⁰⁾
- 〃 村木沢¹⁹⁾
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 南陽市須刈田 1♂, 19880702(伊藤)
- 西川町志津 2♀♀, 19870820³⁸⁾
- 藤島町藤島 19660907³⁶⁾・19710630³⁶⁾・19730830³⁶⁾・19740919³⁶⁾・19760623³⁶⁾
- 鳥海山鳥ノ海 19660800³⁾
- 195 *Leucapamea askoldis* (Oberthür) コマエアカシロヨトウ
- 山形市山寺 1♂, 19770820(博物館)
- 〃 西藏王高原 2♂♂1♀, 19830826¹⁰⁾
- 〃 村木沢¹⁹⁾
- 〃 村木沢早坂林道 1♂1♀, 19890829(木俣)
- 〃 門伝大平 1♀, 19850708(木俣)
- 〃 上宝沢 2♂♂, 19880821⁴¹⁾
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 村山市北町⁷⁾
- 尾花沢市御所山荘 1♂, 19870814⁴⁰⁾
- 西川町志津 1♂, 19860824¹⁸⁾³⁹⁾
- 藤島町藤島 19710827³⁶⁾・19730831³⁶⁾・19760721³⁶⁾
- 朝日連峰天狗小屋⁸⁾
- 196 *Oligia ophiogramma* (Esper) クサビヨトウ
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 藤島町藤島 19570720³⁶⁾・19730706³⁶⁾・19740714³⁶⁾
- 197 *Oligia fodinae* (Oberthür) セアカヨトウ
- 山形市面白山 1♀, 19740824⁹⁾・1♂, 19750816⁹⁾
- 〃 村木沢¹⁹⁾
- 〃 不動沢 1♀, 19880712⁴¹⁾

- 上山市金瓶¹⁹⁾
 東根市柳沢小屋 1 ♀, 19860728⁴⁰⁾
 尾花沢市御所山荘 1 ♀, 19870814⁴⁰⁾
 鳥海山千畳ヶ原⁸⁾
 // 河原宿 19660800³⁾
- 198 *Mesapamea concinnata* Heinicke ホシミミ
 ヨトウ
 山形市西藏王高原 1 ♀, 19830826¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 上宝沢 1 ♂, 19880821(木俣)
 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市大久保⁷⁾
 天童市荒谷 1 ♂, 19820904⁹⁾
 東根市柳沢小屋 1 ♂, 19860728⁴⁰⁾
 山辺町荒沼 4 ♀♀, 19870827⁴²⁾(木俣, 内 2 ♀
 ♀は博物館)
 西川町志津 1 ♂, 19860726¹⁸⁾³⁹⁾
 鳥海山鳥ノ海 19660800³⁾
 // 河原宿 19660800³⁾
- 199 *Sapporia repetita* (Butler) サツポロチャイ
 ロヨトウ
 藤島町藤島 19740730³⁶⁾
 鳥海山ソブ谷地 19660800³⁾
- 200 *Anapamea cuneata* (Leech) カバマラダヨ
 トウ
 山形市西藏王高原 1 ♂, 19840818¹⁰⁾
 // 上宝沢 5 ♂♂ 1 ♀, 19880821⁴¹⁾
 // 不動沢 1 ♀, 19880902⁴¹⁾
 上山市金瓶 1 ex., 19810902¹⁹⁾
 南陽市中ノ沢 2 exs., 19880821(伊藤)
 中山町岩谷 12 ♂♂, 19860803(木俣, 内 4 ♂♂
 は博物館)
- 201 *Bambusiphila vulgaris* (Butler) ハジマヨト
 ウ
 山形市面白山 1 ♂, 19750816⁹⁾
 上山市金瓶 1 ex., 19820830¹⁹⁾
- 東根市柳沢林道 1 ♀, 19870902⁴⁰⁾
 中山町岩谷 1 ♀, 19860803(木俣)
 西川町志津 2 ♂♂, 19870820³⁸⁾・1 ♀,
 19870912³⁸⁾³⁹⁾
 藤島町藤島 19570908³⁶⁾
 蔵王連峰御田神 1 ♂, 19840814¹⁰⁾
- 202 *Atrachea nitens* (Butler) ギシギシヨトウ
 山形市面白山 1 ♂, 19820710⁹⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 不動沢 1 ♂, 19880712⁴¹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 中山町岩谷 2 ♀♀, 19860628(木俣)
 藤島町藤島 19740630³⁶⁾
- 203 *Hydraecia amurensis* Staudinger フキヨト
 ウ
 山形市山寺 1 ♂, 19770831(博物館)
 // 西藏王高原 1 ♂, 19830826¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 上宝沢 1 ♀, 19880821⁴¹⁾
 // 不動沢 1 ♂, 19880902⁴¹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市北町⁷⁾
 東根市柳沢林道 2 ♂♂ 3 ♀♀, 19870902⁴⁰⁾
 尾花沢市御所山荘 2 ♂♂ 1 ♀, 19870814⁴⁰⁾
 // 鍋越峠 1 ♀, 19870930⁴⁰⁾
 山辺町荒沼 2 ♂♂, 19870827(木俣)
 西川町間沢 1 ♂, 19660814⁴⁾・1 ♂ 1 ♀,
 19730805⁴⁾
 // 志津 3 ♂♂ 1 ♀, 19861010¹⁸⁾³⁹⁾(内 1
 ♂は博物館)・2 ♂♂ 3 ♀♀, 19870912³⁹⁾
 藤島町藤島 19710801³⁶⁾
 温海町温海岳 1 ♀, 19790825(木俣)
 鳥海山ソブ谷地 19660800³⁾
- 204 *Amphipoea ussuriensis* (Petersen) ショウブ
 ヨトウ
 山形市本町 1 ♂, 19620805(木俣)

- // 面白山 1 ♂, 19740824⁹⁾・2 ♂♂,
 19750816⁹⁾・1 ♂, 19770917⁹⁾
- // 山寺 1 ♂, 19770729(博物館)
- // 西蔵王高原 1 ♂, 19840818¹⁰⁾
- // 村木沢¹⁹⁾
- // 上宝沢⁴¹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市北町⁷⁾
- // 大久保⁷⁾
 東根市柳沢林道 2 ♂♂ 2 ♀♀, 19870902⁴⁰⁾
 尾花沢市御所山荘 10 ♂♂ 2 ♀♀, 19870814⁴⁰⁾
 西川町間沢 1 ♂, 19730804⁴⁾
- // 上島 1 ♀, 19790802¹²⁾
- // 志津³⁹⁾
 小国町飯豊山荘 1 ♂, 1980820³⁴⁾
 藤島町藤島 19570715³⁶⁾・19740603³⁶⁾
 鳥海山ソブ谷地 19660800³⁾
- // 鳥ノ海 19660800³⁾
 蔵王連峰坊平 5 ♂♂, 19800817¹⁰⁾
- 205 *Celaena leucostigma* (Hübner) ショウブオ
 オヨトウ
 上山市金瓶 1 ex., 19800901¹⁹⁾
 藤島町藤島 19570721³⁶⁾・19740717³⁶⁾
 朝日連峰天狗小屋⁸⁾・1 ♂, 19610807(博物館)
- 206 *Gortyna fortis* (Butler) ゴボウトガリヨトウ
 山形市面白山 1 ♂, 19770917(木俣)
- // 高瀬 1 ♂, 19830910¹⁵⁾・1 ♂,
 19841014¹⁵⁾
- // 村木沢¹⁹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 中山町岩谷 2 ♀♀, 19860915(木俣)
 小国町叶水 1 ♀, 19751012(木俣)・1 ♂ 2 ♀
 ♀, 19761009(木俣)
 藤島町藤島 19710913³⁶⁾・19731021³⁶⁾・
 19741006³⁶⁾
 温海町湯温海 1 ♂, 19610905(博物館)
- 吾妻連峰新高湯 1 ♂, 19710901¹³⁾
- 207 *Gortyna basaliapunctata* Graeser ヒメトガリ
 ヨトウ
 山形市村木沢¹⁹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
- 208 *Nonagria turpis* Butler テンオビヨトウ
 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市北町⁷⁾
 西川町志津 1 ♂, 19750725⁶⁾・18)³⁹⁾
 藤島町藤島 19560616³⁶⁾・19710626³⁶⁾・
 19720605³⁶⁾・19740721³⁶⁾
- 209 *Archanara resoluta* Hampson ハガタウス
 キヨトウ
 上山市金瓶¹⁹⁾
 鳥海山ソブ谷地 19660800³⁾
- 210 *Archanara sparganii* (Esper) キスジウスキ
 ヨトウ
 上山市金瓶¹⁹⁾
- 211 *Archanara aerata* (Butler) ガマヨトウ
 上山市金瓶 1 ex., 19840806¹⁹⁾
- 212 *Coenobia orientalis* Sugi テンスジウスキヨ
 トウ
 上山市金瓶¹⁹⁾
- 213 *Episammia confusa* Sugi カバイロウスキヨ
 トウ
 上山市金瓶¹⁹⁾
- 214 *Rhizidra lutosa* (Hübner) ヨシヨトウ
 山形市山寺 2 exs., 19761024(博物館)
- // 高瀬 1 ♂, 19830910¹⁵⁾・4 ♂♂,
 19841014¹⁵⁾
- // 村木沢¹⁹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 尾花沢市銀山温泉 2 ♂♂, 19790927¹²⁾・40)
 西川町志津 1 ♀, 19861010¹⁸⁾・39)
 小国町叶水 1 ♂, 19751012(木俣)
 藤島町藤島 19680930³⁶⁾・19730820³⁶⁾・

- 19730901³⁶⁾・19741021³⁶⁾
 215 *Sesamia inferens* (Walker) イネヨトウ
 山形市本町 1 ♀, 19610911(博物館)・1 ♀,
 19610915(博物館)
 // 高瀬 1 ♂, 19830910¹⁵⁾
 // 蔵王高原 1 ♀, 19840818¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 酒田市 1 ♀, 19610604¹⁴⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市大久保⁷⁾
 藤島町藤島 19560609³⁶⁾
- 216 *Triphaenopsis lucilla* Butler シロホシキシ
 タヨトウ
 山形市本町 1 ♀, 19610901(博物館)・1 ♀,
 19610902(博物館)・2 ♀♀, 19610906(博物館)
 // 蔵王高原 12 ♂♂ 8 ♀♀, 19830826¹⁰⁾
 (内4 ♀♀は博物館)
 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市大久保⁷⁾
 藤島町藤島 19570702³⁶⁾・19710808³⁶⁾・
 19730719³⁶⁾・19730831³⁶⁾・19760817³⁶⁾
 鳥海山千畳ヶ原⁸⁾・1 ♂, 19710726¹²⁾
 // 鳥ノ海 19660800³⁾
 // 河原宿 19660800³⁾
 // ソブ谷地 19660800³⁾
 蔵王連峰坊平 2 ♂♂ 3 ♀♀, 19790728¹⁰⁾
 // 御田神 3 ♀♀, 19840730¹⁰⁾・2 ♂♂ 1
 ♀, 19840814¹⁰⁾
 // 観松平 1 ♂ 1 ♀, 19870718(木俣)
- 217 *Triphaenopsis jezoensis* Sugi エゾキシタヨ
 トウ
 山形市面白山 1 ♂, 19770917⁹⁾
 西川町志津 3 ♀♀, 19861010¹⁸⁾³⁹⁾(内1 ♀は
 博物館)・1 ♀, 19870820³⁹⁾・3 ♂♂ 1 ♀,
 19870912³⁹⁾
- 218 *Triphaenopsis cinerescens* Butler ウスキシ
 タヨトウ
 山形市蔵王高原 1 ♂, 19830826¹⁰⁾
 尾花沢市御所山荘 1 ♀, 19870814⁴⁰⁾
 西川町志津 2 ♀♀, 19861010¹⁸⁾³⁹⁾(内1 ♀は
 博物館)・1 ♀, 19870820³⁹⁾・2 ♀♀,
 19870912³⁹⁾
 鳥海山ソブ谷地 19660800³⁾
 蔵王連峰御田神 1 ♂, 19840814¹⁰⁾
- 219 *Triphaenopsis postflava* (Leech) ナカジロキ
 シタヨトウ
 山形市蔵王温泉 1 ♀, 19580815(木俣)
 // 本町 1 ♂, 19610906(木俣)
 // 上宝沢 1 ♀, 19880821⁴¹⁾
 // 不動沢 2 ♀♀, 19880902⁴¹⁾
 蔵王山 1 ♂, 19720813
 蔵王連峰御田神 1 ♂ 1 ♀, 19840730¹⁰⁾・9 ♂
 ♂, 19840814¹⁰⁾(内4 ♂♂は博物館)
- 220 *Colocasidia albifera* Sugi ソトシロフヨトウ
 山形市村木沢早坂林道 1 ♂, 19890714(木
 俣)・3 ♂♂ 1 ♀, 19890803(木俣)
 尾花沢市銀山温泉 1 ♂, 19860712⁴⁰⁾
 南陽市吉野中 1 ex., 19880803(伊藤)
 蔵王連峰ドッコ沼 1 ♂, 19880807⁴¹⁾
- 221 *Euplexia lucipara* (Linnaeus) アカガネヨト
 ウ
 山形市山寺 1 ex., 19770511(博物館)
 // 面白山 2 ♀♀, 19820530⁹⁾
 // 蔵王高原 1 ♂ 1 ♀, 19830826¹⁰⁾・1
 ♂, 19840529¹⁰⁾
 // 瀬ノ原山 1 ♂, 19840607¹⁵⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 // 村木沢早坂林道 1 ♂, 19890829(木俣)
 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市北町⁷⁾
 天童市荒谷 1 ♂, 19820804(木俣)
 南陽市吉野中 1 ♂, 19880608(伊藤)

- 山辺町荒沼 1♂, 19880704(木俣)
- 西川町間沢 1♂, 19660814⁴⁾
- 〃 志津 1♀, 19860622¹⁸⁾³⁹⁾
- 藤島町藤島³⁶⁾
- 温海町温海岳 3♂♂, 19890825(木俣)
- 鳥海山河原宿 19660800³⁾
- 〃 ソブ谷地 19660800³⁾
- 222 *Euplexia vinacea* Sugi ムラサキアカガネヨトウ
- 上山市金瓶 1♂, 19840529¹⁹⁾・1 ex., 19850513⁹⁾
- 223 *Euplexia illustrata* Graeser シラオビアカガネヨトウ
- 山形市山寺遊仙峡 1♂, 19720623¹³⁾
- 〃 面白山 1♂2♀♀, 19750719⁹⁾
- 〃 村木沢¹⁹⁾
- 〃 門伝大平 1♂1♀, 19850708(木俣, 内1♀は博物館)
- 〃 不動沢 1♀, 19880712⁴¹⁾
- 米沢市白布高湯 1♀, 19720723(山谷)・1♀, 19720806(山谷)
- 新庄市新庄温泉 19610615²⁾
- 上山市蔵王ライン 4♀♀, 19840707¹⁰⁾
- 〃 金瓶¹⁹⁾
- 東根市柳沢小屋 2♀♀, 19860728⁴⁰⁾
- 尾花沢市銀山温泉 1♂3♀♀, 19860712⁴⁰⁾
(内2♀♀は博物館)
- 山辺町荒沼 1♂, 19880704(木俣)
- 西川町志津荒沢橋 1♂1♀, 19850715¹⁸⁾³⁹⁾
- 〃 志津月山荘 1♂, 19850803¹⁷⁾³⁹⁾・2♀♀, 19880723³⁹⁾
- 〃 志津 1♂, 19860726¹⁸⁾³⁹⁾
- 小国町飯豊山荘 1♂1♀, 19680820³⁴⁾・1♂, 19680721³⁵⁾
- 藤島町藤島 19720713³⁶⁾・19730723³⁶⁾・19740628³⁶⁾
- 朝日村八久和林道 1♂, 19770722¹²⁾
- 鳥海山千畳ヶ原⁸⁾
- 〃 鳥ノ海 19660800³⁾
- 〃 ソブ谷地 19660800³⁾
- 蔵王連峰御田神 1♂3♀♀, 19840730¹⁰⁾
- 〃 観松平 1♀, 19870718(木俣)
- 吾妻連峰新高湯 1♂, 19780630¹²⁾
- 224 *Euplexia aureopuncta* Hampson モンキアカガネヨトウ
- 西川町志津 1♀, 19870820³⁹⁾
- 温海町温海岳 1♂, 19890825(木俣)
- 蔵王連峰ドッコ沼 1♀, 19880807⁴¹⁾
- 225 *Chandata bella* (Butler) コゴマヨトウ
- 山形市村木沢早坂林道 1♂, 19890829(木俣)
- 上山市金瓶 1 ex., 19810916¹⁹⁾
- 尾花沢市御所山荘 1♀, 19870920(木俣)
- 西川町志津 1♀, 19870820³⁸⁾³⁹⁾
- 鳥海山鳥ノ海 19660800³⁾
- 朝日連峰天狗小屋⁸⁾・1♂, 19610807(博物館)
- 蔵王連峰御田神 1♀, 19840730¹⁰⁾
- 〃 ドッコ沼 1♂, 19880807⁴¹⁾
- 226 *Phlogophora beatrix* Butler キグチヨトウ
- 山形市面白山 1♂, 19820619⁹⁾
- 〃 村木沢¹⁹⁾
- 〃 上宝沢 1♂, 19880709⁴¹⁾
- 〃 不動沢 1♂, 19880712⁴¹⁾
- 上山市蔵王ライン 1♀, 19840707¹⁰⁾
- 〃 金瓶¹⁹⁾
- 尾花沢市御所山荘 1♂, 19880613⁴⁰⁾
- 大蔵村肘折温泉 1♂1♀, 19860703(木俣)
- 藤島町藤島 19710801³⁶⁾
- 227 *Actinotia polyodon* (Clerck) ヒメモクメヨトウ
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 藤島町藤島 19570902³⁶⁾・19720809³⁶⁾・19730926³⁶⁾

- 228 *Actinotia intermediata* (Bremer) コモクメ
 ヨトウ
 山形市本町 1 ♀, 19610509(博物館)・1 ♂,
 19610520(博物館)
 // 村木沢¹⁹⁾
 米沢市白布高湯 1 ♂, 19701008¹²⁾・1 ♂,
 19701008¹⁴⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 藤島町藤島 19720605³⁶⁾・19720816³⁶⁾・
 19730926³⁶⁾・19740903³⁶⁾・19760825³⁶⁾
 朝日村荒沢ダム 1 ♀, 19820818(木俣)
- 229 *Dypterygia caliginosa* (Walker) クロモクメ
 ヨトウ
 上山市蔵王ライン 1 ♂, 19840707¹⁰⁾
 村山市北町⁷⁾
 天童市荒谷 1 ♂, 19820902(木俣)
 藤島町藤島 19730801³⁶⁾・19740614³⁶⁾
- 230 *Dypterygia andreji* Kardakoff スジクロモ
 クメヨトウ
 山形市山寺 1 ♀, 19770603(博物館)
 // 村木沢¹⁹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
- 231 *Axylia putris* (Linnaeus) モクメヨトウ
 山形市本町 1 ♀, 19610509(博物館)・1 ♀,
 19610511(博物館)・1 ♂ 1 ♀, 19610520(博物
 館)
 // 山寺 1 ♀, 19770603(博物館)
 // 面白山 1 ♀, 19820530⁹⁾
 // 蔵王高原 1 ♂, 19830826¹⁰⁾・1 ♀,
 19840614¹⁰⁾・1 ♂, 19840711¹⁰⁾・1 ♂ 2 ♀ ♀,
 19840818¹⁰⁾
 // 瀬ノ原山 1 ♂, 19840607¹⁵⁾
 // 高瀬戸沢 1 ♂, 19840703¹⁵⁾
 // 門伝大平 1 ♀, 19850708(木俣)・1 ♀,
 19890601(木俣)
 // 村木沢¹⁹⁾
- // 村木沢早坂林道 1 ♂, 19890614(木
 俣)・1 ♀, 19890714(木俣)・4 ♂♂, 19890803
 (木俣)・2 ♂♂, 19890829(木俣)
 // 上宝沢 1 ♂ 1 ♀, 19880821⁴¹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 村山市大久保⁷⁾
 尾花沢市御所山荘 1 ♀, 19870814⁴⁰⁾
 山辺町荒沼 1 ♀, 19880704(木俣)
 中山町岩谷 1 ♀, 19860628(木俣)・1 ♂,
 19860915(木俣)
 西川町間沢 1 ♂, 19730804⁴⁾
 // 志津 1 ♂, 19750725⁶⁾¹⁸⁾³⁹⁾
 // 志津荒沢橋 1 ♂ 1 ♀, 19850715¹⁸⁾³⁹⁾
 // 志津月山荘 1 ♂, 19850803¹⁷⁾³⁸⁾³⁹⁾
 // 大井沢中村 1 ♂, 19870523(木俣)
 大蔵村肘折温泉 1 ♂ 2 ♀ ♀, 19860703(木
 俣)・1 ♂, 19860719(木俣)
 小国町叶水 1 ♂, 19750614(木俣)
 藤島町藤島 19650807³⁶⁾・19650825³⁶⁾・
 19710529³⁶⁾・19740618³⁶⁾・19750513³⁶⁾
 温海町温海岳 3 ♂♂, 19890825(木俣)
 遊佐町吹浦 1 ♀, 19840616(木俣)
- 232 *Trachea atriplicis gunama* (Butler) シロス
 ジアオヨトウ
 山形市本町 1 ♂ 1 ♀, 19610516(博物館)
 // 山寺 1 ex.,19770628(博物館)
 // 蔵王高原 1 ♀, 19830826¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 米沢市館山 1 ♂, 19700827(加藤)
 酒田市 1 ♂, 19590900¹³⁾・1 ♂, 19620827¹⁴⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 東根市関山 1 ex.,19781028(博物館)
 小国町叶水 1 ♂ 2 ♀ ♀, 19750614(木俣)
 藤島町藤島 19690813³⁶⁾・19710616³⁶⁾・
 19710808³⁶⁾・19720628³⁶⁾・19740524³⁶⁾
- 233 *Trachea punkikonis* Matsumura オオシロ

- テンアオヨトウ
 山形市面白山 1 ♀, 19820710⁹⁾
 // 高瀬戸沢 1 ♀, 19840703(木俣)
 // 上宝沢 1 ♂, 19880821⁴¹⁾
 // 本沢 1 ♂, 19890707⁴²⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 南陽市中ノ沢 1 ex., 19880821(伊藤)
 西川町志津³⁹⁾
 小国町叶水 1 ♂, 19750614(木俣)
 藤島町藤島 19710710³⁶⁾・19730818³⁶⁾・
 19750604³⁶⁾
- 234 *Trachea tokiensis* (Butler) ハガタアオヨトウ
 山形市面白山 2 ♂♂, 19740824⁹⁾・1 ♂,
 19750816⁹⁾・1 ♀, 19820710⁹⁾
 // 上宝沢¹⁰⁾⁴¹⁾
 // 村木沢早坂林道 1 ♀, 19890614(木俣)
 新庄市新庄温泉 19610615²⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 東根市柳沢小屋 1 ♀, 19860728⁴⁰⁾
 尾花沢市御所山荘 2 ♂♂, 19880613⁴⁰⁾
 // 銀山温泉⁴⁰⁾
 西川町志津月山荘 1 ♂, 19850803¹⁷⁾³⁹⁾
 // 志津 1 ♂, 19860622¹⁸⁾³⁹⁾・3 ♂♂ 3 ♀
 ♀, 19860726¹⁸⁾³⁹⁾(内1 ♂ 2 ♀ ♀は博物館)・
 1 ♂ 4 ♀ ♀, 19860824¹⁸⁾³⁹⁾(内2 ♀ ♀は博物
 館)・1 ♂, 19870729³⁹⁾
 大江町古寺鉾泉 1 ♂ 1 ♀, 19850720(木俣)
 小国町飯豊山荘 1 ♂, 19680804³⁴⁾
 蔵王連峰坊平 1 ♀, 19790728¹⁰⁾
 // ドッコ沼⁴¹⁾
- 235 *Karana leatevirens* (Oberthür) アオアカガ
 ネヨトウ
 山形市西藏王高原 1 ♂, 19830826¹⁰⁾
 // 高瀬戸沢 1 ♀, 19840804¹⁵⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
- // 村木沢早坂林道 2 ♂♂ 1 ♀, 19890829
 (木俣)
 // 上宝沢 1 ♂, 19880821⁴¹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 東根市柳沢林道 1 ♀, 19870902⁴⁰⁾
 尾花沢市御所山荘 4 ♂♂, 19870814⁴⁰⁾(内2
 ♂♂は博物館)
 山辺町荒沼 3 ♂♂, 19870827(木俣, 内1 ♂は
 博物館)
 中山町岩谷 1 ♀, 19860915(木俣)
 蔵王連峰坊平 1 ♂, 19800907¹⁰⁾
- 236 *Dipterygina cupreotincta* Sugi ウスクロモク
 メヨトウ
 山形市面白山 1 ♀, 19820619⁹⁾
 // 西藏王高原 1 ♀, 19840614¹⁰⁾
 // 村木沢¹⁹⁾
 上山市金瓶¹⁹⁾
 南陽市吉野中 1 ♀, 19880615(伊藤)
 山辺町荒沼 1 ♂, 19880704(木俣)
 小国町叶水 1 ♀, 19750614(木俣)
- 237 *Dipterygina japonica* (Leech) コクロモクメ
 ヨトウ
 鶴岡市大山八森山 2 ♀♀, 19620502²⁶⁾
 上山市金瓶 1 ex., 19820607¹⁹⁾
- 238 *Pygopteryx suava* Staudinger ヨスジアカヨ
 トウ
 藤島町藤島 19560921³⁶⁾
 吾妻連峰新高湯 1 ♂, 19700926¹⁴⁾・1 ♂,
 19700926¹²⁾
- 239 *Brachyxanthia zelotypa* (Lederer) キイロト
 ガリヨトウ
 山形市高瀬 1 ♀, 19841014¹⁵⁾
 // 村木沢 1 ex., 19831013¹⁹⁾
 上山市金瓶 1 ♀, 19781011¹⁹⁾
 藤島町藤島 19710927³⁶⁾
- 240 *Spodoptera litura* (Fabricius) ハスモンヨト

- ウ
- 山形市高瀬 1 ♀, 19841014¹⁵⁾
- 酒田市北千日町 1 ♀, 19690923¹²⁾
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 藤島町藤島 19681010³⁶⁾・19710706³⁶⁾・
19710824³⁶⁾・19710927³⁶⁾
- 遊佐町杉沢 1 ♀, 19730819¹³⁾
- 241 *Spodoptera exigua* (Hubner) シロイチモジ
ヨトウ
- 山形市村木沢¹⁹⁾
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 藤島町藤島 19650914³⁶⁾・19710815³⁶⁾・
19730709³⁶⁾・19730829³⁶⁾・19750526³⁶⁾
- 242 *Spodoptera depravata* (Butler) スジキリヨ
トウ
- 山形市本町 1 ♂, 19610823(博物館)・1 ♂,
19610825(博物館)
- // 高瀬 2 ♂♂ 1 ♀, 19830910¹⁵⁾
- // 蔵王高原 1 ♂, 19840818¹⁰⁾
- // 村木沢¹⁹⁾
- 酒田市 1 ♂, 19610529¹⁴⁾
- 上山市金瓶¹⁹⁾
- 村山市北町⁷⁾
- 天童市荒谷 1 ♂, 19800905⁹⁾・1 ♂,
19820901⁹⁾・1 ♂, 19820902⁹⁾
- 東根市関山 1 ex., 19780721(博物館)
- 尾花沢市銀山温泉 1 ♂, 19860712⁴⁰⁾
- 山辺町荒沼 1 ♂, 19880704(木俣)
- 西川町志津 1 ♀, 19860824¹⁸⁾³⁹⁾
- 大蔵村折温泉 1 ♀, 19860703(木俣)
- 藤島町藤島 19590525³⁶⁾・19710816³⁶⁾・
19720603³⁶⁾
- 2) 木俣 繁(1964)新庄温泉の蛾, 山形昆虫同好
会誌 2(1): 3-4
- 3) 柳田慶浩(1967)鳥海山の動植物調査報告, 早
稲田生物 16: 35-44, 早稲田大学生物同好
会
- 4) 岸田泰則(1974)山形県間沢の蛾, 誘蛾燈
58: 108-112, 誘蛾会
- 5) ———(1975)山形県間沢の蛾(II)誘蛾燈
62: 35-44, 誘蛾会
- 6) ———(1977)山形県志津の蛾, 誘蛾燈
67: 16-20, 誘蛾会
- 7) 高谷 太(1975)郷土昆虫標本目録, 山形県立
村山農業高等学校生物クラブ
- 8) 白畑孝太郎・黒沢良彦・菊地賢治(1982)山形
県産昆虫目録, 最上川 pp.463-553, 山形県
総合学術調査会
- 9) 木俣 繁・菊地賢治(1982)立谷川上流域の昆
虫類, 立谷川上流域環境保全調査報告書
pp.279-302, 山形市
- 10) ———・————(1985)蔵王連峰の昆虫
類, 蔵王連峰 pp.294-333, 山形県総合学術
調査会
- 11) 武田 隆・横倉 明(1983)糖蜜採集で得られ
た蛾, 山形昆虫同好会誌 12: 35-25
- 12) 木俣 繁(1984)故白畑孝太郎氏所蔵蛾類標
本(I), 誘蛾燈 96: 87-94, 誘蛾会
- 13) ———(1985)故白畑孝太郎氏所蔵蛾類標
本(II), 誘蛾燈 99: 31-34, 誘蛾会
- 14) ———(1986)故白畑孝太郎氏所蔵蛾類標
本(III), 誘蛾燈 103: 17-25, 誘蛾会
- 15) ———(1985)高瀬川上流域の昆虫類, 高瀬
川上流域環境保全計画調査報告書 pp.33-
57, 山形市
- 16) 市川和夫(1985)5月下旬, 月山麓姥沢小屋
付近の蛾, 寄せ蛾記 45: 624-626, 埼玉昆
虫談話会

5 引用及び参考文献

- 1) 村木弘昌(1962)山形県東根市に於ける蛾類
採集記録, 誘蛾燈 13: 44-47, 誘蛾会

- 17) ———(1987)月山山麓, 8月上旬の蛾類, 寄せ蛾記 49: 767-770, 埼玉昆虫談話会
- 18) 木俣 繁(1987)月山及びその周辺の蛾(1), 山形県立自然博物館自然環境基礎調査報告書 pp.83-93, 日本自然保護協会
- 19) 渡辺義汎(1987)上市市金瓶と山形市村木沢の蛾, 誘蛾燈 Supplement 4, 誘蛾会
- 20) 佐藤力夫・桜井 精・清野昭夫(1979)長岡市立科学博物館に寄贈された故村木弘昌氏採集の蛾類, 長岡市立科学博物館研究報告第14号 pp.29-102
- 21) 春田俊郎(1959)日本産蛾類の未記録種及び稀少種について I, 蛾類同志会通信 18: 171
- 22) 杉 繁郎(1962)日本産リングケンモンとその近縁種の再検討, 蛾類通信 27: 135-141
- 23) 水野重紀(1964)カタハリキリガを山形県で採集, 蛾類通信 35: 268
- 24) ———(1964)カタハリキリガ再び山形県で採れる, 蛾類通信 36: 296
- 25) ———・佐藤 勝・前田 稔(1964)ヤンコースキーキリガの山形県からの記録, 蛾類通信 36: 296
- 26) ———(1965)注目すべき山形県(庄内地方)の蛾, 蛾類通信 38: 333-334
- 27) ———(1966)エゾキノコヨトウ本州(山形県)でも採れる, 蛾類通信 45: 445
- 28) 神保一義・柳田慶浩(1970)飯豊連峰の高山蛾, 蛾類通信 62: 26-27
- 29) 杉 繁郎(1971)千葉県の下地でとれたナマリケンモン, 蛾類通信 64: 53
- 30) 神保一義・柳田慶浩・岸田 功(1971)山形県月山及び新潟県妙高山塊火打山の高山蛾, 蛾類通信 67: 105-107
- 31) 杉 繁郎・神保一義(1973) *Cucullia ledereri* Staudinger タカネキクセダカモクメ(新称)について, 蛾類通信 75: 249-251
- 32) 神保一義・柳田慶浩(1975)東北地方の高山蛾の記録, 蛾類通信 85: 407-409
- 33) 桜井 精・佐藤力夫(1968)故野平安芸雄博士採集の新潟県外産の蛾類, 誘蛾燈 34: 13-60, 誘蛾会
- 34) 清野昭夫(1968)飯豊8月の蛾, 誘蛾燈 34: 109-114, 誘蛾会
- 35) 相馬完一(1968)飯豊の蛾(III), 誘蛾燈 34: 114-116, 誘蛾会
- 36) 布施 寛(1987)庄内支場の誘蛾灯に誘殺された蛾類とその出現時期, 山形県立農業試験場研究報告 第22号 pp.77-103
- 37) 木俣 繁(1988)山形県の *Trichosea* 属について, 蛾類通信 150: 394
- 38) ———(1988)月山及びその周辺の蛾(2), 山形県立自然博物館自然環境基礎調査報告書 pp.105-109, 日本自然保護協会
- 39) ———(1989)月山及びその周辺の蛾(3), 山形県立自然博物館自然環境基礎調査報告書 pp.99-124, 日本自然保護協会
- 40) 菊地賢治・木俣 繁(1989)御所山系の昆虫類, 御所山 pp.258-313, 山形県総合学術調査会
- 41) 木俣 繁(1989)昆虫類, 北蔵王スキー場環境影響調査報告書 pp.216-224, 319-343
- 42) 江崎悌三ほか(1957)原色日本蛾類図鑑(上), 保育社
- 43) 江崎悌三ほか(1958)原色日本蛾類図鑑(下), 保育社
- 44) 井上 寛ほか(1959)原色昆虫図鑑 I (蝶蛾篇), 北隆館
- 45) 井上 寛ほか(1982)日本産蛾類大図鑑 I・II, 講談社

山形県手漉き和紙の歴史の変遷の考察

菊地和博*

1 はじめに

手漉き和紙が生活の身近なところから離れていて久しいが、しばしば、和紙についての情報に触れる機会も増えてきた。近年、手漉き和紙は一部、見直されてきているといってもよいように思われる。書画・工芸など、生活の一面において、和紙の持つ特性や美しさが再認識されてきているといえる。しかし、当然ながら、それは生活の隅々まで浸透した洋紙の比ではない。

いうまでもなく、手漉き和紙の盛衰を長期的に顧みれば、その衰退ぶりは歴然としている。まさに、時代の波に呑まれたと言ってよい。が、本県でもまだ6人の紙漉き人が、零細ながらも伝統和紙を守り抜いている。そこで、和紙とはなんであったかをあらためて考察したいと考えた。

これまで、本県の手漉き和紙に関する報告書・論文などは相当数あり、かなり実態が明らかにされているが、それらは地域的・個別的なものが多かったように思われる。これら先学の学問的成果を拝借しながら、もう少し、本県の全体的な推移と共に地域的な実態を見つめてみたいと考えた。幸いに、『山形県統計書』や『山形県勸業年報』などに、明治期から大正期の年度毎の統計が記載されており、これらに表わされた数字をつなぎ合わせ、比較、分析すれば、過去の姿が具体化されてくだろうと考えた。

さらに、現在和紙づくりに関わっている6人の方々の実態調査を行った。それぞれが誇りにする和紙の特徴・製作工程・用具など、細部にわたり

調査し、より深く和紙について理解したいと願った。紙数の都合上、このたびは歴史の変遷にとどめるが、次年度は現状と課題について考察したい。



2 和紙のあゆみ

中国の前漢時代の遺跡(瀾橋遺跡)で、武帝(紀元前141~87年)の時代と思われる副葬品と共に麻紙が出土した。1957年のことである。この麻紙を「瀾橋紙」と呼んでいるが、現在のところ、これが最古の紙とされている。

瀾橋紙は、銅鏡に付着した状態で出土したことから、鏡を包む為に使われたのであろうと推測され、紙はまず、包装用紙として出発したと考えられている。

これまで、紙の発明者は蔡倫という人物で、後漢時代の元興元年(105)に、樹膚、麻頭、敝布、魚網を材料とした「蔡侯紙」をつくり、これが紙のはじまりと考えられてきた。しかし、今では、蔡倫は仏教伝来(後漢時代)などで需要の高まった書用の紙を完成させた人物であろうと考えられて

*山形県立博物館学芸員

いる。言いかえれば、包装用ではない、情報や文化を伝達しうる記述用の紙の製法を確立したのが蔡倫であろう、ということである。

蔡倫によって確立された製紙法は、朝鮮を経て日本に伝来する。『日本書紀』の巻22「推古紀」によれば、推古天皇18年(610)、高句麗の僧、曇徴^{どんちゆう}が製紙法を伝えたことになっている。これは、曇徴によって正式な製紙技術が伝えられたということであって、このことが日本における紙づくりの始まりではない、とするのが一般的見方である。つまり、610年以前にもすでに製紙に関する知識は伝えられており、すでに稚拙な紙づくりは朝廷に關係する技術者集団の手で行なわれていたであろう、とするのが通説となっている。

飛鳥時代に、中国や朝鮮で製作された紙は唐紙^{とうし}といわれ、主原料は麻である。国産で最古の紙とされるのは楮^{かじ}(当時は穀と称した)が原料で、大宝2年(702)の美濃、筑前、豊前の国の戸籍簿として、正倉院に今なお残っている。正倉院の国産紙の80%が楮であるが、その他は麻^{あし}と雁皮^{がんぴ}(当時は斐と称した)とされる。

大宝律令を制定した701年には、朝廷の図書寮に造紙手4人を置くなど、国家が積極的に製紙に携わる体制をとり出してくる。

奈良時代は、国家仏教の隆盛に伴なう書写用の紙の需要の高まりなどを中心に製紙が発展した。

平安時代は、大同年間(806~809)に、図書寮の別所として京都に紙屋院^{しおくいん}を造営して、全国から原料を貢納させ、「紙屋紙^{かみやがみ}」と呼ばれる紙質の優れた官庁用紙を漉いている。需要の中心は貴族と僧侶であった。日本独特の製法である黄蜀葵^{とうろくあおい}や糊空木^{のりうつぎ}などの粘液(ねり)を使用した「流し漉き」は、8世紀前半から9世紀の初めにかけて完成したのではないかと考えられている。(注1) 延長5年(927)の『延喜式』には、中男作物として、1人40張(奈良から平安初期までの紙量単位)の紙を貢納

した国名が出ているが、68ヶ国中42ヶ国までが納めている。(注2)

中世に入ると、武家や町人層まで紙は浸透してくるが、需要の増加と共に地方の名だたる特産紙が登場してくる。讃岐や備中の檀紙、播磨の杉原紙、越前の鳥の子紙と奉書紙、美濃の美濃紙などが高名であるが、その他にも、奈良紙、但馬紙、丹後神、石見紙、美作紙、備前紙、土佐紙、飛騨紙、など西日本に産した和紙の名が残っている。

近世に入ると、和紙はいよいよ広く大衆層に入り込んでくる。紙の値段も下がり始め、文明年間(1469~1487)に一枚10文もしていた雁皮紙(鳥の子紙)が、天正2年(1574)には1文半まで値下がり

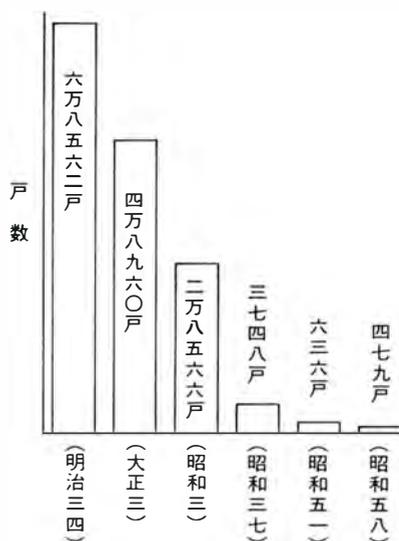


和紙の原料・楮(こうぞ)

したという。(注3) 紙を素材として扱う職業も活況を呈した。幕府が指定する御用紙も各地で漉かれ、各藩では殖産興業政策の一環として楮栽培を奨励しつつ製紙業の隆盛を企図した。主として西日本の藩では、製紙業を統制して専売制をしき藩財政の確立に努めた。そのため、厳しい労働の統制はしばしば「紙一揆」なるものを引き起こしている。

明治時代以降は、和紙の受難の時代であり衰退の歩みでもある。文明開化と共に木材パルプの洋紙が流入し、やがて国産洋紙も製造される。明治27年には機械漉き和紙も登場し、手漉き和紙をめぐる環境は厳しさを増してくる。それでも、明治20年代までは紙の需要は手漉き和紙が中心で、生産、消費も伸びていた。(注4)

しかし、明治36年(1903)、国定教科書が和紙から洋紙に定められ、世の中も毛筆の時代から和紙に適さないペンや鉛筆の時代に切り換えられてから、和紙の需要は明確に減少傾向を示していく。この傾向は、時代により多少の浮き沈みはあるものの、大正、昭和と続き、現在は手漉き和紙は生活のごく一部の分野においてのみ活用されている状況となっている。



全国手漉き和紙生産戸数の推移
『和紙の手帳』全国手漉き和紙連合会

注1 久米康生著『和紙の文化史』(木耳社 昭和51年)51頁

注2 『国史大系延喜式中論』(吉川弘文館 昭和50年)

注3 小林矯一著『紙の今昔』(新潮選書 昭和61年)67～68頁

注4 『紙の今昔』69頁

3 山形県内の和紙

(1)明治期以前

古代の出羽国において、紙漉きがおこなわれたことを示す記録はなかなか見出しされない。前記の『延喜式』では、紙を貢輸する42ヶ国以外に、原料を貢輸する25ヶ国の名が記されている。その中に「出羽国」の名が見え、紙麻(楮)百斤を年貢雑物として納めていることがわかる。10世紀初頭において、出羽国、陸奥国はともに産紙国としては登場せず、東北地方は製紙における空白地帯となっている。

しかし、平安中期に成立した『源氏物語』や『枕

草子』には、さかんに「陸奥紙(みちのくにがみ)」の名称が登場し、広く使用されていたことが知られる。(注1) この陸奥紙は、平安貴族に懐紙としてよく使われ、のち檀紙と称されて公文書用紙として後々まで愛用されたものである。この紙質の優れた和紙が、出羽国を除く東北地方のどこかで漉かれたはずであるが判明していない。平安後期には、隣接する出羽国内でも、おそらく紙漉きが始められていたであろうことは充分推測できる。

中央において、出羽国産の紙がはじめて取り上げられるのは、『駿府御分物御道具帳』なるものであるといわれる。(注2) この中に記載されている48の紙名の中に「もかみ^{がみ}帋」が出てくる。それはおそらく「最上紙」の意であり、最上川沿岸の諸藩のどこかで漉かれたもの(注3)とか、村山郡双月村(現山形市双月町)で漉かれたもの(注4)などの説がある。いずれにせよ、近世初頭、出羽国産の紙が存在し、その名が中央に伝わっていたことを物語るものであろう。

さらに、18世紀前半の寺島良安著『和漢三才図

会』には、各国の特産物が詳細に記されてあるが、出羽国は「油紙」とある。(注5) 油紙とは、当地方特産の紅花や青苧などの藩外移出の為の梱包荷造用紙(油紙厚紙)や傘、合羽用紙の類ではなかったかと思われる。また、安永6年(1777)の木村青竹著『新撰紙鑑』(別名『紙譜』)には、「諸国所出紙類目録」の項に、出羽国産の紙は「大方」「厚紙」「松葉」とある。(注6)

「大方」については、同書後段の「諸国厚物并仙貨類」の項に、「出羽国米沢より出」とある。(注7) 他国には記されていないので、出羽国特有のものということになるが、「大方」は「だいほう」



『紙漉重宝記』(寛政10年) 楮の苧り取り

即ち「大奉紙」のことだろうと思われる。大奉紙は、本県では障子紙や帳簿用紙をさす名称として使われ、特に村山地方でより多く用いられた。(注8)

「厚紙」は、油紙と同じく、紅花、青苧を主とした梱包荷造用紙であろうと思われる。置賜地方で大量に生産されたといわれている。(注9)

「松葉」は、同書「紙類」の項に「松葉紙出羽

国山形より出」とあり、寸法は「縦1尺、横1尺3寸5分、一束は二百枚」とある。(注10) すぐ隣りに、「名塩松葉・摂津名塩村より出」と書かれている。この松葉紙については、「腰張用の松葉紙」と題して禿氏祐祥氏が、「『新撰紙鑑』に松葉紙一名松皮紙の産地を出羽国山形とし、更に名塩産の松葉紙を載せているから、原産地は山形」と推察されている。(注11) 松葉紙とは、松葉、松皮を粹いて溶かし込んで、壁または襖の腰張用として使用した紙のことで、もともとは下級品であるが、趣きもあることから茶室などにも使用されたようである。同氏は松葉紙の起源は室町時代にさかのぼる、としている。出羽国のどこで、いつ生産されたのか不明である。寿岳文章著『和紙風土記』に、江戸時代の大阪の紙商仲間が取り扱っていた全国の紙の品種49種の名が記されている。(注12) その中に、「大方」と「松葉紙」の名が見える。当時は、松葉紙は中央の流通機構に組み入れられ、全国の市場に出回るほど、需要の多い紙だったのであろう。

以上、中央の出版物に見い出される出羽国産の紙について述べた。次に当地方に残される文書等の記録の中から、製紙にかかわる部分を追ってみたい。

現在のところ、製紙をうかがわせる最も古い記録としては、天文24年(1555)米沢城主伊達晴宗時代の政策を表わした「伊達家文書」がある。(注13) 「かみすき もと山へのあん」(紙漉き、木材伐採者への案文)として、「一 かみすき 1人二千苧」を「田せん此のふんにゆるし置へく候」と記されている。紙漉き人には、1人につき稲千苧の分量の田銭(田租)を免除する、との政策が示されている。これは伊達晴宗(1518~1577)の時代に領内に紙漉き人が存在したことを示すものとも受け取れる。が、一方では、紙漉きを奨励する内容とも解釈でき、紙漉きが行われた事実を示す確実な

史料たりえないと思われる。

これに対して、紙漉きが行われていたことを示す確かな記録としては、白鷹町に残る寛政21年(1644)の『寛廿一秋分高物成納帳』(青木吉左エ門家文書)である。この記録の中の一部を引用してみる。(注14)

- 一 六匁六分七リン 上銀 山御年貢銭百文分
三山村
右銀十一月十二日ニさし引納
- 一 七匁九分 同上り紙御役銀
同 村
右銀十一月十二日ニさし引納
(略)
- 一 三匁三分三リン 上銀五拾文分 下山村
一 八匁二分 同上りかみの代 同村



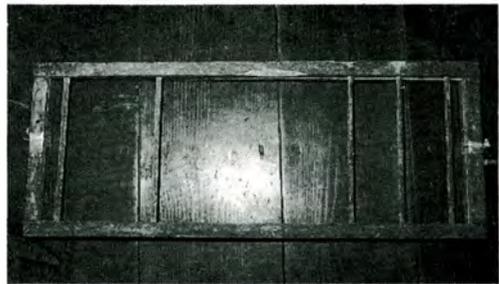
『紙漉重宝記』表皮はぎ

ここに記されている「上り紙」とは、江戸に送られる地方産の紙をさし、「御役銀」は紙への課税である。三山村(現白鷹町深山)や下山村(現白鷹町下山)などの置賜地方では、すでに近世初頭、「上

り紙」用の紙漉きが行われていたことを明確に示す史料である。

なお、深山和紙の継承者の1人、今利一郎氏のご教示によれば、「上り紙」は「江戸判」あるいは「半紙倍判」とも称されたという。今氏宅には、江戸判を漉いたと思われる桁(ケタ)が保存されており、その寸法は縦30.7cm・横79cmである。「江戸判」は縦27cm・横72cmの大きさだったとされ、ちょうど桁の大きさと符号する。

以上、出羽国産の紙の起源を探ってみたが、記録・文書等が少なく、容易にその姿をつかむことができない。



「江戸判」の桁(今利一郎氏所蔵)

注1 谷崎潤一郎訳『新々訳 源氏物語』(中央公論社 昭和40年)の巻二「末摘花」32頁には「陸奥紙の厚ぼったいののに、」とあり、巻三「蓬生」139頁に「模様もない紙や陸奥紙などのぶくぶくしたののに、」とある。『源氏物語』においては、陸奥紙はあまり好評を得ていない様子である。

それに対して、『枕草子』(角川文庫 昭和40年)の上巻〔29〕47頁に「白くきよげなる陸奥紙」、〔34〕57頁「陸奥紙の^{たとうがみ}畳紙の細やかなるが、花か紅か、すこしにほひたるも、几帳のもとに散りほひたり。」下巻〔265〕117頁「みちのくに紙、ただのも、よき、得たる。」とあり、陸奥紙に対しては、大変好意的評価がうかがえる。

注2 寿岳文章著『和紙風土記』(筑摩叢書 昭和

- 62年)97頁
- 注3 前掲『和紙風土記』105頁
- 注4 『山形市史下巻 近代編』(昭和50年)763頁
- 注5 寺島良安著『和漢三才図会』(東京美術 昭和45年)上巻779頁に「出羽国土産」とある。
- 注6 木村青竹著『新撰紙鑑』(『紙譜』)(復刻版紙の博物館発行 昭和52年)7頁
- 注7 前掲『新撰紙鑑』33頁
- 注8 寿岳文章・しづ著『紙漉村旅日記』(春秋社 昭和61年)167頁。昭和13年、双月村の紙漉き調査の項に、「この辺で大奉(大棒とも書く)と言うは障子紙のこと」とあり、同168頁、高松村の紙漉き調査の項には、「帳簿紙用の大棒」とある。
- 注9 『白鷹町史 上巻』(昭和52年)581頁～582頁
- 注10 前掲『新撰紙鑑』46頁
- 注11 禿氏祐祥著「腰張用の松葉紙」(『和紙研究』和紙研究会 昭和14年 所収) 86頁
- 注12 前掲『和紙風土記』119頁
- 注13 「伊達家文書」(東京大学資料編纂所『大日本古文書』所収)「伊達家文書1」274～275頁
- 注14 奥村幸雄著『深山紙』(昭和44年)70～71頁

次に、明治以前までの本県の紙漉き状況について、各地域ごとにその足どりを迎ってみたい。

<東村山地方——双月と和合の紙>

すでに、『駿府御分物御道具帳』にある「もかみ帛(最上紙)」が村山郡双月村で漉かれたものとする考えがあることを述べた。双月村は城下町山形に隣接する農村で、大きな消費地と馬見ヶ崎川が流れるという好条件を備えた所として、古くから紙漉きが行われていたであろうと推測される。

紙の原料である楮が、この村附近に豊富に栽培されていたことを物語るのが、元和9年(1623)の『最上郡双月村御繩打之帳』(荒井十兵衛家文書)

である。(注1) また、貞享5年(1688)の『双月村切支丹類族帳』(同)には、切支丹3人の名と共に「右者村山郡双月村紙漉仕居申候」とある。(注2) さらに、元禄13年(1700)の『古切支丹并類存命之帳』には、キリシタンの親族の名前と共に「紙漉商売仕候」とか「紙漉ニ而候」と記されている。(注3) 寛政年間(1789～1800)に著されたとされる『最上千種』には、「すすき(双月)村大奉紙 善六漉政六スキ(漉)也」とある。(注4)

双月村には、明治以後のことを考え合わせれば、近世期にも相当数の紙漉人がいたことが想像され、これらの記録は、その一部を示すものにすぎないと思われる。

元治元年(1864)に、山形で相撲番付ふうの「最上名所名産名物」が出版されているが、この右側三段目に「上山麻布紙」とともに「双月和合ノ紙」がランクされている。

なお、和合とは双月村と道路を堺に隣接する部落(山家村和合)で、ここでも紙が漉かれたが、双月のものと和合のものを一体として後年「双月和紙」と呼んでいる。

- 注1 『山形市史 下巻 近代編』(昭和50年)769頁
- 注2 『山形市史編集資料 第14号』(昭和44年)「山形切支丹関係資料」19頁
- 注3 前掲『山形市史編集資料 第14号』34頁38頁
- 注4 『やまがたの歴史』(山形市史編集委員会 昭和55年)183頁

<南村山地方——長清水と高松の紙>

菅原定昭著『上山見聞隨筆』には、「大奉紙といふハもと長清水村今の松山にありし時紙を産業として大奉紙を出す(中略)御上の諸記録等にハ都てこの紙を用ひ」とある。(注1) そして、やがて寛文年間中、長清水村は現在地に移転したが(注2)

しばらくは「長清水大奉」として藩の御用紙の役割を担っていた。しかし、いつの頃からか、高松村の産する和紙に押され、ついに廃止のやむなきに至った、ということが記されている。

長清水村は、荒町川に沿って紙漉き集落を形成したとされるが(注3)、紙漉きの起源は不明であり、長清水の紙が高松の紙にとって変わられる理由も明らかでない。(注4)

「天保年間調」の銘がある「上山名産名所」の番付表には、相撲番付になぞらえ、大関には「高松和紙」が、前頭には「長清水の大奉」が記されている。(注5) すでに天保年間(1830~1843)には、両者の評価は逆転していることがわかる。

なお、長清水部落のあったかつての場所は、現在、その一部が「漉屋」の地名で残っている。

高松の紙漉きの起源についても不明である。寿岳文章著『紙漉村旅日記』において、氏は松本総本家(吉野屋)の過去帳に、寛永年間に大和国吉野郡の松本長兵衛安清が上山に下ったとある、と記し、長兵衛の偉業は吉野紙の抄法を伝えたこととしている。(注6) しかし、高松における紙漉きが、吉野紙が伝えられたとする寛永年間(1624~1643)から始まったかどうかはわからない。『山形県史 農業編』には、松本長兵衛以前にすでに「おろく紙」とか「光明紙」と称する紙を漉いていたと伝えられる、とある。(注7)

また、次山信男著「山形県上山高松紙産地の変貌」には、文永年間(1260年代)に藁を原料とした窓紙が漉かれていたといわれる、と記されている。(注8)

「吉野紙」とは、そもそも大和国吉野地方に産する和紙で、^{やわらがみ}柔紙(和紙)とも称される。非常に薄手であるが、生漆を精製する腰の強い濾過紙として全国に知られるようになった。前掲『新撰紙鑑』には、「和紙 吉野紙 漆漉紙 和州吉野より出余国に無」とある。(注9) この書物が著された安

組番 所名		上山名産名所 大関 湯町鶴湯 大関 湯町鶴湯 小結 湯上観音堂 前頭 金峯山御庭 前頭 萱平糸漉 前頭 熊野鐘 前頭 西光寺之類	組番 産名		
大関 高松和紙 大関 高松和紙 小結 高松和紙 小結 高松和紙 前頭 高松和紙 前頭 高松和紙 前頭 高松和紙			大関 高松和紙 大関 高松和紙 小結 高松和紙 小結 高松和紙 前頭 高松和紙 前頭 高松和紙 前頭 高松和紙		
天保年間の調		昭和十五年五月 官立山形大学 菅原 隆一 著		中島 義典 監修	

「上山名産名所」

永6年(1777)の時点で「余国に無」とすれば、高松の吉野紙の存在はどうであったのか。伝えられたとする寛永年間からすでに100年以上も経過してもなお、高松の吉野紙は中央市場に流通せず地方紙の枠内にとどまっていたことになる。

前掲『上山見聞随筆』には、次のようにある。

高松村はもと家数四拾五軒にて其内拾五軒ハ紙漉渡世の者なり、この拾五軒は御やハラ田地といふて拾五軒所有の田地ハ人足割課役等を免し置れしなり(注10)

15軒の紙漉人は、「やわら田地」と称する免租の田地を所有し、人足賦役を免じられ優遇されていた、ということである。「やわら田地」は今なお、地名として思川流域に残っているという。(注11)

やがて、高松に産する和紙は、藩の御用紙としてはもちろん、「御領主松平山城守様より公儀御献上物ハ第一高松村の名産御和紙」(注12)というように、幕府に献上するほどの特産紙に成長する。

高松の吉野紙の名称は、柔紙の他に「麻布紙」（浅布紙とも書く）がある。安政2年(1855)、甲良山誌の『東講商人鑑』には、「最上高松にて和紙大奉書浅布紙をすきいたす」と出てくる。(注13) この時期には「大奉書」(大奉紙)も漉かれていたことになるが、やはり、幕府献上物は「麻布紙」であったろう。ただ、生産量としては、地元において需要の多い大奉紙の方が上回っていたであろうと思われる。

なお、元治元年(1864)の「最上名所名産名物」に「上山麻布紙」が出ていることは先述したとおりである。

注1 『上山市史編集資料 18』(昭和51年)71頁

注2 『上山市史 別巻下』(昭和50年)112頁には、寛文9年(1664)に城中拡張のため移転したとある。

注3 前掲『上山市史 別巻下』111頁

注4 前掲『上山市史 別巻下』112頁には、水質が適さなかったため廃業したとあるが、果してそれだけの理由であったか、検討を要すると思われる。

注5 『上山市史 中巻 近世近代編』(昭和59年)571頁

注6 前掲『紙漉村旅日記』168～169頁

注7 『山形県史 農業編 中』(昭和44年)960頁

注8 次山信男著「山形県上山高松紙産地の変貌」(『百万塔 第14号』紙の博物館 昭和37年所収)31頁

注9 前掲『新撰紙鑑』26頁

注10 前掲『上山市史編集資料 18』71頁

注11 萩生田憲夫著『高松の民俗風土記』(郁文堂 昭和49年)11頁

注12 前掲『上山市史編集資料 18』72頁

注13 『山形県史 商工業編』(昭和50年)152頁

＜置賜地方——深山紙・その他＞

この地方の産業の隆盛は、米沢藩主上杉治憲(鷹山)の殖産興業政策によるといわれている。紙漉業もその政策の一環として起ったと伝えられる。すなわち文久2年(1862)甘糟継成著『鷹山公偉蹟録』には、次のように記されている。

昔より紙を製する事を知らず他邦より買入れにてありしを、明和5年村々に楮を植えさせられ伊達より紙漉き人を召寄せ給ひ、始めて下長井の深山村に於て大半紙を製せしめらる(注1)

このように、深山村に産する紙の起源を明和5年(1768)としているが、しかし、この時期にすでに深山村では「上り紙」が漉かれていたことは、先の青木吉左エ門家文書に見たとおりである。置



上杉治憲(鷹山)

賜地方における紙漉きの起源について考える手がかりの1つに、さらに次のような文書がある。それは元禄5年(1692)の『出羽国置賜郡北和田村検地水帳』で、租税の対象となった多くの物資の中に、「一、楮 千三拾七株」と出てくる。(注2) こ

れは、この村に楮が栽培されており、近隣に紙漉集落があったことをうかがわせる史料として貴重なものである。

なお、北和田村とは現高島町に所属する集落であった。



『出羽国置賜郡北和田村検地水帳』
(埼玉県「小川和紙資料館」所蔵)

さて、殖産興業政策時代の史料を示すものをあげてみる。まず、当時の奉行竹俣當綱は領内産の和紙の需要不足を指摘し、『国政談』で次のように記している。

但国中民用の料紙年来是まで福島より相求め候儀夥しきことなるへし然れば国の潤他領の人を潤し残念え至り二候たとひ紙の価米沢と福島と同等ともわが国の人をうるをし候儀国の始めにして経済の道なるへし其の故に弥々これを取立可申事に候(注3)

竹俣は、領内のこういう実情の改善策として、安永4年(1775)に、二の丸東長屋に樹芸役場を設置し、漆方、桑方、楮方の役職を設けて桑・漆・楮を各百万本植立えていった。(注4)

さらに、のち奉行となる莅戸善政は、寛政4年(1792)に『樹畜建議』を著し、その中で「桑楮ハ四民の潤御国用之助に候間何とそ多く植させ候様被仰出候」と記し、領民に桑と共に楮の栽培も大

いに奨励している。翌年に米沢藩では、百姓一人につき楮5本、桑5本、柿1本の植樹を実行させている。(注5)

以上が、近世期の置賜地方の和紙づくりの概況であるが、もう一度振り返ってみる。先の白鷹町の青木吉左エ門家文書には、深山村以外に箕和田、高岡、下山、鮎貝の村名が出ており、近世初期には、各村々ですでに紙漉きが行われていた。これは、同じく『出羽国置賜郡北和田村検地水帳』からも、この時期の状況がうかがえる。この紙漉業は、鷹山公の国産奨励の時代に入って、いよいよ活発化していった、というのが大きな流れである。(注6)

注1 甘糟継成著『鷹山公偉蹟録』(偉蹟録刊行会 昭和9年)巻の四 171頁

注2 吉野辰五郎氏所蔵(埼玉県比企部小川町「小川和紙資料館」館長)

注3 『山形県史』(新編鶴城叢書下 昭和35年) 704頁

注4 前掲『鷹山公偉蹟録』巻の二 168頁

注5 前掲『鷹山公偉蹟録』巻の二 47頁

注6 前掲『山形県史 商工業編』151～152頁には紙漉きを営んでいた村々の名が記されている。それによると、漆山村・坂井村・堀金村・大舟村・御廟町・成島などがあげられている。

<最上地方——長沢の紙>

最上地方において、紙を漉いた事実を示す記録はなかなか見い出されない。当地方で高名な和紙は、現舟形町の長沢地区で漉かれた「長沢和紙」である。小国川清流を利用したこの長沢和紙は、大変古くから漉かれたと伝えられているが、それは伝説の域を出ないようである。(注1)

近世の文書・記録等からも、長沢で紙を漉いた

ことを裏づけるものは見い出されない。『山形県史』では、「新庄藩の奨励もあって、近世期頃から長沢部落(舟形町)を中心に、附近の小部落が紙漉村として発達した。」と記している。(注2)

新庄市内に「紙漉町」の地名が残っているが、果して、藩政時代にこの地において紙漉きが行われたのであろうか。幕末期に著されたときれる『御奉公人内職人面附帳』(鮭川村小反栗田家文書)には、新庄城下諸町に住む8種の職人が記されているが、この中に紙漉人の名は見い出されない。(注3)



『紙漉重宝記』表皮干し

『増訂最上郡史』によれば、新庄藩は国産奨励策として、文化文政の頃から国産掛働農方蚕桑方楮方苗木方等の専門職を置き、桑・楮・漆・桐以下あらゆる有用樹木の栽培育成に努力したこと、この栽培にあたっては、弘化2年(1845)に、米沢の勤進代の百姓遠藤仁右衛門を指導者として招聘したこと、などが記されている。(注4)

米沢藩同様、和紙の原料の楮栽培が藩によって積極的に推進されていることは、領内での製紙業



現在の表皮干し

の振興を意図していることにほかならない。

同じく『増訂最上郡史』には、「小役人勤」の項に、「紙方」とあり、「紙漉を管す」とある。(注5) こういう役職の配置は、領内に紙漉きを営む人々が一定程度存在したことを示すものであると思われる。

明治期以降も含めて、当地方の代表的産物の1つであろうと思われるのが長沢和紙であるが、領内の名産名物の番付表で天保5年(1838)の『新庄御国産名物尽し』(注6)には、「長沢和紙」の名はどこにも見あたらないのはなぜか。それは、同じ領内に産する「谷地大奉紙」との関連がありそうであり、そのことについては、「(2)明治期以降」の部分で触れる。

注1 『舟形町史』(昭和57年)1199頁

注2 前掲『山形県史 農業編 中』(昭和44年)962頁

注3 大友義助著『羽州新庄城および同城下町の研究』(新庄市教育委員会 昭和62年)104頁

注4 嶺金太郎著『増訂最上郡史』(最上郡教育会、昭和4年)223頁

注5 『増訂最上郡史』251頁

注6 松堂著「戸沢家文書」(天保5年<1838> 新庄図書館所蔵)

＜庄内地方＞

最上地方以上に紙漉きの実態が不明な地域である。明治期以降については、僅かながら記録も残されているが、近世期は皆無と思われる。

鶴岡市には、江戸時代から紙漉町新地と紙漉町横町(この2地区は明治13年合併して紙漉町となる)があるが、新庄と同じく紙漉きを行ったことを裏づける史料がない。ちなみに、市の中心街をなす5日町の絵図面に、嘉永4年(1851)当時の45種の店舗が描かれているが、紙漉き職人をあらわす名は見えない。(注1)

明治期以降のことも含めて考察するに、庄内酒井藩の領内の紙の需要は、主として日本海沿岸の他藩からの輸入に依存していたのではないと思われる。領内産が不足すれば、領外から移入することは、酒井藩に限らずどの藩でも行なっていたようである。(注2) ただ、酒田湊より荷下しされる北陸や関西方面の名だたる紙が比較的手に入り易かった庄内地方では、領外輸入が恒常的に行われて、紙漉き業はあまり育たなかったのではないと思われる。

山形の商人村居新六郎が、天保8年(1837)に著した『微量可笑記』に、酒田での輸入品として巻紙、半紙を記している。(注3) それはどこで産した紙かは不明であるが、当時、中部以西の大規模な産地で生まれた紙は、大阪の市場を通じて全国に流通しており、地方の小規模生産地のものを圧倒していたはずである。『微量可笑記』には、仙台から買上げて利益のあるものの1つに、「白石和紙」を取り上げている。(注4)

なお、輸入紙のことと合わせ、庄内地方に製紙業があまり育たなかったさらなる理由について、「(2)明治期以降」の項で記す。

注1 『鶴岡市史 上巻』(昭和37年)585頁

注2 『白鷹町史』(昭和52年)581～582頁には、置賜地方でさえも大量の紙が買上げられた事

実が示され、それは福島県の「信夫紙」であったり、山形方面の紙であったりしたとされている。

注3 『山形県史 商工業編』(昭和50年)153頁

注4 『山形県史 商工業編』 153頁

＜西村山地方——谷地の紙・西山紙＞

前出の『新莊御国産名物尽し』には、「頭取」として「谷地大奉」が出てくる。現河北町谷地の一部は近世期には新庄藩に組み入れられていた。「谷地大奉」とは、新庄藩領内谷地郷に大奉紙が漉かれていたことを示すが、谷地郷のどの村で、どの程度の生産規模で行われていたのか、まったく不明である。

18ヶ村の谷地郷は南北に長く、行政的には上谷地郷(現河北町谷地北部)と下谷地郷(現村山市西部と大石田町西部)に区分されていた。明治以後は、上谷地郷のうちの5ヶ村(北口・工藤小路・吉田・岩木・新吉田)が現在の河北町谷地(北谷地地区)に組み入れられた。「谷地」を地理上きわめて限定して考えるに、大奉紙の漉かれた地域は、法師川という清流があり、楮栽培の可能な比較的山間部の岩木村か吉田村あたりでなかったろうかと思われる。

谷地郷全体の村高1万5千石は、新庄藩全体の4分の1を占め、山間不毛地の多い領内で谷地郷の経済上の占める地位が高かったことが指摘できる。(注1) 領内のもう1つの紙漉き集落である長沢で産せられた「長沢和紙」が、『新莊御国産名物尽し』になぜ現われてこないのかの疑問を先に呈したが、それは、少なくとも天保5年頃には、「谷地大奉」に対する領内での評価が高かったことを示すものであり、「長沢和紙」が紙質面で低い評価を受けていたか、或いは、この時期は、なんらかの理由でほとんど紙漉きが行なわれていなかったことを示すものなのかも知れない。

その他、西村山地域を概観すると、最上川や寒河江川を代表する豊富な水、楮栽培に適する山野、由緒ある大きな寺社の存在、など紙漉きの条件や紙への需要があり、村々では結構紙漉きが盛んに行われた形跡がある。『編年西村山郡史』によれば、寛政元年(1788)の白岩村(現寒河江市白岩)の「御年貢可納割付之事」の中に、「定納物」として「一永四百文 紙漉役」があり、紙漉の税として四百文支払うべき義務を記している。(注2) 同じく寛政8年(1796)の月布村(現大江町月布)の場合、「諸雑税ヲ皆納ス左ノ如シ」とあり、「諸役銭



『紙漉重宝記』紙漉き

上納覚」には「大目録紙代」として「^{びた}銀百九文」を支払っていることが記されている。(注3) これらは、明らかにその村で紙を漉いた事実をあらわす記録であり、明治以降、当地方の多くの村々が紙づくりに励んだことを考え合わせると、近世期にも担当数の地域で紙漉きが行われたであろうと思われる。

岩根沢はその中でも、現代に至るまで紙漉きが行われた地域として知られる。岩根沢には嘉慶年間(1387~1388)の開基と伝える羽黒山末寺の日月

寺があり、出羽三山信仰との関連が深い宗教集落として発展した。ここに産する和紙は「西山紙」と称され、幕末期は主として庄内地方に移出されたという。(注4) その運送経路は、六十里越街道を荷を背負いながら庄内に至るコース、寒河江本楯まで陸送し、酒田船に積んで、最上川を下って到達するコースとがあったようだ。(注5)

注1 『河北町の歴史 上巻』(昭和37年)243頁

注2 『編年西村山郡史 卷之五』(昭和48年)91頁

注3 『編年西村山郡史 卷之六』(昭和48年)1頁

注4・5 丸山茂著『神都岩根澤之面影』(昭和15年)320頁

<北村山地方>

『北村山郡史 下巻』の天保12年(1841)の項には、「同年9月、米津氏領民に令シ、漆楮桑茶ノ四木ヲ培養セシム。」とある。(注1) 続いて〔長瀬郷土資料〕として、「同12年9月、徧ク郡民ニ布告シテ四木(漆・楮・桑・茶)ヲ植エシム、其告ニ日ク抑四木ハ五穀ニ次クヘキ国産ニシテ富強ノ要素タリ、爾後荒蕪地若クハ相應ノ地ヲ相シテ培養セヨト、(以下略)」という補足内容を紹介している。(注2) 米津氏とは、寛政10年(1788)に米津伊勢守政通が武州久喜(現埼玉県久喜市)から長瀬村(現東根市長瀬)に移封されてから、この村を中心に7ヶ村を支配した長瀬藩領主である。この史料から、国産奨励策として諸国にならって当時の代表的な四木の植え立てを布告している様子がわかる。当地方でも楮を増産して製紙業の活発化がはかられたものと思われるが、それ以上の史料がなく実態はよくつかめない。

注1・2 『北村山郡史 下巻』(昭和47年)480頁

(2) 明治期以降

文明開化を迎え、幕藩体制から近代国家へと変

貌を遂げようとする中で、手漉き和紙をとりまく環境は、次第に厳しさを増してくる。冬期間の農家の副業として大部分が零細経営に甘んじてきた本県の紙漉き人たちの前途も、徐々に容易ならざるものになっていった。

『山形県勸業年報』の明治30年の項には、次のようにある。

本県ニ於ケル和紙製造業ハ殆ント農家の副業余業ニシテ見ルヘキノ改良ヲ施スナク其品質粗悪ニ価格高貴ナルヲ以テ販路太ク広カラス則チ製造戸数増加ノ割ニ其製造高ハ増加セサルナリ(注1)

ここには、農家の副業人に甘んじているが為に、製紙技術に改良が加えられずに、値段が高く質が悪い、という現状と今後の課題が指摘されている。

本県の場合、紙漉業の衰退の一因に、より収益の多い養蚕業への転換があげられる。原料である楮の畑を桑畑に変えていった過程が、この転換を如実に示す。

明治期以降の和紙の歩みは、特に統計表やグラフなどの数量的裏付けを通して、より具体的に考察していくことにする。



現在の紙漉き

<各和紙生産累年表の作成およびその見方>

文末の表1～表10参照

この表(1～10)は、山形県が発行した5種の統計資料を合成したものである。5種とは『山形県治一覽』(明治7年)『管内物産表』(明治8年)『山形県統計表』(明治12～13年)『山形県統計書』(明治19～大正14年)『山形県勸業年報』(明治21年～41年)である。この5種は必ずしも調査項目が同一ではなかったが、(たとえば、「その他の紙価額」は明治28年までは「雑誌」となっている。また、「数量」は明治30年まで掲載されてある。)基本的に統一できる7項目にまとめてみた。

また、「美濃紙」「大奉紙」「半紙」の数量の単位が各資料、さらに各年度によって、「帖」「束」(1束=10帖)「締」(1締=100帖)と、まちまちであったので、すべて「帖」を統一単位として置き換えて表わすことにした。しかし、なかに重量の単位である「斤」(1斤=約600g)を用いて表わしているものがあったが、枚数の単位とは根本的に異なるのでそのままとした。

ちなみに、本資料は1帖は美濃紙・大奉紙が48枚、半紙が20枚として数えている。

「価格」では、銭と厘まで記述されているものもあったが、すべて切り捨てて円に統一した。

「製造人員」及び「職工」は、製造期間中に従事した人数を1日平均にして表わしたものである。郡別に見ていった場合、年度によって極端に差異が生じているものもあるが、それは、農閑期の副業としての紙漉きが、流動的な就業人口に支えられてきたことを物語るもので、統計上の疎漏では必ずしもないように思われる。

「美濃紙」とは、そもそも現岐阜県美濃市に産する和紙で、福井県の「奉書紙」と茨城県の「西之内紙」と並んで、日本三大和紙の1つに数えら

注1 『山形県勸業年報』(山形県 明治32年)122頁

れてきた。この美濃紙の寸法を参考として漉かれたものが、通称、「美濃判」であり、本県各地で古くから生産されてきた。

全国的には、中世以降高名な和紙が数多く産出したが、なぜ「美濃紙」が本県において浸透したのであろうか。それは、近世において、美濃—近江商人—京都—日本海航路貿易—酒田—最上川—内陸地方、という西廻り航路の貿易ルートを経て流入、広く知られるようになったのではないかとされる。寿岳文章著『和紙風土記』には、「東国や北国の物資を京都に搬入することにおいて最も目覚しい役割を演じたのは、地理的にも仲買の地位を占める近江商人であり、美濃紙の中央進出も主として近江枝村の商人によって行われた」とある。(注1) また、久米康生著『和紙の文化史』では、「美濃や飛騨は中世にすでに相当広範囲に製紙地が散在していた。そして上層階級の料紙から実用的な鼻紙にいたるまで多種類の紙を生産していたのであり、しかも近江の枝村商人の活躍によって、量的にも最も多く、京都あるいは堺方面にまで流通したといえるだろう。」と記されてある。(注2)

「大奉紙」とは、主として障子紙をさすということは先に述べた。しかし、それはおそらく障子紙が大衆層まで広まり出す近代も大部過ぎてからのことであろうと思われる。大奉紙の種類と寸法は、地域によってかなりのバラつきがあるが、おおよそ、置賜地方は1尺(「大奉」と称す)、西村山地方は9寸6分(「西大奉」と称す)、村山地方は9寸3分(「中大奉」と称す)であったという。(これらはいずれも縦の寸法である)(注3)

「半紙」とは、全国的に西之内和紙あるいは杉原紙(延紙)の半分の寸法をさすようで、縦33cm横24cmであるが、これも時代によって、地域によって大いに差異があると思われる。

「その他の紙」とは、傘紙、厚紙、行燈紙、塵

紙、合羽紙、洗紙など、日常生活に身近で多種多様な紙をさす。

表2～表9まで、大正年間の記録も残されているが、紙数の都合上、すべて割愛し、明治時代のみとした。

最後に、表中に空白の年度がいくつかあるが、それは、不明な場合と「ゼロ」の場合の二通りがあることを付け加えておく。

注1 前掲『和紙風土記』89頁

注2 前掲『和紙の文化史』118頁

注3 武田好吉氏(山形市和合町)のご教示による。

＜山形県総合和紙生産累年表について＞

表1の①②参照

不詳の年度がいくつかあるものの、明治7年から大正14年までの本県の和紙生産状況を示すものが、表1の①②である。

美濃紙について、『山形県勸業年報』の明治22年と明治23年の解説には、「美濃紙ノ減少シタルハ蓋シ近年輸入美濃紙ノ廉價ナル影響ヲ被リシニ由リ」「美濃紙、平均價額ノ減少シタルハ蓋シ輸入紙ノ價額低廉ナルヲ以テ其影響ヲ被リタルニヨリ」とある。(注1) 安い美濃紙が市場に出回って、地元産のものを圧迫している様子がうかがえる。

しかし、次ページ図1のとおり、美濃紙は明治41年までは一定の数量が生産されており、県内産に対する需要は根強く続いたと思われる。

次いで、半紙であるが、明治37年から大きく生産が落ち込んでいる。これは、明治36年から国定教科書が和紙から洋紙に切り換えられており、学校教育を中心に、子供達を通して「読み、書き、そろばん」用の紙が、急速に洋紙へと普及していった時代の流れと軌を一にするとと思われる。

また、明治26年の生産戸数139戸と翌年の652戸

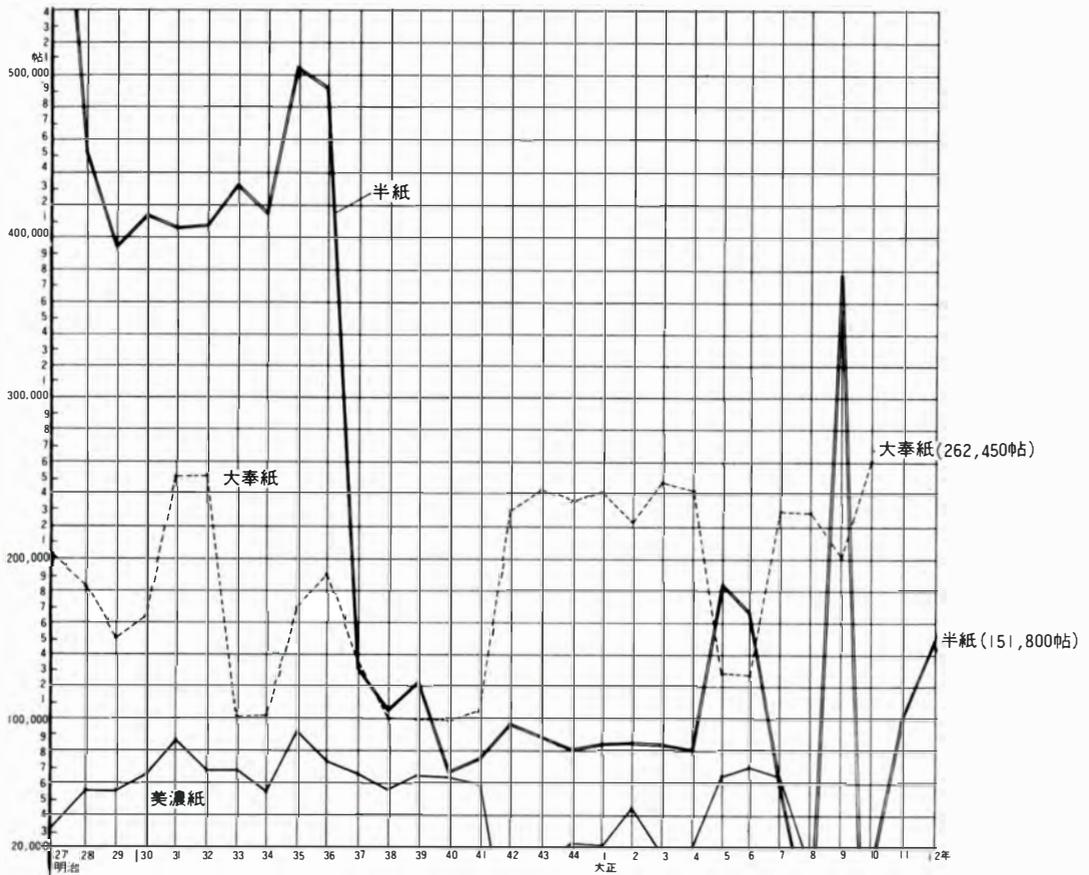


図1. 山形県内の和紙生産量の推移

(表1.「山形県和紙生産累年表」をグラフ化したもの)

に大きな差がある。これは、前年度までの統計の疎漏というよりも、明治27年からの調査方法の厳密性によるものと思われる。すなわち、明治27年から機械漉き和紙の生産が開始されるに及んで、手漉き和紙生産との産業上の相違を明らかにする必要上、副業農家数の正確を期した結果ではないかと思われる。従って、明治26年までに統計上表わされた生産戸数は、実際にはもう少し上回るものと考えられる。それは、明治19年から5年間の製造人員数からも推察されることである。

先に、全国の生産戸数の推移をグラフで表わしたが、全国の戸数の最高は明治34年の6,8562戸で、その後は衰退の一途を辿っている。

次ページ図2は、本県の生産戸数の推移を表わ

したものである。最高値は明治31年の816戸であるが、それ以後、大正年間も含め、最盛期の約半数強の400戸台を維持している状態となる。

総合生産高(美濃紙・大奉紙・半紙の合計)でみると、図3で表わされるとおり、明治35年で最高値を示し、後期には20万帖台に回復するものの、最盛期の半額程度を維持する状態が続く。製造戸数、および生産高からみて、本県の手漉き和紙の生産は、明治35年あたりが1つの境界をなしているように思われる。

このことは、77ページ図4と図5を比較してみると一層明瞭となる。すなわち、図4は原料の楮の作付面積が、明治38年以降ぐんぐん減少していく経過を示している。これに対して図5は、養蚕

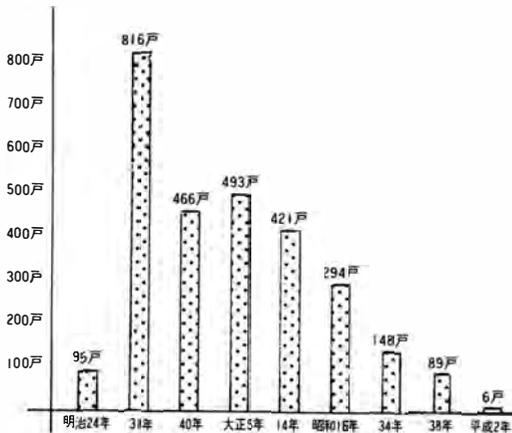


図2. 山形県の手漉き和紙生産戸数の推移

業の隆盛を示す桑畑の作付面積の増大を示している。これは、本県で、明治20年代から30年代にかけて積極的に養蚕業を奨励したことが背景にある。図4と5は下降と上昇という対称をなしており、楮畑が桑畑に転換され、紙漉業が養蚕業に切り換えられていくという当時の産業構造の変化がよく表わされている。

以上のように、洋紙と機械漉き和紙の普及、養蚕業の為の桑園の拡大、さらには、明治30年代の奥羽本線および支線の開通による県外物資の流入などの状況下で、手漉き和紙は次第にその存在意義を失っていくのである。

しかし、長期的には明らかに衰退の道を歩みながらも、時代により浮沈の波線を描きながら推移していったのであり、明治以降、すぐさま紙漉業が直線的に下降していったわけではない。全国的状況としては、紙生産全体に占める和紙の割合は、明治30年代末で約60%あり、大正元年に至って50%となり、明治時代の終わりとともに和紙と洋紙が逆転したとされている。(注2) 本県の状況としても、これまで見た統計資料から、明治30年代後半に至って紙漉業の第1次衰退期を迎えるといえる。

大正期に入れば、3紙(美濃・大奉・半紙)の総

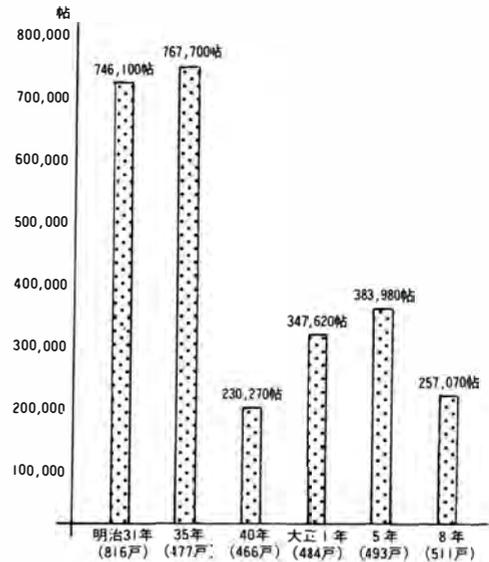


図3. 山形県和紙総合生産高(美濃紙・大奉紙・半紙)

合生産高は、7年までは30万帖台を維持し、生産戸数もさほど減少せず、8年～9年は500戸台に回復している。この時期は、第一次世界大戦(大正4年～7年)であるが、本県の紙漉業は大きな不景気の波を受けずに、比較的安定した生産を続けたことを意味すると思われる。

しかし、その後、表1において空白が目につくように、大正期後半から昭和期前半は第2次衰退期と言ってよい状況が現われてくる。昭和期以降は本県の統計資料が皆無に等しく、数字上の裏付けができないが、第二次世界大戦期は政府による軍需用の需要があり(たとえば、風船爆弾用とか弾薬包装用など)、また、物資不足によりガラスや金属の代用として生産が増大した。この時期に結成されたのが「山形県手漉和紙工業組合」であり、組合員(紙漉業者)は317名と、一時期盛況を示している。(注3)

戦争も終り、経済復興がなされ、昭和30年代後半に入ると日本は高度経済成長期に突入する。冬期間の副業として、より収益の多い長期間の出稼ぎが求められ、手漉き和紙業は、まさに時代の流れにとり残される運命となっていく。この時期は

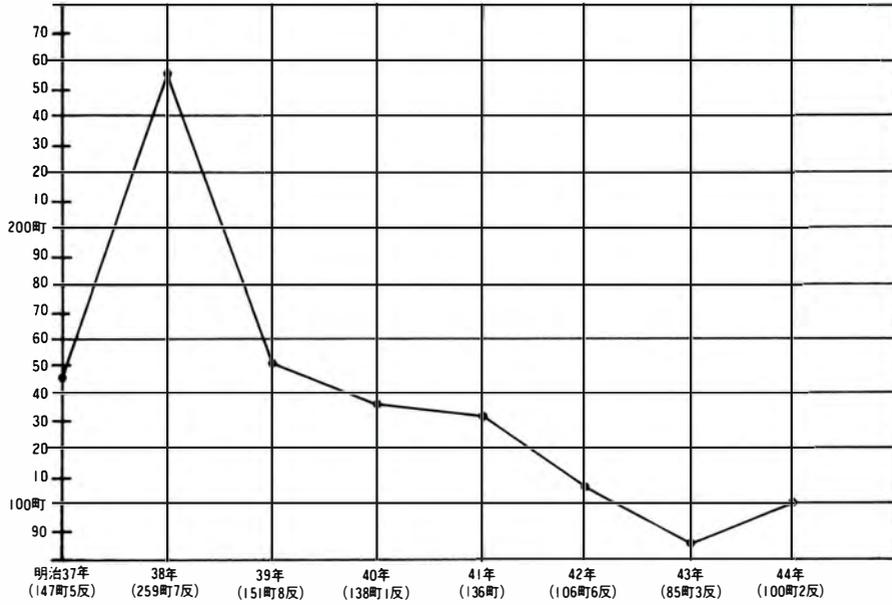


図4. 山形県内の楮畑作付反別推移 『山形県勸業年報』・『山形県統計書』より作成

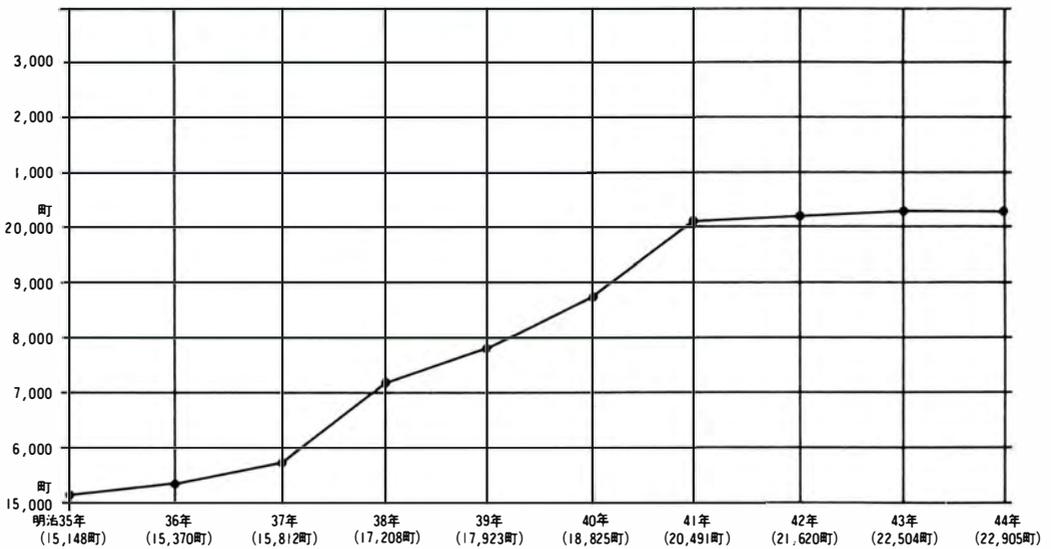


図5. 山形県内の桑園作付反別推移 『山形県統計書』より作成

致命的なほど生産戸数が激減し、第三次衰退期として現在に至っている。

注1 『山形県勸業年報』(山形県 昭和25年・26年)
114頁、129頁

注2 前掲『紙の今昔』70頁

注3 『山形市史 下巻近代編』(昭和50年)776頁

以下、各郡別に「累年表」を考察していく。

<南村山郡> 表2 参照

南村山郡内で紙漉きを行っていた地域は、先にあげた西郷村高松と長清水村、さらには、石曾根村、皆沢村、金山村などをあげることができ(注1)、大正14年の統計では、現山形市に属する村木沢村と柏倉門伝村も紙漉きを行っていたことがわかる。(表11「大正14年山形県和紙生産状況」を参照)

当郡内で最も中心地となったのが、やはり高松地区であり、年度によっては100戸を上回る製造戸数の大半が高松に集中している。(注2) この高松において、大奉紙と麻布紙との生産関係はどうであったかについて、統計で追ってみたい。

表2の「大奉紙」の数量が、明治43年に11,050帖であったのに、翌年44年には4,110帖と大幅に落ち込んでいる。以後、大正時代に入ってからでも低生産が続く。これに対して別表1をみると、麻布紙の生産は年々増加する一方で、明治7年には、僅か2,000帖であったが44年には21倍の42,500帖に達している。大正時代の単位が「斤」で同一比較ができないが、明らかに以後増産されている様子がわかる。

このように、高松では明治43年を境界として、大奉紙生産から麻布紙生産に切り換えが行なわれている。この背景には何があったのか。『上市市史』によれば、麻布紙は吉野紙に比べて小判で、中央の売れ行きが良くなかったため、明治末に紙商人

別表1 麻布紙の生産量の推移

年次	数量	価格	備考
明治7年	2,000 ^帖	65 ^銭 05 ^円	県物産表
12	23,000	552	県統計表
43	37,500	1,363	〃
44	42,500	1,443	県統計書
大正元年	42,600	1,448	以下同じ
2	43,000	1,900	
3	7,320 ^斤	3,560	
4	7,600	5,610	
5	7,700	6,655	
6	8,100	7,635	
7	8,300	10,690	
8	8,500	20,400	
9	3,950	9,290	
10	3,550	10,950	

の斎野卯之助が萱の簀を竹の簀に改めて長判を生産した。さらに簀の目がなくなるように、先進地を視察したりして技術改良を計ってからは、輪島、静岡の漆器産地に送るまでになり、漆漉し用として吉野やわら紙に対抗するまでになったとある。(注3)

また、前掲「山形県上山高松紙産地の変貌」には、麻布紙の寸法が9寸×11寸であり、当時、関東や関西の漆商が扱った吉野の「漆こし」は8寸×16寸であったので、明治35年(1902)東京の漆商市橋某から吉野の長判の注文を受けたのを契機に、在来の萱簀を竹簀に改め長判をつくった。その結果、市場を今までの東北一円から、関東、関西へと拡大させることに成功した、とある。(注4)

以上のように、積極的な技術改良の努力によって、麻布紙の販路拡大の見通しがついたことから、大奉紙からの転換をはかったことがわかる。

麻布紙は、漆漉しのための濾過紙、あるいは樹脂塗料のタンポ用紙として、大和吉野産と肩を並べ、昭和14年から戦時中あたりは、技術改良によって吉野紙を凌駕する勢いで貴金属、漆器、菓子などの包装紙として全国に販路を拡大することが



高松製紙協同組合包装紙用マーク

できた。漆漉しについては、麻布紙に生漆を入れて包み、向かい合った2人が反対方向にねじり、(1人の場合は雑巾をしぼるようにねじり)漆を漉している風景は、かつて仏壇屋の庭先などでみかけられた。

前掲『高松の民俗風土記』には、紙問屋の土屋義博氏が大蔵省や奈良地方など全国に売り捌き、大蔵省では麻布紙は賞勲局の勲褒章を包装する用紙として使用し、一部はドイツの写真レンズ磨き用として輸出されたとある。(注5)

こうして、小学校で一番身なりの良い児童は高松出身の子供だといわれるほど、紙漉業を営んでいる家庭は高収入で潤った。しかし、大戦中の物資の統制、男子労働力の不足、そして戦後の原料不足やナイロンなどの化学繊維の普及などが重なって、一時は130戸を数えた高松の製紙業も衰退を余儀なくされていった。

注1 『上市市史 中巻 近世近代編』(昭和59年) 570頁、572頁

注2 『上市市史 中巻 近世近代編』577頁には、「昭和13年頃は130戸まで増加」とある。

注3 『上市市史 中巻 近世近代編』575～576頁

注4 前掲「山形県上山高松紙産地の変貌」32頁

注5 前掲『高松の民俗風土記』77頁

年表 高松和紙の盛衰

明治44年	「楮栽培製紙改良組合」設立 楮の共同栽培 技術改良 県より技術者派遣 補助金下附をうたう
大正元年	「有限責任高松製紙生産販売購売組合」設立 出資金590円 楮の一括購入 製品の一括集荷販売をうたう(大正9年解散)
昭和8年	「高松麻布販売所」(通称「合同」)設立 仲買人4人による販売価格の安定化はかる
昭和13年	「合同」が實の改良法募集(賞金1千円) 實の条目(濾過した漆の質の均等を欠く)の改良に苦慮
昭和14年	1月「合同」實の改良に成功 柿渋を十数回塗った網布を實の上に掛けて条目無しの紙を漉くことに成功 販路拡大 12月「高松製紙協同組合」設立 土佐の製紙法導入 共同作業所設営 農閑期職工41人雇用 渡丹12が稼働(昭和37年まで)
昭和45年	「高松製紙協同組合」解散 楮の不足 ナイロン製麻布紙出回る 収益の多い副業に転換

<東村山郡> 表3参照

東村山郡の紙漉きは、鈴川村双月と隣りの上山家村和合で行われてきた。この部落は、近くに馬見ヶ崎川が流れ、古くからその水を引いて紙漉きが盛んに行われてきた。この地区では、毎年5月21日は「お蔵王の田植え」と称して馬見ヶ崎の川

の水を使わず、川を休めて感謝する日としてきた。

『やまがたの歴史』によれば、明治5年(1872)の『壬申戸籍』に、「双月村 紙漉業 79戸 上山家村(和合) 紙漉業 34戸 合計113戸」とあり、これは両地区288戸のうちの39%にあたる、としている。(注1)

この地方には、江戸時代から相当数の紙漉き人がいたであろうことは先に触れたが、明治に入ってから、その盛況ぶりは衰えなかった。

『山形県勸業年報』の明治23年の頃には、次のようにある。

東村山郡鈴川村大字双月ノ製紙家某製紙改良ノ必要ヲ感シ近時各地ノ製造所ニ遊ヒ其製造方ヲ研究シ其品質ヲ改良シタルヲ以テ需要漸ク増加セントスルノ勢アリト各市郡ノ製紙家此挙ニ倣ヒ製方ヲ改良シ価格ヲ低廉ニセハ輸入紙ノ為メニ壓倒セラルルカ如キ患ヲ免ルヤ必セリ(注2)

双月の製紙家が品質を改良することに成功し需要が増加したこと、各地域の製紙家がこれにならって改良に努めたこと、などが記されてあるが、このことから双月村は当時本県の紙漉業の先進地であったことがうかがえる。

このことを、代表3紙(美濃・大奉・半紙)の生産高、製造戸数、総生産価格合計の3点から確認してみたい。まず、本県全体の生産高(表1)と東村山郡の生産高(表3)を種類別に比較し、東村山郡の県全体における占有率をそれぞれ出してみたのが、次の別表2～別表4である。

こうしてみると、3紙のうち半紙の生産高が多いのが目につくが、全体的に、東村山郡は他地域に比して3紙ともに生産高の占有率がきわめて高いことがわかる。

次に、製造戸数であるが、表1～表10を通して、他地域では次第に減少を示しているのに対して、

当地域は、逆に増大していく傾向を示している。82ページ図6の折れ線グラフを見てみるに、県全体としてはゆるやかな右下降の減少傾向を示しているが、東村山郡は僅かながら右上昇の増加傾向を示している。表11の大正14年の153戸は、他地域の戸数を圧倒している。特徴的なことは、製造戸数の変動がきわめて少なく、数年間にわたって一定していることである。これは、双月・和合の紙漉業が経営的に安定していて、就業人員を恒常的に確保できたことを意味するものと思われる。

別表2. 美濃紙生産高比較

年次	県全体	東南山郡	占有率
昭和27年	32.450帖	400帖	1%
35年	91.900	73.000	79
44年	22.820	20.120	88
大正2年	46.670	18.100	39
7年	65.000	65.000	100

別表3. 大奉紙生産高比較

年次	県全体	東南山郡	占有率
明治27年	202.980帖	53.400帖	26%
35年	173.000	3.500	2
44年	235.750	147.000	62
大正5年	131.110	45.000	34
10年	262.450	165.000	63

別表 4. 半紙生産高比較

年次	県全体	東南山郡	占有率
明治27年	623.420帖	470.000帖	75%
35年	502.800	251.200	50
44年	82.040	60.000	73
大正5年	187.170	175.000	93
9年	381.000	375.800	99

別表 5. 和紙総生産価格合計比較

年次	県全体	東南山郡	占有率
明治27年	28.863円	11.763円	41%
35年	68.722	26.519	39
44年	77.430	59.738	77
大正5年	61.859	39.215	63
10年	139.753	79.350	57
14年	125.637	55.300	44

さらに、総生産価額合計をみとみると別表5のように表わされる。ここでも、東村山郡の占める割合の高さが指摘できる。

以上、3点につき考察したが、山形という大消費地をかかえた双月・和合の紙漉業は、明治・大正時代を通して本県の中心的役割を果たしたと言えるようである。

さらに当地域の特徴に言及すれば、他地域の紙漉業が時代と共に衰退していく中で、比較的長く活況を呈しえたのは、大野目や歩町で生産される和傘の用紙として大きな需要があったためである。特に大野目傘は双月和紙を約7割、新瀉紙を3割使用したといわれ(注3)、そのため大正末から昭和初期は原料の楮が不足ぎみで、周辺の農家はもちろん、九州や四国から購入したということである。(注4) 84ページ図7の各郡別の楮作付段別比較では、東村山郡の楮栽培は大正期に入り急激に減少しており、この動きに拍車をかけたものと思われる。

佐藤正巳氏の調査によれば、昭和28年現在、双月・和合の製造戸数は約90戸と確認されている。(注5) 双月和紙は、最後の継承者荒井常雄氏により、昭和51年まで続けられたが、現在は廃業の止むなきに至っている。

注1 前掲『やまがたの歴史』 183頁

注2 前掲『山形県勤業年報』(明治25年) 129頁

注3 前掲『山形県史 農業編 中』 959頁

注4 奥村幸雄著「双月和紙探訪記」(『百万塔 第40号』昭和50年 所収) 29頁

注5 佐藤正巳著「山形県の手漉紙」(『山形農林学会報 第5号』昭和28年 所収) 25頁

<西村山郡> 表4参照

『山形県勤業年報』の明治22年、24年の項に、「其産額最モ多キハ西村山郡」とある。(注1) 表4によれば、西村山郡で最も活発に紙漉きが行われたのは、明治28年から31年までの4年間で、製造戸数も355戸(県全体の44%)と、他地域に比べて飛び抜けて多い。ちなみに、美濃紙のこの4年間の生産高総計122,000帖は県全体の268,500帖の45%を占める。大奉紙も39%を占めている。

『山形県史 商工業編』によれば、西村山郡で紙漉きが盛んであったのは大江町と西川町であった。大江町では三郷地区の深沢・伏熊・貫見地区の小清が昭和初期までおこなわれた。西川町では吉川と岩根沢で漉かれ、吉川は「吉川大奉」として名が知られた。(注2) 岩根沢では、下小沼、西岩根沢、桂林、沼ノ平などで漉かれた。(注3) こ

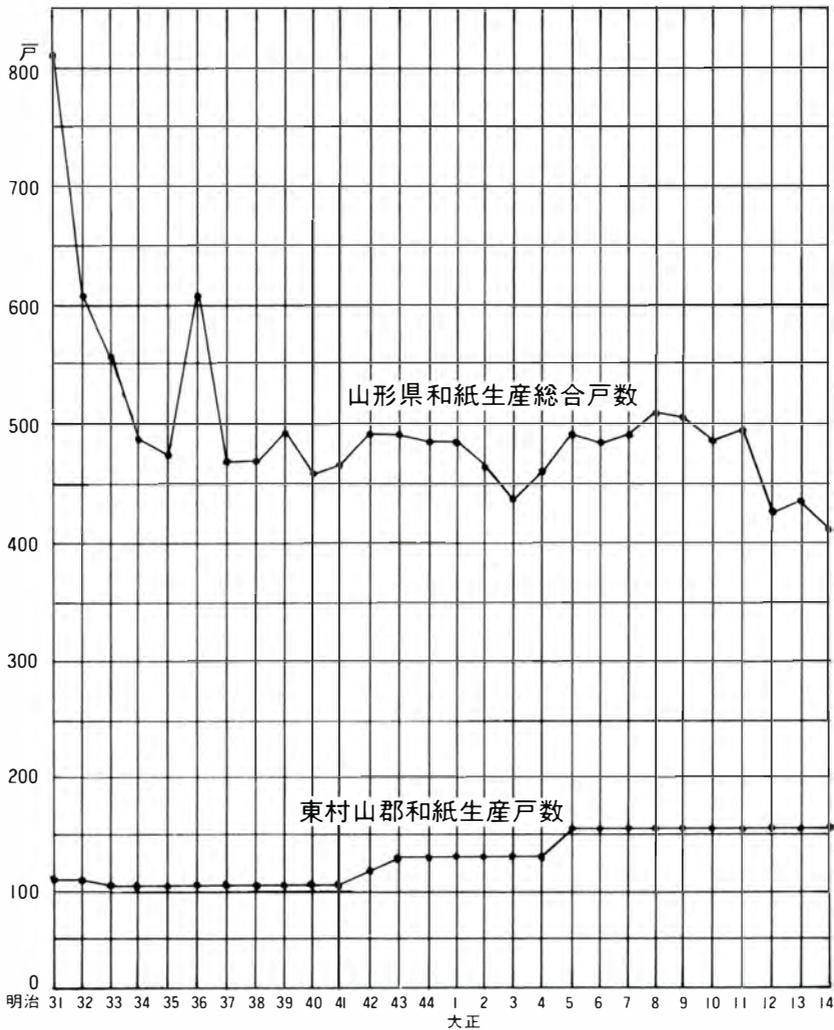


図6 和紙生産戸数比較

の他に、水澤座、柳澤、網取、海味、鶴部、大平、水澤など、広く分布したようだ。この中でも、岩根沢に産する「西山紙」がのちのちまで存続し、郡内や庄内地方へ出荷されたことは、先に述べたとおりである。

当地方の大奉紙の生産高が、大正時代に3万帖から4万帖台に至っているが、東村山郡に次いで

多い量として注目される。

図7の郡別楮栽培作付段別比較をみると、明治37年から大正10年までの16年間は、他郡に比べてその面積はトップを占めていた。「3、(1)明治期以前」の「西村山地方」の項で、当地方には楮栽培に適した山野があったと記したが、まさにこのグラフが示すとおり、原料の供給地が紙漉き場の近

隣に存在したのであり、西村山郡の紙漉きの活況を支えた1つの要因と言えるであろう。当地方はもちろん、他の地方も楮栽培農家と紙漉き農家の間は、物々交換で成立していた。つまり、楮栽培農家は無料で原料を提供し、これに対して、その代価として紙漉き農家は現物の抄紙を支払うという、製紙業における機能分担が確立していた。この形態は、製紙業の安定化に一定程度貢献したと思われる。

西村山郡で最後まで紙漉き集落として残るのは岩根沢の水澤座で、昭和35年頃まで6軒が漉いていた。

注1 『山形県勸業年報』(明治24、25年) 114頁、129頁

注2 『山形県史 商工業編』 158頁、160頁

注3 井場英雄著『岩根沢ものがたり』(昭和51年) 109頁

<北村山郡> 表5参照

『山形県勸業年報』の明治24年の項に、次のようにある。

美濃紙及大奉ノ産額増加シタルハ西置賜北村山ノ二郡ニ於テ産額大ニ増加シタルニ由レリ(中略)北村山郡ニ於テハ半紙ノ製造ヲ減シ美濃紙及大奉ノ製造ヲ増セシニ由レリト半紙ノ産額減少シタル所以ニ至テハ輸入紙廉価ノ影響ヲ被リシニ外ナラサルナリ各種平均価額ノ減少シタルモ亦之レカ為メナリ (注1)

明治中期は、美濃紙・大奉紙が盛んに生産され、北村山の紙漉きも活況を呈したようだ。しかし、それ以降は、製造戸数、生産高も漸減し、低迷状態が続く。ただ、大正期に入ってから、大奉紙の生産高が1万帖台に回復し、東置賜や西置賜と

ほぼ互角に並ぶ。表11に表わされるように、大正14年で製造戸数14は、他の内陸部の地域と比べて大変少なく、北村山の中でも、特に横山を除く大石田・尾花沢方面が紙漉きの比較的手薄の地帯となっているように思われる。

山口村の川原(現天童市)で生産された和紙は「川原子紙」と称された。東根では荒宿、原方、関山、沼沢などで漉かれたが、東根は江戸時代から、「関山煙草」と称する煙草の産地として知られ、苗床の温床に使う、いわゆる「温床紙」が生産された所でもある。2尺×3尺、あるいは3尺×4尺の大型判であったようだが、通常漉く和紙に植物油を塗って耐水性を加味したものである。これを別名「油障子」とも言い物資不足の戦時中、ガラスの代用も果した。

また、楯岡では馬場町、笛田などで紙漉きが行われ、これらの地域では、昭和28年(1953)頃まで存続していたようである。(注2)

注1 『山形県勸業年報』(明治26年) 128頁

注2 前掲「山形県の手漉き和紙」には、北村地方の手漉和紙の調査内容が詳細に報告されている。

<最上郡> 表6参照

表6に示されたとおり、当地方では一貫して美濃紙は生産されず、大奉紙もほぼ明治年間のみみられる。大正期は半紙のみが漉かれたと言ってよい状況である。ただ、半紙の生産高も決して多いとは言えず、大正年間の最上郡の半紙の生産総計は、152,450帖で、これは東村山郡の956,300帖に次いで多いが、その差は大変大きい。県全体の15年間の統計においても、12%しか生産されなかった。ちなみに、東村山郡は78%を占めた。

最上郡の生産の中心地は舟形町長沢地区で、主に下長沢地区(楯・宿・下場・平石)であった。長

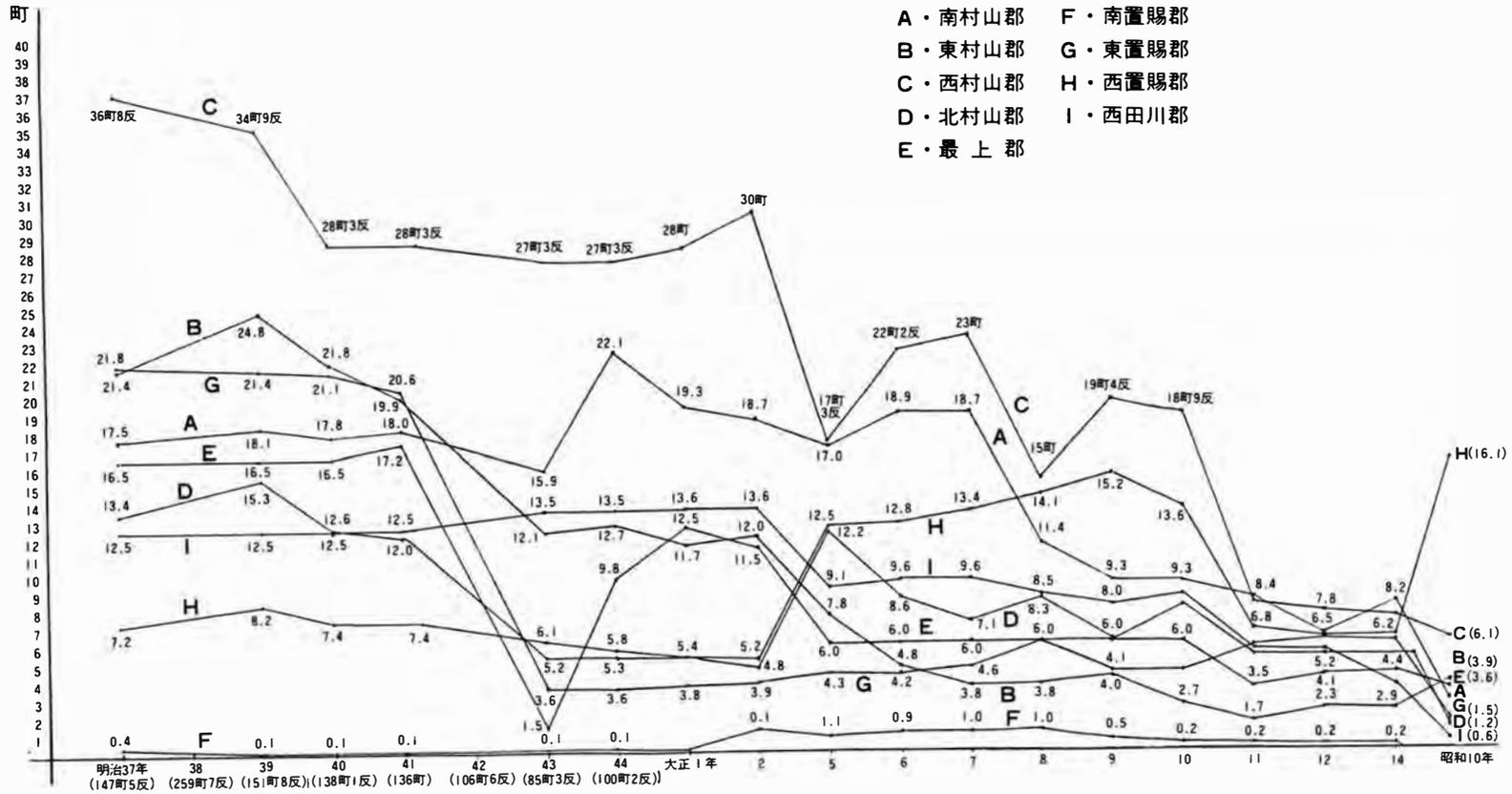


図7 郡別楮栽培作付段別比較

「山形県勸業年報」「山形県統計書」より作成

沢和紙は、「大奉」(幅1尺3寸)「中大奉」(9寸3分)「半紙」(8寸3分)の3種類が漉かれ、このうち半紙が最も多く生産された。半紙10枚で1帖と数えられ、主に障子紙として近郷の村々に売り渡された。(注1) 長沢地区では、第2次大戦後共同紙漉場を設営し生産にあたったが、昭和39年に閉鎖を余儀なくされ、約20年間和紙づくりは途絶えた。

寿岳文章氏は『和紙風土記』の中で、次のように長沢和紙を絶賛している。

羽前には数々の楽しい紙漉場がある。最上郡の新庄に近い長沢村は、私の行脚を通じ、わけて結縁の深い村である。この村で漉く紙のよさは、我々日本民芸協会の同人が夙(つと)に認めていた。(中略) 紙質といい、包装といい、今日では、ここが最も工芸的な和紙の産地の1つである。(2)

その他、最上郡内では、長沢地区の他に鮭川村中渡地区でも生産されたとされる。(注3) 表11の大正14年には、新庄にも3軒の紙漉場があったことが示されているが、それはどこで、どのような紙が漉かれていたのか不詳である。

注1 『舟形町史』(昭和57年) 1203頁

注2 前掲『和紙風土記』 140~141頁

注3 『山形県史 第4巻』(昭和49年) 517頁

<南置賜郡・東置賜郡・西置賜郡>

表7~表9参照

江戸時代、米沢藩の殖産興業政策の1つとして製紙業も振興の対象となり、好況を示したことは前に述べたとおりである。しかし、明治になって藩体制が消滅し、奨励策や御用紙の採用などの後楯を失った製紙業をめぐる環境は大きく変化する。

『白鷹町史』によれば、武士が用いられたと思

われる帳簿用・小菊・大津軽などは漉かれず、一般庶民用の中折・粕紙ばかりが漉かれて紙の需要が減少し、箕和田・高岡・下山などの大部分の人が紙漉きをやめ、ごく一部の人が漉き続けたとある。(注1) ただ、政治体制の変化は、またあらたな需要を生んだとも言える。それは諸制度の改革で行政の必要とする諸帳簿類が夥しく増加し、それに伴い和紙の需要も相当にあったのではないかと思われる。新体制における新たな紙の需要の増大という一見矛盾した現象は、紙漉き農家にどのような変化をもたらしたのであろうか。おそらく、端的に言えば、零細的に紙漉きに携わっている人であればある程新しい需要に対応できず廃業を強いられ、逆に原料の楮が確保でき一定の技術と量産が可能な手工業的資質のある程度備えた農家ほど、新環境と需要に適応でき、生きのびることができたのではないかと思われる。

図7で、南置賜においては原料の楮栽培は極端に低く、郡内ではとうてい自給できず、経営的に不安定な状態を免れなかったのではないかと思われる。また、東置賜も明治期には原料の楮が多かったが、後期になって急激に落ち込んで南置賜と同様の状況下におかれたのではあるまいか。

三郡を比較すると、表9の西置賜の大奉紙の生産高が、大正2年までは2万帖台を維持し、それ以降も一定の生産を続けて安定ぶりが目につく。生産戸数も明治中期を除き40戸~50戸台を維持する。

『山形県勸業年報』の26年の項には、次のようにある。

26年ニ於テ美濃紙及大奉ノ産額価額減少シタルハ主トシテ西置賜郡ニ於テ許多ノ減少ヲ致シタルニ由レリ郡役所ノ報告ニ據レハ同郡製造ノ紙ハ価格稍々高価ナルヲ以テ輸入紙ノ為メニ壓セラレ産出ヲ減少スルニ至レリ(注2)

これによると、県外産で品質の優れた安価な紙が市場に流通し、地元産のものが圧迫され、苦しい経営状態におかれている様子がよくわかる。先にも引用したが、特に明治に入って「其品質や粗悪ニ価格高貴ナル」(同、30年の項)状態がなかなか改善されないまま情勢が次第に悪化していく。

しかし、第一次世界大戦頃は、確固とした販売形態を取った為に、かなり状況は好転する。つまり、紙漉き農家は原料の楮を近くの農家から供給し、その代価として木楮ニ貫匁に対して抄紙一帖を支払う(注3)という提携関係を確立することができたからである。そして、余剰品はおよそ米一升に対して紙一帖の割合で交換可能であったという。(注4) 図7の郡別楮作付段別比較を見れば、第一次世界大戦(大正3年～7年)中の好転期を裏付けるように、西置賜郡では、大正2年以降10年頃までは楮栽培が急激に増加し、西村山郡が下降きみであるのに対し、それに迫る勢いを示している。原料の安定供給ということの重要性をあらわすものと言えよう。また、紙漉き農家の共同歩調による難局への対処が求められ、昭和6年に「深山製紙共同組合」が結成されている。この組合の活動が功を奏したのか、図7の昭和10年には、楮栽培が急激な伸びを示す。これまでの交換比率をあらため、2貫匁1帖から2貫500匁一帖とするなど(注5)、共同して原料確保に努力した結果であろう。

第2次大戦後は、高度経済成長下で、より収益の多い出稼ぎに転じるものが多く、昭和34年に30戸あった製造農家も同41年には20戸、42年には12戸と激減していった。当時も生産額は1戸平均200帖で、これは約4万円の収入でしかなく、出稼ぎ者1人の1ヶ月分の収入にしかならなかったといわれている。(注6)

注1 『白鷹町史 下巻』(昭和52年) 1184頁

注2 『山形県勸業年報』(明治28年) 121頁

注3・4 『白鷹町史 下巻』 1186頁

注5 『白鷹町史 下巻』 1187頁

注6 『白鷹町史 下巻』 1189頁

<東田川郡・西田川郡・飽海郡>表10参照

庄内地方については、近世期から紙漉業は低調であったが、明治期以降も同様である。

紙数の都合上、飽海郡のみを掲載したが、3郡の比較では、東田川郡が製造戸数が1～2戸で生産も少なく、飽海郡が最高時で16戸で生産も多い。しかし飽海郡においては、美濃紙、大奉紙、半紙はほとんど生産されず、「その他の紙」が大部分であったようだ。

『鶴岡市史』によれば、明治時代の提灯紙には加賀美濃を使用したとあり、さらに昭和に入ってから、傘紙として新潟の加茂と山形の双月のものを用いたとある。(注1) やはり、当地方は近世期以来、日本海沿岸の県外産の輸入紙に依存していた様子うかがえる。

庄内地方に紙漉業があまり育たなかった要因として、日本海貿易のほか、原料の楮栽培に適する山間部が少なかったということがあげられるように思われる。内陸地方において、山寄りの村落に紙漉業が盛んだったのは、稲作農業の経営規模が小さく、副業への依存度が高かったということ、原料供給地が比較的近隣にあったということだと思われる。それに対して、水田率の高い広大な庄内平野においては、内陸に比較して副業としての紙漉きの起こる条件がそろわず、しかも、県外和紙の流入しやすい酒田湊という貿易港をかかえていた、ということが大きな要因であったように思われる。

表11では、大正14年現在、製造戸数は東田川郡の鶴岡で2戸、西田川郡温海村で1戸、飽海郡の酒田で3戸を数えている。佐藤正巳著「山形県の

手漉紙」には、昭和28年当時の記録として、鶴岡市に、40年～50年前にポロ紙を再生する漉き返し業がみられた、とある。さらに温海町大字安土では、約70年間も紙が漉かれ、「安土の紙屋」として注文が多くあったが、昭和20年に廃業になったとある。(注2)

昭和3年、山形県の手漉和紙生産戸数
(農林省農務局編「手漉製紙に関する調査」より作成)

地名	生産戸数
鈴川村(現山形市)	168戸
西郷村(現上山市)	80
西川町	26
鮭貝村(現白鷹町)	25
舟形町	16
山五十川村(現温海町)	11
計	326戸

主な和紙産地の生産戸数の推移

(加藤晴治著『和紙』
佐藤正巳著「山形県の手漉紙」などより作成)

地名	昭和24年	30年	34年	38年	平成2年
山形市双月			戸 35	戸 10	0
上山市高松			65	43	1
白鷹町深山			30	34	3
舟形町長沢					1
西川町 沼ノ平・岩根沢			18	2	1
計	161戸	115	148	89	6

注1 『鶴岡市史 下巻』(昭和50年) 440～441頁

注2 前掲「山形県の手漉紙」 20～21頁

4 おわりに

以上、明治期、大正期を中心にした本県の手漉き和紙の歴史の変遷を辿ってみたが、およそ第3次にわたる衰退期を経て今日に至っていることを考察した。そして、その間、各地域においては、製紙共同組合、共同紙漉場、を設立、又は設営し、さらに技術改良を加える努力の足跡も垣間見ることができた。顧みるに、本県内陸部の零細農業において、副業としての紙漉業がもたらした経済上の効果は、決して、少なくなかったと思われる。しかし、特に昭和30年代後半からの高度経済成長期において、他の副業への転換と、第一次産業そのものの衰退で紙漉業が激減していったことは、先にみたとおりである。

だがなお、手漉き和紙づくりはしぶとく生命を維持し次第に再認識の眼を増やしつつある。紙数の都合上考察できなかつたが、次年度は、現状をできるだけつぶさに観察して、和紙の行くえを追ってみたい。

表1. 山形県総合和紙生産累年表
①明治時代

年次	製造戸数	製造人員	美濃紙		大奉紙		半紙		その他の紙価格	価格合計
			数量	価格	数量	価格	数量	価格		
明治7年			帖 2,000	円 65	帖 116,048	円 5,681	帖 391,800	円 2,699	円 11,857	円 20,302
8年			14,200	1,043	75,920	4,333	83,950	1,784	2,449	9,609
12年			26,031	5,908	22,250	1,576	68,238	3,231		
13年			6,000	540	131,712	10,360	440,690	14,271		
19年		人 91								
20年		365								
21年		623	38,731	2,688			248,484	4,922	9,105	16,715
22年		374	38,322	2,654			250,590	4,920	9,081	16,655
23年		702	美濃・大奉紙合計数量 99,780帖		美濃・大奉紙合計価格 6,761円		275,057	5,193	4,044	15,998
24年	戸 95		137,968		8,052		213,058	3,913	2,126	14,091
25年	136		209,421		10,219		380,548	5,361	3,484	19,064
26年	139		165,838		8,211		670,116	10,057	5,169	23,437
27年	652		32,450	1,970	202,980	12,659	623,420	10,136	4,098	28,863
28年	781		57,000	4,041	183,100	8,743	455,100	8,060	7,093	27,937
29年	788		57,400	4,425	158,900	10,345	394,400	8,231	9,924	32,925
30年	807		66,400	6,564	163,400	13,455	414,600	10,252	12,998	43,269
31年	816		87,700	9,797	252,000	21,470	406,400	10,206	10,611	52,084
32年	621	891	69,800	8,132	256,200	27,887	409,500	10,795	8,558	55,372
33年	556	808	69,100	9,054	108,000	13,223	433,600	11,488	19,185	52,950
34年	483	917	57,000	7,110	108,700	12,003	418,900	11,184	18,855	49,152
35年	477	972	91,900	12,064	173,000	20,262	502,800	15,222	21,174	68,722
36年	619	1,184	75,900	9,733	190,200	19,895	491,700	12,668	17,869	60,165
37年	472	827	65,830	6,598	137,920	12,581	134,330	3,153	10,970	33,302
38年	474	762	59,930	6,052	101,920	10,193	103,810	2,614	8,597	27,456
39年	497	804	65,640	7,901	102,560	11,526	122,540	3,156	9,102	31,685
40年	466	772	65,180	9,075	99,080	12,566	66,010	1,785	9,314	32,740
41年	471	767	60,770	6,856	104,870	13,999	76,020	2,571	7,730	31,156
42年	495	745	6,800	845	237,020	25,368	29,730	925	37,222	64,360
43年	494	753	4,360	629	245,510	26,328	18,490	697	40,019	69,036
44年	487	798	22,820	2,938	235,750	25,895	82,040	2,334	44,820	77,430

『山形県治一覽』(明治7年)

『山形県統計表』(明治12、13年)

『山形県勲業年報』(明治21～41年)

『管内物産表』(明治8年)

『山形県統計書』(明治19～44年)

以上より作成

表1. 山形県総合和紙生産累年表
②大正時代

主に「山形県統計書」より作成

年次	製造 戸数	製造 人員	美濃紙		大奉紙		半紙		その他の 紙価格	価格合計
			数量	価格	数量	価格	数量	価格		
大正1年	戸 484	人 767	帖 20,900	円 2,067	帖 240,050	円 22,411	帖 86,670	円 2,545	円 44,721	円 73,732
2年	468	748	46,670	6,319	223,400	19,729	86,280	2,378	44,399	74,725
3年	440	757	19,700	2,389	249,240	22,944	84,700	2,299	42,422	73,614
4年	463	651	21,500	2,645	240,690	27,101	81,270	2,465	35,150	77,651
5年	493	689	65,700	7,980	131,110	17,094	187,170	5,837	19,438	61,859
6年	487	642	72,460	14,304	129,160	19,401	164,090	6,950	33,275	88,986
7年	494	660	65,000	13,650	231,070	37,528	68,500	3,615	37,147	119,082
8年	511	857	14,000	5,437	230,270	50,755	12,800	1,169	61,340	156,082
9年	505	915			203,330	57,880	381,000	12,091	55,214	151,150
10年	481	893	2,000	800	262,450	56,383	13,330	1,027	51,569	139,753
11年	495	868	16,200	5,470			103,800	8,401	97,597	136,936
12年	433	869	12,300	5,120			151,800	11,546	95,211	161,576
13年	443	657		2,729				7,439		120,055
14年	421	647		1,600				7,718		125,637

表 2. 南村山郡和紙生産累年表

主に「山形県統計書」より作成

年次	製造		美濃紙		大奉紙		半紙		その他の紙価格	価格合計	
	戸数	職工	数量	価格	数量	価格	数量	価格			
明治12年			12,000帖	円900	21,000帖	円1,470	円1,470	円84			
13年					19,500	1,560					
20年		113人									
21年		150									
22年		2									
23年		2									
24年			美濃紙と大奉紙の合計は省略				47,000	703			
25年							44,800	679			
26年							46,000	690			
27年			8,500	510	12,000	792	20,300	365	円38	円1,705	
28年			8,500	510	12,000	600	20,300	368	380	1,858	
29年	112戸		8,000	480	11,000	440	20,000	400	570	1,890	
30年	112		8,500	850	12,000	1,128	18,500	462	852	3,292	
31年	113		8,500	1,020	12,000	1,320	20,300	568	880	3,788	
32年	113	0	113	9,000	1,260	15,300	1,950	20,600	500	150	2,860
33年	113			5,000	700	27,400	3,791	38,600	1,347	225	6,063
34年	65			4,000	560	26,900	2,959	37,000	1,134	360	5,013
35年	65			4,000	560	26,900	2,959	37,000	1,134	360	5,013
36年	52	0	52	3,500	385	27,100	2,705	37,300	1,141	313	4,544
37年	62	0	62	3,400	340	11,300	987	9,850	271	1,250	2,849
38年											
39年	67	1	68	3,110	358	12,220	1,274	6,810	184	928	2,744
40年	67	1	75	3,200	384	12,500	1,357	7,350	207	894	2,842
41年	68	71	37	3,000	360	10,200	1,175	2,800	83	750	2,368
42年											
43年	67	2	80	2,500	375	11,050	1,170	610	17	185	3,110
44年	65	1	91	1,000	170	4,110	452	1,310	35	441	2,541

表3. 東村山郡和紙生産累年表

主に「山形県統計書」より作成

年次	製造 戸数	職工		美濃紙		大奉紙		半紙		その他の 紙価格	価格合計
		男	女	数量	価格	数量	価格	数量	価格		
明治12年								帖 36,000	円 684		
13年								368,000	9,200		
19年			25人								
22年			98								
23年			245								
24年			23	美濃紙と大奉紙の合計は省略				6,900	138		
25年			23					457,111	8,228		
26年	21戸							466,500	6,998		
27年				帖 400	円 24	帖 53,400	円 3,737	470,000	7,520	円 482	円 11,763
28年				500	30	36,100	1,300	242,000	4,048	459	5,837
29年	107			700	56	100	4	18,200	3,648	1,050	4,758
30年	107			6,200	756	1,600	176	182,000	4,192	2,500	7,624
31年	112			36,000	3,600	5,100	850	182,500	4,563	1,400	10,413
32年	112	120	145	28,500	3,850	5,000	625	235,000	5,875	1,540	11,890
33年	105			46,500	6,045	5,000	300	250,000	6,250	9,700	22,295
34年	108			39,000	4,695	4,000	405	251,200	6,286	10,300	21,686
35年	108			73,000	9,490	3,500	325	251,200	7,536	9,168	26,519
36年	105	140	150	52,000	6,760	2,000	220	250,000	5,500	9,420	21,900
37年	107	53	125	55,000	5,500	2,350	228	10,520	246	6,550	12,524
38年											
39年	106	52	125	60,100	7,203	2,570	334	15,430	419	4,524	12,480
40年	106	53	127	60,180	8,417	2,620	354	15,610	500	4,466	13,737
41年	106	7	134	55,070	6,058	2,530	329	5,720	183	4,499	11,069
42年											
43年	132	12	157	150	15	170,000	17,000			36,475	53,490
44年	132	13	159	20,120	2,520	147,000	14,700	60,000	1,500	41,018	59,738

表4. 西村山郡和紙生産累年表

主に「山形県統計書」より作成

年次	製造戸数	職工		美濃紙		大奉紙		半紙		その他の紙価格	価格合計
		男	女	数量	価格	数量	価格	数量	価格		
明治12年				帖 12,031	円 4,808			帖 9,375	円 1,246		
13年				6,000	540	帖 109,800	円 7,686	56,500	1,412		
20年		252人									
21年		120									
22年		132									
23年		242									
24年		13		美濃紙と大奉紙の合計は省略				77,170	1,376		
25年		69						83,050	1,334		
26年	73戸							40,100	625		
27年				6,300	403	63,600	3,816	42,100	733	円 1,580	円 6,532
28年				29,200	2,336	77,900	3,707	82,100	1,643	3,957	11,643
29年	355			29,000	2,320	71,800	4,308	76,500	1,614	3,892	12,134
30年	355			31,500	3,186	72,400	6,154	81,600	2,448	4,227	16,015
31年	355			32,300	4,038	72,300	6,869	82,300	2,140	4,295	17,342
32年	119	109	36	11,200	1,568	61,500	7,380	48,200	1,446	1,363	11,757
33年	102			4,000	530	52,700	6,324	40,100	1,003	1,170	9,027
34年	108			1,200	142	50,400	4,826	14,700	442	349	5,759
35年	108			1,200	144	55,300	4,811	14,800	441	332	5,728
36年	213	194	210	10,200	1,220	54,500	4,263	105,200	3,110	503	9,096
37年	98	99	107	1,000	100	71,100	5,985	6,120	170	83	6,338
38年											
39年	99	98	90	1,500	225	40,020	4,482	9,550	287	248	5,242
40年	96	94	82	150	21	30,800	4,004	5,000	150	220	4,395
41年	98	84	84	1,500	255	43,760	5,689	5,670	198	140	6,282
42年											
43年	84	79	68	1,000	135	19,820	2,576	2,980	75	302	3,088
44年	82	81	71	1,000	130	35,900	4,380	1,350	38	350	4,898

表5. 北村山郡和紙生産累年表

主に「山形県統計書」より作成

年次	製造戸数	職工		美濃紙		大奉紙		半紙		その他の紙価格	価格合計
		男	女	数量	価格	数量	価格	数量	価格		
明治22年		60人									
23年		45									
24年		14		美濃紙と大奉紙の合計省略				6,145帖	121円		
25年		14						20,225	405		
26年	14戸							21,610	389		
27年				1,300帖	78円	20,500帖	1,312円	30,700	492	492円	2,374円
28年				800	51	9,800	449	26,800	460	667	1,627
29年	88			2,400	206	21,900	1,840	22,300	535	1,602	4,183
30年	93			2,500	213	26,800	1,876	32,000	800	1,783	4,672
31年	92			2,200	176	102,500	7,175	38,200	840	1,092	9,283
32年	57	36	68	1,500	180	106,500	9,540	17,200	527	1,070	11,317
33年	14			1,500	180	6,400	523	10,000	270	252	1,225
34年	13			1,500	173	6,400	714	11,000	280	305	1,472
35年	15			200	20	1,380	1,554	5,000	120	222	1,916
36年	10	19	13	1,500	180	5,600	504	5,000	120	284	1,088
37年	34	22	23	750	83	12,770	1,179	4,390	126	73	1,461
38年											
39年	23	17	13	200	26	6,900	624	4,500	123	74	847
40年	29	21	14	300	39	9,810	929	4,700	128	164	1,260
41年	18	11	10			8,270	1,132	5,700	224	53	1,409
42年											
43年	21	15	11			8,300	893	5,700	178	53	1,124
44年	24	22	12			12,110	1,345	6,000	186	66	1,596

表6. 最上郡和紙生産累年表

主に「山形県統計書」より作成

年次	製造戸数	職工		美濃紙		大奉紙		半紙		その他の紙価格	価格合計
		男	女	数量	価格	数量	価格	数量	価格		
明治12年						1,250帖	106円	14,050帖	362円		
13年						1,280	1,024	14,800	3,604		
19年			7人								
22年			7								
23年			69								
24年			13	美濃紙と大奉紙の合計省略				53,520	749		
25年			13					40,260	564		
26年	13戸							41,470	581		
27年						1,700	108	11,100	190	60円	358円
28年						1,700	122	28,100	478	100	700
29年	7					2,100	133	41,600	1,012	342	1,487
30年	7					1,000	60	42,500	1,060	361	1,481
31年	10					400	42	38,500	986	450	1,478
32年	84	4	80			10,700	1,412	35,500	942	88	2,442
33年	92					7,800	1,320	44,800	1,182	88	2,590
34年	90					8,200	1,312	44,800	1,344	276	2,932
35年	89					2,700	439	43,100	1,299	140	1,878
36年	85	3	130			3,400	490	51,000	1,545	142	2,177
37年	34	8	35			1,050	125	45,000	1,133	322	1,580
38年											
39年	39	7	39			400	60	39,900	1,116	111	1,287
40年	35	6	38			600	96	6,900	185	276	557
41年	36	7	42					32,780	1,297	56	1,353
42年											
43年	36	6	33					9,000	420	400	820
44年	36	7	32			250	38	10,700	515	118	671

表7. 南置賜郡和紙生産累年表

主に「山形県統計書」より作成

年次	製造 戸数	職工		美濃紙		大奉紙		半紙		その他の 紙価格	価格合計
		男	女	数量	価格	数量	価格	数量	価格		
明治19年		9人									
22年		8									
23年		8									
24年		4		美濃紙と大奉紙の合計省略				1,760帖	32円		
25年		4						80,900	146		
26年	4戸							12,200	124		
27年				100帖	7円	2,100帖	126円	11,100	169	1,008円	1,310円
28年				100	8	2,000	140	11,500	186	1,260	1,594
29年	24			200	16	2,000	160	13,500	267	1,656	2,099
30年	23			300	25	4,000	360	16,500	396	2,266	3,047
31年	24			300	22	3,000	270	17,600	326	1,842	2,460
32年	48	1	80	300	30	6,900	607	12,800	384	2,130	3,151
33年	44			300	30	4,500	360	6,800	170	1,810	2,370
34年	44					3,600	460	6,800	196	1,210	1,866
35年	35					4,900	622	1,500	41	1,228	1,891
36年	37	3	50			5,600	711	1,000	30	1,090	1,831
37年	46	0	48	80	11			3,050	85	1,025	1,121
38年											
39年	73	0	73	80	10	4,000	380	350	9	902	1,301
40年	50	0	50	100	14			400	11	1,487	1,512
41年	51	3	49			570	86	2,000	6	925	1,017
42年											
43年	52	14	40			1,440	216	200	7	615	838
44年	52	16	48			1,550	229	180	5	571	805

表 8. 東置賜郡和紙生産累年表

主に「山形県統計書」より作成

年次	製造戸数	職工		美濃紙		大奉紙		半紙		その他の紙価格	価格合計
		男	女	数量	価格	数量	価格	数量	価格		
明治12年				2,000帖	200円			4,500帖	855円		
22年			31人								
23年			33								
24年			3	美濃紙と大奉紙の合計省略				5,000	84		
25年			3					5,200	90		
26年	1戸							8,000	132		
27年				600	48	24,680帖	1,518円	6,000	100	148円	1,814円
28年				600	48	18,600	1,175	6,300	137	45	1,405
29年	44			600	60	20,000	1,360	6,500	139	112	1,671
30年	59			600	72	15,600	1,301	6,500	144	279	1,796
31年	55			1,600	200	16,200	1,296	6,500	146	280	1,922
32年	17	3	18	1,800	234	4,000	585	3,200	105	137	1,061
33年	16			1,800	244	3,700	540	3,300	106	73	963
34年	21			800	120	8,700	1,262	3,400	102	191	1,675
35年	12			500	70	64,700	9,382	8,520	2,556	1,217	13,225
36年	71	50	44	200	28	65,000	8,450	3,000	90	3,510	12,078
37年	28	13	30	250	25	15,600	1,694	4,000	80	301	2,100
38年											
39年	26	6	24			14,800	1,884			389	2,273
40年	24	5	23			20,550	3,051			89	3,140
41年	35	12	33			18,790	2,793			373	3,166
42年											
43年	40	7	39	210	29	13,050	1,856			367	2,252
44年	38	8	37	200	28	10,930	1,648			900	2,576

表9. 西置賜郡和紙生産累年表

主に「山形県統計書」より作成

年次	製造 戸数	職工		美濃紙		大奉紙		半紙		その他の 紙価格	価格合計
		男	女	数量	価格	数量	価格	数量	価格		
明治19年		50人									
21年		353									
22年		36									
23年		58									
24年		13						40,000 ^帖	720円		
25年		3						102,300	1,760		
26年	1戸							12,436	234		
27年				12,000帖	660円	25,000帖	1,250円	10,220	217	290円	2,417円
28年				12,000	660	25,000	1,250	10,000	180	225	2,315
29年	50			15,000	1,200	30,000	2,100	20,000	400	700	4,400
30年	50			15,000	1,300	30,000	2,400	20,000	420	730	4,850
31年	54			5,000	550	40,500	3,648	10,000	270	372	4,840
32年	54	17	42	5,000	650	46,300	5,788	20,000	540	400	7,405
33年	55			5,000	625	500	65	20,000	580	4,427	5,697
34年	20			5,000	650	500	65	25,000	675	4,424	5,814
35年	21			6,000	800	1,200	170	30,000	870	5,873	7,713
36年	18	26	57	10,000	110	27,000	2,552	1,200	30	393	3,085
37年	48	51	113	350	39	23,750	2,383	1,500	41	130	2,593
38年											
39年	45	46	114	350	46	21,650	2,488	1,000	28	170	2,732
40年	45	46	115	250	40	22,200	2,775	1,050	29	170	3,014
41年	45	45	115	100	18	20,750	2,795	150	5	173	2,991
42年											
43年	44	47	118	500	75	21,850	2,617			405	3,097
44年	44	50	129	500	90	23,900	3,103	2,500	56	422	3,671

表10. 飽海郡和紙生産累年表

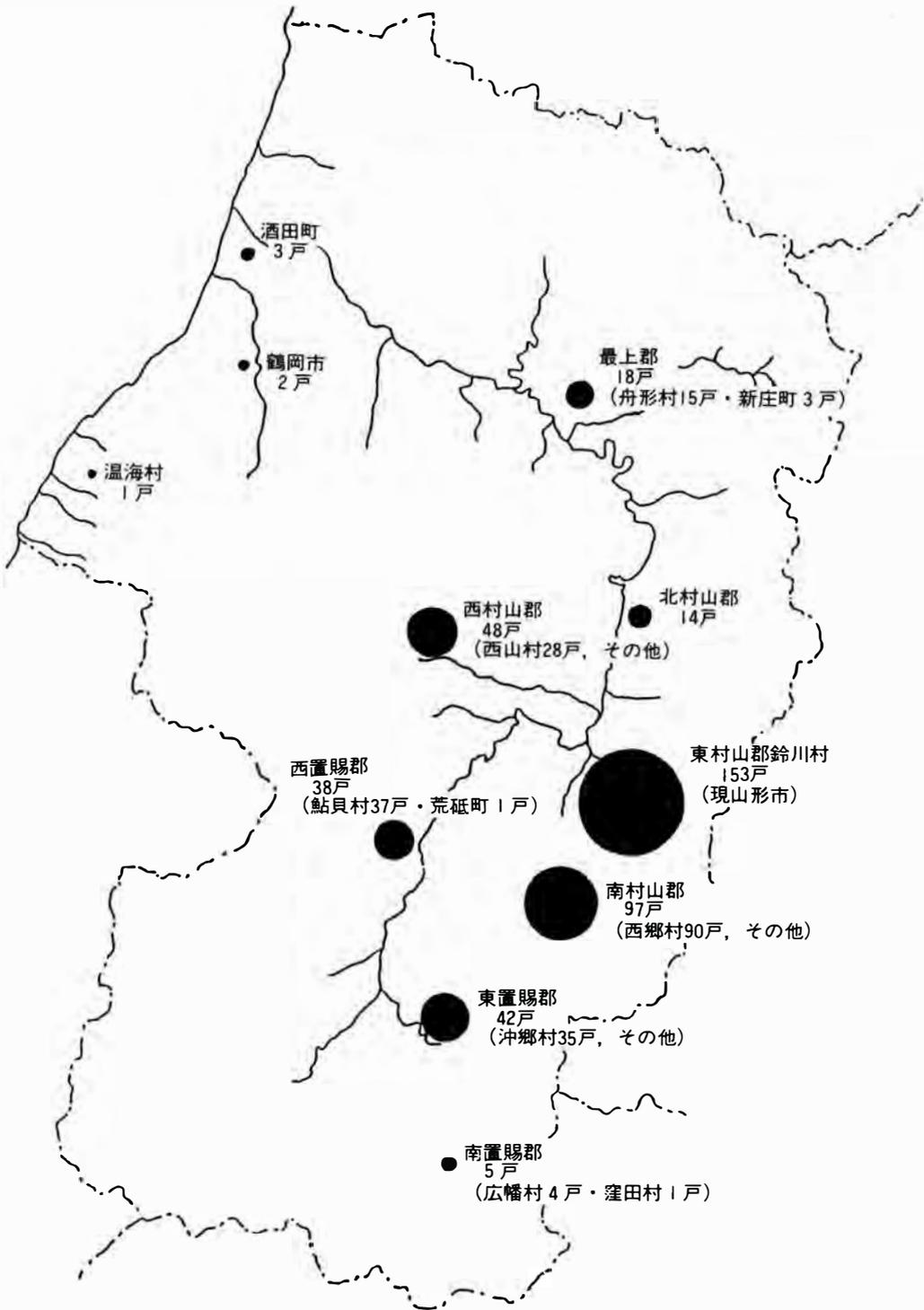
主に「山形県統計書」より作成

年次	製造 戸数	職 工		半 紙		その他の 紙 価 格	価格合計
		男	女	数 量	価 格		
明治13年				390帖	33円		
24年		7人		600	9		
25年		7		600	9		
26年	5戸			600	9		
32年	16	16	0				1,653円
33年	13					1,440円	1,440
34年	12					1,440	1,440
35年	12					1,334	1,334
36年	12	12	12			864	864
37年	12	12	8			821	821
39年	16	7	16			1,056	1,056
40年	12	5	12			1,368	1,368
41年	9	3	10			588	588
43年	9	2	10			449	449
44年	9	2	11			502	502
大正1年	9	2	11				
2年	18	3	19			360	360
4年	5	0	6				216
5年	16	4	17				153
6年	16	2	15				480
7年	16	3	18				6,250
8年	13	2	13				2,700
9年	13	2	13				3,600
10年	13	1	11				3,000
11年	10	1	10				1,250
12年	7	0	8				980
14年	3	3					600

表11. 大正14年山形県和紙生産状況

「山形県統計書」より作成

郡村別	製造戸数	製造人員 (平均一日使用数)	総価格	郡村別	製造戸数	製造人員 (平均一日使用数)	総価格
1.南村山郡	97戸	233人	34,197円	窪田村	1	1	120
上山町	2	4	800	7.東置賜郡	42	89	4,130
西郷村	90	220	32,500	沖郷村	35	82	2,900
村木澤村	1	3	52	赤湯町	3	3	305
柏倉門伝村	4	6	845	金山村	1	1	270
2.東村山郡	153	113	55,300	吉野村	1	1	170
鈴川村	153	113	55,300	伊佐澤村	1	1	80
3.西村山郡	48	100	11,555	吉島村	1	1	405
東五百川村	10	26	3,500	8.西置賜郡	38	40	6,109
西五百川村	1	1	75	鮎貝村	37	37	5,709
本郷村	3	3	200	荒砥町	1	3	400
川土居村	4	8	1,330	9.西田川郡	1	1	70
西山村	28	58	6,000	温海村	1	1	70
白岩町	2	4	450	10.飽海郡	3	3	600
4.北村山郡	14	25	5,492	酒田町	3	3	600
楯岡町	3	4	1,400	11.鶴岡市	2	2	104
大倉村	1	2	257				
東根町	3	6	2,100	総計	421戸	647人	125,637円
山口村	3	7	1,000				
富本村	2	3	640				
大高根村	1	1	70				
横山村	1	2	25				
5.最上郡	18	36	7,510				
新庄町	3	6	300				
舟形村	15	30	7,210				
6.南置賜郡	5	5	570				
廣幡村	4	4	450				



大正14年・郡別手漉き和紙製造戸数

『山形県統計書』より作成

古墳はない。山形市七浦の狐山八号墳^③のように河原石で構築された堅穴式石室をもつ小円墳以外、副葬品の見当たらない切石組合せ箱形石棺をもつ古墳は、底石の有無や規模の尺度等々総合的な型式論に依拠しての再検討が望まれる。米沢・山形の両盆地は、改新後程なくして、道奥国の置賜郡・最上郡として律令国家に組み込まれた。その段階で、大化の薄葬令もまたこの地域に貫徹されたであろう。

米沢盆地で奈良時代の品々が副葬されたのは、その殆どは追葬可能な横穴式石室に限られた、として大過あるまい。高島町羽山古墳から発掘された遺骸は少なくとも一三体を数える。かなりの期間に及ぶ利用が確實視される。

大化以前の寺院跡は未発見である。置賜・最上の二郡成立後の官衙城柵・寺院のうち奈良時代の確実な調査例はない。条里制の施行が考古学的に検証できたのは、山形盆地南半の、つまり仁和分郡に際してなお最上郡のままの地域である。山形盆地北半の村山郡域の施行は平安時代にずれ込んだ可能性が大きい。そればかりか、中世にも、水路の利用による制約から、条里的地割がさらに拡大した可能性の検討も急務である。置賜郡と出羽・田川・飽海郡にも条里的地割が施行された様子が、明治二二年の地籍図の分析から伺える。その施行時期はまだ特定できない。

奈良時代の集落遺跡は全県的にまだ少数しか確認されていない。地下に埋没している例が多いのかも知れない。平安時代の集落遺跡は、地表面からの深度の浅いたためもあって、全県域で相当数になる。いわば数倍増する。その約半数は、古墳時代集落の上層にある。不思議にも、奈良時代の遺構・遺物の包含層を欠く。平安前期の集落遺

跡は、『和名類聚抄』成立のころ、そこに記載された郡郷を想定するに妥当な数に近い。人口の増加をもって、社会の発展とするならば、出羽の古代史上では、九世紀の平安時代前期がそれに当たる。いわゆる「三十八年戦争」はその過程で起きたのである。そして各郡郷について、内陸部の置賜・最上・村山の三郡では、多くは後期古墳群のまとまりをもつ河川流域ごとに郷里が設けられた。つまり後期古墳時代にその基盤が成立していたとみて大過ない。しかし北陸道の出羽郡を母胎とした出羽・田川・飽海の三郡には、『続日本紀』の記すように、各地からの大量の移民があつてようやく立郡が可能だった。(一九九〇—二一五提出)

〈注〉

- (1) 西村眞次「置賜地方の古代文化―特に赤湯古墳群に就いて―(史跡名勝天然記念物調査報告第九輯)」山形 山形県 一九三八年
柏倉亮吉「山形県の古墳」前掲 一九五三年
氏家和典「陸奥国分寺跡出土の丸底坏をめぐって―奈良・平安期土師器の諸問題―」(『柏倉亮吉教授還暦記念論文集・山形県の考古と歴史』山形 其記念会) 一九六七年
伊藤玄三「末期古墳の年代について―東北地方末期古墳出土遺物を通して―(『古代学』一四卷三／四号)一九六八年
- (2) 柏倉亮吉・加藤 稔・手塚 孝・横戸昭二「米沢市八幡原中核工業団地造成予定 米沢 米沢市教育委員会 一九七六年
地内埋蔵文化財調査報告書第二集」
- (3) 柏倉亮吉「古墳の出現」前掲 一九七三年

山形県教育委員会『お花山古墳群発掘調査報告書(山形県埋蔵文化財調査報告書第八五集)』山形 一九八五年

小林三郎『お花山古墳群出土鏡をめぐる』、『山形考古学会第二八回総会研究大会発表予稿集・最上川流域の古墳の年代論』山形 山形考古学会 一九八六年

山形県教育委員会『お花山古墳群第三次発掘調査報告書(山形県埋蔵文化財調査報告書第108集)』山形 一九八七年

(18) 東海林次男『奥羽南半の古墳文化』、『山形考古』二巻三号) 一九七六年

(19) 柏倉亮吉『山形県の古墳』前掲 一九五三年

柏倉亮吉『古墳の出現』前掲 一九七三年

(20) 上遠矢塚古墳調査団『上遠矢塚古墳調査報告書』天童 天童市 一九七八年

(21) 柏倉亮吉『山形県の古墳』前掲 一九五三年

伊藤 忍『寒河江市の土師器(1)』、『寒河江考古』一号) 一九七〇年

加藤 稔・佐藤鎮雄『最上川流域の前方後円(方)墳』一九八二年

(22) 軽部恭順・佐藤栄太『北村山郡西郷村河島史跡名勝』、『羽陽文化』一卷一号) 一九四八年

柏倉亮吉『山形県の古墳』前掲 一九五三年

(23) 川崎利夫『古墳時代の庄内』、『庄内考古学』一七号) 一九八〇年

四 残された課題 〈大化以後〉

六四六(大化)二年、「改新の詔」についていわゆる「薄葬令」が

出た。しかし、ここ出羽の地はまだ律令国家に組み込まれていない。古墳時代後III期の終末期に盛行した、米沢盆地の横穴式石室をもつ小規模古墳の利用は続いたことを否定できない。横穴式石室を内部主体にする古墳築造の風の伝播しなかった山形盆地では、簡略な切石組合せ箱形石棺・礎塊で構築した箱形石棺を収めた低墳丘の小古墳が少しばかり造り続けられた。

高島町安久津古墳群安久津一号墳⁽¹⁾・南陽市蒲生田古墳群一号墳⁽²⁾・同梨郷中島平古墳群⁽¹⁾では、高島町立林古墳⁽¹⁾と南陽市二色根二号墳⁽¹⁾からは和同開珎が、そして米沢市牛森古墳⁽²⁾と南陽市二色根二号墳や中島平古墳群では銚帯金具が副葬されていたことから、その築造を奈良時代とする考案が定着しようとしている。しかし横穴式石室は追葬が繰り返される場合がある。牛森古墳のように実質は堅穴式石棺にちかい、河原石積みみの追葬の殆ど不可能な横穴式石室をもつ例は別として、それぞれの造営時期と最後の追葬時期とはかなりの群集墳で、時間差のあることも考慮すべきである。

安久津一号墳や戸塚山山麓⁽¹⁾の、玄室の左右両側壁・奥壁・天井とも一―二枚の凝灰岩切石の石室と、二色根二号墳のように凝灰岩切石積み切迫持ちで胴張りの石室とは、その形式があまりにも違い過ぎる。後者は墳丘も一〇メートルを越える。追葬の有無を含め、後III期までには造営された可能性を検討する必要がある。一部の研究者のように、横穴式石室を内部主体とする群集墳の大半を古墳時代以降と想定した上で、奈良時代の米沢盆地を辺境の地のごとく喧伝するのは妥当でない。

同様の検討は、山形盆地でも緊急を要する。確実な蕨手刀副葬の

- 山形県教育委員会『寝鹿・契約壇遺跡発掘調査報告書(山形県埋蔵文化財調査報告書第112集)』山形 一九八七年
- (2) 川西町教育委員会『山形県川西町分布調査報告書(川西町埋蔵文化財調査報告書7集)』川西町(山形県) 一九八四年
- (3) 柏倉亮吉・武田好吉・加藤 稔『嶋遺跡(『山形市史』別巻Ⅰ)』山形 一九六八年
- (4) 山形県教育委員会『西沼田遺跡発掘調査報告書(山形県埋蔵文化財調査報告書第101集)』山形 一九八六年
- (5) 山形県教育委員会『三軒屋物見台遺跡発掘調査報告書(1)・(2)(山形県埋蔵文化財発掘調査報告書106・107集)』山形 一九八六―八七年
- (6) 山形県教育委員会『鶴岡市西郊遺跡群矢馳A遺跡・矢馳B遺跡・清水新田遺跡発掘調査報告書(山形県埋蔵文化財調査報告書第127集)』山形 一九八八年
- (7) 山形県教育委員会『助作遺跡・山田遺跡発掘調査報告書第143集』山形 一九八九年
- (8) 『山形県史 資料篇』一一 考古資料 山形 一九六八年
佐藤鎮雄「置賜地方の古墳―南陽市周辺の古墳を中心として―(『まんざり』創刊号) 一九八二年
- (9) 米沢市教育委員会『戸塚山古墳群詳細分布調査報告書―戸塚山古墳群調査報告書 第II集―(米沢市埋蔵文化財調査報告書第10集)』米沢 一九八九年
加藤 稔・佐藤鎮雄「最上川流域の前方後円(方)墳」『最上川総合学術調査報告』山形 山形県総合学術調査会 一九八二年
- (10) 柏倉亮吉『山形県の古墳(山形県文が最調査報告書第四輯)』山形 一九五三年
東海林次男「奥羽南半の古墳文化」(『山形放古』二巻三号) 一九七六年
一九六六年、高島町教育委員会の要請で、柏倉亮吉氏と筆者らが調査した。
- (11) 川崎利夫「辺境における古墳文化の特質―出羽国の場合―」『日本考古学の諸問題』岡山 考古学研究会 一九六四年
- (12) 柏倉亮吉・武田好吉・小野 忍『土矢倉古墳―山形県における墳輪古墳の研究―』上山 上山市教育委員会 一九六九年
- (13) 坊主窪古墳群調査団『坊主窪一号墳予備調査報告書(山辺町埋蔵文化財調査報告書第二集)』山辺町(山形県) 山辺町教育委員会 一九八九年
- (14) 加藤 稔「『変容』を余儀なくされた古墳群―東北南半の前・中期古墳についての試論―」(『山形史学研究』一三/一四合併号 一九七八年
- (15) 加藤 稔・佐藤鎮雄「最上川流域の前方後円(方)墳」 一九八二年
- (16) 山形大学附属博物館蔵品。
- (17) 川崎浩良「村山地方の古墳」(『羽陽文化』一卷四号) 一九五〇年
川崎浩良「御花山に立ちて」(『羽陽文化』一卷六号) 一九五〇年
柏倉亮吉『山形県の古墳(山形県文化財調査報告第四輯)』山形 山形県教育委員会 一九五三年
- 加藤 稔「最上川流域における古墳文化の展開」(『工藤定雄教授還暦記念文集・最上川流域の歴史と文化』山形 其記念会) 一九七三年
柏倉亮吉「古墳の出現」(『山形市史』上巻 山形 山形市) 一九七三年

米沢盆地では、後Ⅰ期に西の川西町下小松古墳群、北の長井市河井山古墳群、東の南陽市松沢古墳群^⑧、南の戸塚山古墳群の山崎支群^⑨などが造営された。下小松古墳群小森山支群の木棺直葬にとつて替わった、松沢古墳群の堅穴式組み合わせ箱形石棺について、米沢市戸塚山三四号方墳は二つの横穴式石室をもつ^⑩。後Ⅱ期に入つて、米沢盆地では新しい内部構造が採用され始めた。

下小松古墳群小森山支群にみられた、前方後円墳は六世紀後半の後Ⅰ期には終わる。六世紀末から七世紀の後Ⅱ・Ⅲ期には、米沢盆地では横穴式石室をもつ古墳が主流となり、盆地東部の米沢市・高島町から南陽市にかけての群集墳が盛期を迎える^⑪。その中にある、巨大で端正な切石を組み合わせた横穴式石室をもつ、径二四メートルの高島町金原古墳が後Ⅲ期の代表的古墳としてある。

太平洋戦争敗戦の前には、米沢盆地の古墳といえはこの横穴式石室をもつ小円墳がすべてであった。旧石器考古学の確立に続く、筆者らの古墳時代研究がその迷妄^⑫を変えた。この意義は大きい。おそらく北陸や会津盆地からではなく、のちに東山道に包括される磐城・岩代・陸奥を結ぶルートを利用しての、ヤマト政権との政治的・文化的交流が定着したものであろう。

上山盆地東縁辺では、後Ⅰ期に、前方後円墳を主墳とする土矢倉古墳群が人物埴輪と須恵器をもつ^⑬。五世紀末葉からの新しい動きに連なる。

上山市土矢倉二号墳・東村山郡山辺町坊主窪一号墳^⑭など、古墳時代後Ⅰ期を最後に、最上川中流域でも前方後円墳は姿を消す。土矢倉二号墳の企画は米沢市戸塚山一三九号墳のそれを受けつき^⑮、坊

主窪一号墳の墳型は川西町下小松古墳群小森山支群六一号墳・六五号墳の系統にちかい。奥羽山脈側と出羽丘陵側の対応の差である。なお、坊主窪古墳群の主墳である一号墳が、奥羽の日本海側北限の前方後円墳である。埴輪もまた、山形市風間古墳群出土と伝える円筒埴輪^⑯V期をもつて消滅する。

後期に、山形盆地南半では、馬見ヶ崎川・立谷川・本沢川扇状地の谷口近くの台地に、山形市お花山^⑰・村木沢^⑱・谷柏^⑲などの古墳群、同じく扇端部に同市稻荷塚・宮町・狐山・衛守塚・天童市火矢塚の古墳群が盛期を迎える^⑳。なかでも、お花山古墳群では割竹形木棺から箱式石棺への変遷をたどることができ、盟主墳とみられる一号墳や二二号墳はいずれも複棺で、前者からは変形撰文鏡や剣・鉄刀・勾玉ほかの玉類・堅櫛など、また後者から七獣乳文鏡が出土した。仙台平野を通じての大和政権との結びつきが強固となったためとみられる。山形盆地北半では、寒河江市高瀬山古墳群^㉑や村山市河島山古墳群^㉒など、最上川沿いの丘陵・台地上での古墳群形成があった。両古墳群の始まり、とくに後者は、五世紀末の前Ⅳ期に溯る可能性が高い。

なお、横穴式石室を内部主体にもつ古墳は、山形盆地では造営されなかった。古墳造営の風の受容において、より北の山形盆地は、当然ながら、より南の米沢盆地に一步遅れをとったのである。

庄内平野では東田川郡藤島町真木島に箱形石棺を内部主体とする後期古墳の存在を想定する^㉓向きもあるがなお確実でない。

〈注〉

(1) 高島町『高島町史』別巻 考古資料編 高島町(山形県) 一九七一年

第5表 最上川流域の古墳群編年表

A・D・年	時期区分	羽前地域				備考
		米沢盆地	上山・山形盆地	尾花沢・新庄盆地	庄内平野	
300	前I期	(米沢) (南陽高島) (川西)	(上山) (山形東村山) (西村山) (北村山)		(田川) (飽海)	天神森, 下小松168 稻荷森: 二重口縁底部穿孔土師壺 (宮城遠見塚, 雷神山)
	前II期	宝領塚 稻荷森 蒲生田	天神森 下小松168			
400	前III期	八幡塚 戸塚山	大塚			
	前IV期	139 138 137 大師森山	菅沢2 狐山2 衛守塚2 名取 大之越		(八幡山) 菱津	
500	後I期	181 山 松沢1 2 扇子平	土矢倉 2 3 1 下小松61・65	高瀬山 河島山1 2 坊主窪1		菅沢2: 甲冑形埴輪, 第IV期円筒埴輪(福島天王壇) 土矢倉2: 第V期円筒・人物埴輪 土矢倉1: TK47式須恵高坏
	後II期	崎183 34	8・10 花山13	お		
600	(後終III末期)	戸塚山山麓	谷柏1 2 25			金原: 切石積横穴式石室
	飛鳥	清水前 金原				
700						

- (15) 『東根市史別巻』 1 東根 一九八九年
- (16) 加藤 稔・阿子島功・茨木光裕・江川 隆『菅沢古墳二号墳発掘調査報告書』 山形 山形市教育委員会 一九八七年
- (17) 筆者らの測量調査による。
- (18) 羽柴雄輔「山形県漆山村発見の古棺」、『東京人類学会雑誌』五巻五一号 一八九〇年
- 羽柴雄輔「羽前国東村山郡漆山村衛守塚の古墳」、『東京人類学会雑誌』一六巻一八〇号 一九〇一年
- 後藤守一「漆山古墳実査報告」、『考古学雑誌』一四巻一三号 一九二二年
- 喜田貞吉「古墳に副葬の弓」、『東北文化研究』一卷六号 一九二九年
- 柏倉亮吉「山形県の古墳(山形県文化財調査報告四)」 山形 山形県教育委員会 一九五三年
- (19) 加藤 稔編『村山市史 別巻』一 原始・古代編 村山 村山市史編さん委員会 一九八二年
- 加藤 稔・佐藤鎮雄「最上川流域の前方後円(方)墳」、『最上川 総合学術調査報告』山形 山形県総合学術調査会 一九八二年
- (20) 和田千吉『日本遺跡遺物図譜』第二輯 東京
- 阿部正巳「古墳時代に於ける庄内の文化」、『考古学雑誌』一一巻五号 一九二一年
- 柏倉亮吉『山形県の古墳』 山形 一九五三年
- (21) 長井政太郎「山形県内の石製模造品」、『縄紋』第三輯 一九四九年
- 伊東信雄「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」、『歴史』(六輯) 一九五三年
- 加藤 稔「日本最大の石製模造鏡」、『尾花沢風土記』 尾花沢 一九八〇年
- 加藤 稔・尾花沢八幡山の石製模造品」、『御所山 総合学術調査報告』 山形 山形県総合学術調査会 一九八九年
- (22) 山形県教育委員会『大之越古墳発掘調査報告書(山形県埋蔵文化財発掘調査報告書18集)』 山形 一九七九年

三 六一七世紀前半

六世紀から七世紀前半の古墳時代後期には、集落はより低湿の地に広がった。古墳はむしろ、台地や山麓・河川近くに営まれた。金属製農耕具の定着と排水技術の向上が、可耕地を拡大し居住環境を変化させたのである。

米沢盆地では、高畠町川沼(寝鹿)⁽¹⁾・川西町龍蔵北⁽²⁾の二遺跡が、山形盆地では山形市嶋⁽³⁾・天童市西沼田⁽⁴⁾・中山町三軒屋⁽⁵⁾の三遺跡が、そして庄内平野南半では鶴岡市矢馳⁽⁶⁾・助作⁽⁷⁾の二遺跡が、中心的な集落である。

嶋や西沼田では、低湿性の土地に、平地式床張・草壁構造の柱居棟と、高床式板床張・坂壁構造の倉庫が検出され、鋤・鍬・杵・槌・大足など木製農耕具や鞍などの馬具、石製紡錘車や木製機織具等々が出土し、当時の生産技術が明らかとなった。粃・炭化米に加えて、アサ・ヒョウタン・マクワウリ・モモ・スモモ・オニグルミ・ヒメグルミ・クリ・トチなどの種子と、ニホンジカの骨などが検出され、多様な経済生活がうかがわれる(第4表)。

第4表 山形盆地の後期古墳時代遺跡出土食用動・植物集成

遺跡	種別	動・植物名
山形市 嶋	低湿性 集落	イネ(粳) <i>Oryza sativa</i> L.
		モモ <i>Prunus persica</i> Batsch.
		オニグルミ <i>Juglans sieboldiana</i> Maxim.
		ヒメグルミ <i>Juglans subcordiformis</i> . Dode
		クリ <i>Castanea crenata</i> Sieb. et. Zucc.
		トチ <i>Aesculus turbinata</i> Blume
		スモモ <i>Prunus salicina</i> Lindl.
		アサ <i>Cannabis sativa</i> L.
		ヒョウタン <i>Lagenaria leucantha</i> Rosby.
マクワウリ <i>Cucumis melo</i> L. var <i>makuwa</i> Makino		
天童市 西沼田 (32-28 グリッド 材出土層 準)	低湿性 集落	イネ <i>Oryza sativa</i> L.
		アサ <i>Cannabis sativa</i> L.
		(セリ科の一種 UMBELLIFERAE SP.)
		ニホンジカ <i>Cervus nippon nippon</i> Temminck.

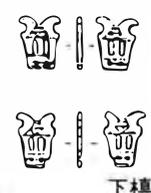
(3) 山形県教育委員会『沢田遺跡発掘調査報告書(山形県埋蔵文化財調査報告書88集)』山形 一九八五年

(4) 佐藤鎮雄「置賜地方の古墳―南陽市周辺の古墳を中心として―」、『ま
んぎり』創刊号) 一九八二年

- (5) 『山形県史 資料編』11 考古資料 山形 一九六九年
- (6) 注(5)および山形県教育委員会『三軒屋物見台遺跡発掘調査報告書(1)・
(2)(山形県埋蔵文化財発掘調査報告書106・107集)』山形 一九八六―八七
年
- (7) 伊藤 忍「東根市扇田遺跡出土の土師器」、『寒河江考古』(三号) 一九
七二年
- (8) 山形県教育委員会『熊野台遺跡発掘調査報告書(山形県埋蔵文化財調
査報告書31集)』山形 一九八〇年
- (9) 山形県・山形県教育委員会『鶴岡市西部地区遺跡群矢馳A遺跡・矢馳
B遺跡・清水新田遺跡発掘調査報告書(山形県埋蔵文化財調査報告書127
集)』山形 一九八八年
- (10) 米沢市教育委員会『八幡塚古墳の調査』、『遺跡詳細分布調査報告書第
2集(米沢市埋蔵文化財調査報告書25集)』米沢 一九八九年
- (11) 加藤 稔・亀田晃明・手塚 孝ほか『戸塚山第一三三七号墳発掘調査報
告書―戸塚山古墳群調査報告書第1集―(米沢市埋蔵文化財調査報告書
9集)』米沢 米沢市教育委員会 一九八三年
- (12) 川西町教育委員会『山形県川西町下小松墳丘群 薬師沢支群第143・145
号墳調査報告書(川西町埋蔵文化財調査報告書12集)』川西町(山形県)
一九八八年
- (13) 國學院大学考古学資料館河井山遺跡群学術調査団「河井山遺跡群第一
号墳学術調査報告」(『國學院大學考古学資料館紀要』6輯 東京)
一九九〇年
- (14) 加藤 稔「前方後円墳の幾何学―南陽市稻荷森古墳の墳型分析―」
(『山形工業高等学校研究紀要』八号) 山形 一九七八年

第3表 古墳時代祭祀関連遺物出土遺跡

縮尺不同

時 代	世 紀	遺 跡 名	性 格 種 別 等	遺 物					備 考	石製模造品 		
				石製模造品	子持勾玉	玉類	土製玉類	手握土器			搬入須恵器	
古 墳 前 期	4	河北町下楨	集落	○							下楨	
	5	尾花沢市八幡山	祭場	◎						県史1149~1151		八幡山
		川西町中郡山麓	不明		○					県史995-4		
		山形市七浦	集落					○		丸底壺・甗(TK208)		
		山形市七浦・狐山	2号墳近傍(集落カ)		○					県史995-3		
		山形市鷺ノ森	祭場		○	○		○	○	県史995-2		
		中山町三軒屋(物見台)	集落		○	○			○			
河北町沢畑・桑カ原	不明		○					県史995-1				
山形市嶋	集落					○	○	○	県史952,994 甗(2)(TK23)			
天童市清池西	集落							○	坏(TK23)			
天童市西沼田	集落							○	蓋3・坏1(TK47)			
古 墳 後 期	6	山形市嶋	集落			○	○	○	○	甗(MT15)		
		天童市西沼田	集落						○	甗(MT15)		
		中山町三軒屋(物見台)	集落						○	蓋・坏(〃)		
		山形市天神山	祭場									
		中山町三軒屋(物見台)	集落						○	甗・坏(TK10)		
	鶴岡市助作	集落						○	甗(TK10)			
7	南陽市鳥帽子山	古墳カ			○					勾玉		
	河北町沢畑・お月山	集落カ			○					勾玉		
	東根市大木山	集落カ			○					勾玉		
	遊佐町丸池	古墳カ			○					金環・勾玉		
	山形市旧東金井村	不明(古墳カ)						○	蓋1, 高坏2(TK209)			
米沢市上浅川	集落						○	壺, 蓋付坏(TK48)				

同市上浅川の戸塚山山頂古墳群¹⁰⁰が、宝領塚古墳の被葬者に連なる首長墓であろう。天神森古墳の被葬者に連なるのは、川西町下小松古墳群のうち葉師沢および小森山支群であろう¹⁰¹。そして長井盆地には、長井市河井古墳群¹⁰²が造営され始めた。この中であって、五世紀後半に、主軸長五四メートルの前方後円墳戸塚山一三九号墳を主墳とする戸塚山山頂墳群は、米沢盆地の東部に、新しい政治的状況を作り出したものと思われる¹⁰³。

山形盆地では、前III期に盆地北縁の沖積平地に造営された東根市大塚古墳が最も古い。その墳型は六〇メートル級の前方後方墳と推測される¹⁰⁴。幅一〇メートルの周濠をめぐらす点を加味し、奥羽では最も新しい段階のものである。

前IV期に新しい動きがみられるのは、米沢盆地だけではない。山形盆地南半では甲冑形をはじめ器財型埴輪の樹てられた径五二メートル前後の、奥羽最大級の円墳である山形市菅沢二号墳¹⁰⁵、沖積平地に築かれた径二〇メートル異常で二段築成の円墳の同市狐山二号墳¹⁰⁶、石製模造品と割竹形木棺の副葬した出土した同市衛守塚二号墳¹⁰⁷などを主墳とする、狐山および衛守塚古墳群の形成が始まる。北部でも、最上川流域第二位の径三六メートルの円墳である村山市名取古墳¹⁰⁸が、また庄内平野ではその南縁に、変形長持形石棺を収めた鶴岡市菱津古墳¹⁰⁹が造営された。

奥羽の日本海側では、内陸盆地では名取古墳が、海岸平野では菱津古墳が、確認されている北限の古墳である。その北の尾花沢盆地では、盆地の東の丘陵上にある、峠の神を祀った尾花沢市八幡山遺跡で、日本最大の石製鏡をはじめ、刀子・斧・勾玉など石製模造品

を大量に出している¹¹⁰が、古墳そのものはまだ確認されていない。

四世紀末から五世紀初頭に、米沢・山形の両盆地で造営された前方後方墳に象徴される、地域の政治的社會を統合した、南陽市稲荷森古墳の被葬者の後裔の権勢は、五世紀前半には衰退した。五世紀後半に新たに米沢・山形の二盆地を統合しようとしたのは、北関東の政治集団と結び戸塚山一三九号墳の被葬者¹¹¹と、畿内の政治集団に直結する可能性さえある菅沢二号墳の被葬者¹¹²であろう。しかしいずれも盆地域全体を統御し得たものかどうか明らかでない。

米沢盆地西縁には天神森古墳の被葬者の系譜に連なる下小松古墳群の造営がなお進行している。むしろ長井盆地に新しく成立した河井山古墳群が注目される。同様に、山形盆地でも五世紀末から六世紀初頭には、新しい動きがある。古墳造営北限の地、村山市の名取古墳は径三六メートルの円墳である。一方、もしかすると六世紀初頭にかかるかもしれない山形市門伝の大之越古墳は径一六メートルの小円墳ながら、大型の箱式組合せ石棺をもち、杏葉をはじめとする馬具を棺上に置かれた一号棺と単鳳環頭大刀ほかの武器・工具の副葬品が多数埋納された二号棺の複棺をもつ¹¹³。お花山古墳群はじめつぎの後I期に割竹形木棺から石棺への移行が各地で進行する。

〈注〉

- (1) 米沢市教育委員会「米沢市万世町桑山団地造成地内埋蔵文化財調査報告書第II集、二夕俣A遺跡・八幡堂遺跡(米沢市埋蔵文化財調査報告書8集)」米沢 一九八三年

- (2) 米沢市教育委員会「古墳時代の方形周溝墓」(「上浅川第三次発掘調査報告書(米沢市埋蔵文化財調査報告書15集)」米沢 一九八六年

をもつ末期古墳群と目されてきた。しかし、筆者の現地確認では、少なくとも前方後円(方)墳三基をふくむ古墳時代前II期に形成され始めた古墳群であることが明白である。

- (16) 山形県立博物館『稻荷森古墳―昭和五三年度調査概報』山形 一九八〇年
 南陽市教育委員会『山形県南陽市稻荷森古墳―史跡整備に係る昭和六三年度発掘調査概報―(南陽市埋蔵文化財調査報告書四集)』南陽 一九八九年
- (17) 加藤 稔『「変容」を余儀なくされた古墳群―東北南半の前・中期古墳についての試論―』(『山形史学研究』13/14号) 一九七八年
- (18) 氏家和典『東北地方の大型古墳の企画と編年』(『東北歴史資料館紀要』四号 多賀城) 一九七八年
- (19) 山形県教育委員会『坊屋敷遺跡』(山形県埋蔵文化財調査報告書33集 山形) 一九八一年
- (20) 柏倉亮吉・武田好吉・加藤 稔『嶋遺跡(山形史別巻I)』山形 一九六八年
- (21) 山形県教育委員会『山形西高敷地内遺跡発掘調査報告書(山形県埋蔵文化財調査報告書17集)』山形 一九七九年
- 山形県教育委員会・山形県埋蔵文化財緊急調査団『山形市山形西高敷地内遺跡第四次調査説明資料』山形 一九九〇年
- (22) 山形県教育委員会『河北町下横遺跡(山形県埋蔵文化財調査報告書31集)』山形 一九八一年
- (23) 山形県教育委員会『熊野台遺跡発掘調査報告書(山形県埋蔵文化財調査報告書31集)』山形 一九八〇年

(24) 寒河江市教育委員会『高瀬山遺跡群分布調査報告書(山形県寒河江市埋蔵文化財調査報告書1集)』寒河江 一九八一年

(25) 酒井英一『藤島町三和の土師器』(『庄内考古学』17号) 一九八六年

(26) 佐藤庄一氏のご教示による。

(27) 佐藤信行『後北式・北大式の分布』(『東北考古学の諸問題』東京 東出版寧楽社) 一九七六年

(28) 加藤 稔『山形の弥生式土器』『古代北奥文化』10号 一九七八年

(29) 宇野修平・佐藤嘉広『寒河江市石田A遺跡の調査』(『西村山地域史の研究』創刊号) 一九八三年

(30) 加藤 稔『東北弥生式文化の終焉』(『山形県史』第一巻 山形 山形県) 一九八二年

二 五世紀代

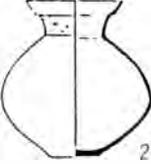
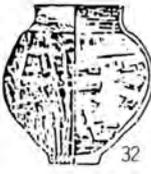
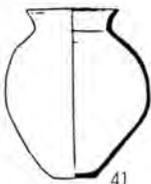
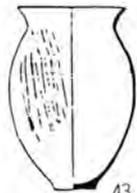
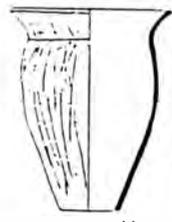
次いで五世紀の集落には、米沢盆地では、米沢市二夕俣A⁽¹⁾・八幡堂⁽¹⁾・上浅川⁽²⁾の諸遺跡と南陽市沢田⁽³⁾・長岡山⁽⁴⁾の諸遺跡がある。米沢盆地では八幡堂と上浅川に方形周溝墓がみられ、後者の周溝内から宮城県仙台市大蓮寺窯の須恵器が出土した。

山形盆地南半では、山形市谷柏⁽⁵⁾・中山町三軒屋⁽⁶⁾、北半では東根市扇田⁽⁷⁾・河北町熊野台⁽⁸⁾の諸遺跡、庄内平野では鶴岡市清水新田⁽⁹⁾・矢馳の諸遺跡がある。この段階の土師器は、「上浅川式」・「谷柏式」・「扇田式」・「清水新田式」と、盆地・平野ごとにわずかな差を示す。

五世紀の米沢盆地では、前III期の米沢市八幡塚古墳⁽¹⁰⁾と前IV期の

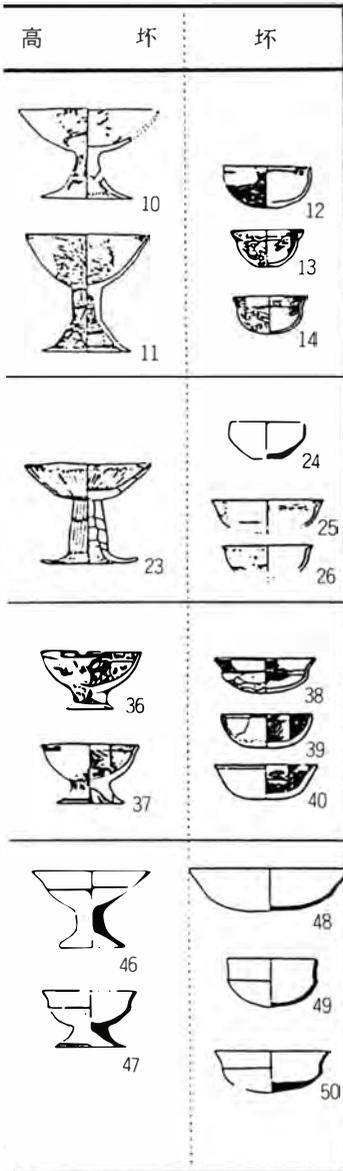
- 七三年
- (2) 氏家和典「東北土師器の型式分類とその編年」(『歴史』第四輯) 一九五七年
- (3) 米沢市教育委員会・置賜考古学会「八幡原No.43〔比丘尼平〕遺跡発掘調査報告書」米沢 一九七九年
- 手塚 孝「比丘尼平遺跡第二次発掘調査概報」(『まんぎり』創刊号) 一九八二年
- 米沢市・米沢市教育委員会「比丘尼平発掘調査報告書(米沢市埋蔵文化財調査報告書21集)」米沢 一九八八年
- (4) 米沢市教育委員会「米沢市方世町桑山団地造成地内埋蔵文化財調査報告書第III集 大清水遺跡(米沢市埋蔵文化財調査報告書17集)」米沢 一九八六年
- (5) 米沢市教育委員会「柿の木遺跡」(米沢市方世町桑山団地造成地内埋蔵文化財調査報告書第I集(米沢市埋蔵文化財調査報告書6集))米沢 一九八二年
- (6) 山形県教育委員会「諏訪前遺跡発掘調査報告書(山形県埋蔵文化財調査報告書102集)」山形 一九八六年
- (7) 山形県立博物館「稻荷森古墳―昭和五三年度調査概報―」山形 一九七九年
- (8) 手塚 孝「万世の原始古代―八幡原遺跡群を中心として―」(『米沢の原始古代』米沢 まんぎり会 一九八六年)
- (9) 加藤 稔「最上川流域における古墳文化の展開」(『工藤定雄教授還暦記念論文集・最上川流域の歴史と文化』山形 其記念会) 一九七三年
- (10) 『山形県史資料篇』 一一 考古資料 山形 一九五六年
- 加藤 稔「墓地のいとなみ」(『山形県史』第一巻 山形 山形県) 一九八二年
- (11) まんぎり会「宝領塚古墳発掘調査現地説明会資料」 米沢 一九八九年
- (12) 加藤 稔・阿子島功・山野井徹・藤田有宣「山形県川西町天神森古墳発掘調査報告書(川西町埋蔵文化財調査報告書6集)」 川西町(山形県) 一九八四年
- (13) 川西町教育委員会「山形県川西町分布調査報告書(川西町埋蔵文化財調査報告書7集)」 川西町(山形県) 一九八四年
- 川西町教育委員会「山形県川西町下小松墳丘群 小森山支群第106・106・186号墳調査報告書(川西町埋蔵文化財調査報告書〔11集])」 川西町(山形県) 一九八七年
- 川西町教育委員会「山形県川西町下小松墳丘群 葉師沢支群第143・145号墳調査報告書(川西町埋蔵文化財調査報告書12集)」 川西町(山形県) 一九八八年
- 川西町教育委員会「山形県川西町下小松古墳群 小森山支群第65号前方後円墳調査報告書(川西町埋蔵文化財調査報告書13集)」 川西町(山形県) 一九八九年
- (14) 亀田晃明・手塚 孝「山形県における塚研究の諸問題―置賜盆地を中心として―」(『まんぎり』二号) 一九八四年
- 大塚初重「東日本における古墳文化の成立と展開―とくに福島・宮城・山形県を中心として―」(『駿台史学』六七号) 一九八六年
- (15) 吉野一郎氏のご教示による。前方後方墳くびれ部周隕内から底部穿孔の古式土師器が採集されている。蒲生田古墳群は、これまで横穴式石室

A 土師器の変遷

	壺	埴 (広口壺)	甕	甑	台付甕・器台
宮 町 式	 1  2	 3  4  5	 6	 7	 8  9
谷 柏 ・ 扇 田 式	 17	 18  19	 20	 21	 22
三 軒 屋 式	 32	 33	 34	 35	
嶋 式	 41	 42	 43	 44	 45

<宮町式> 1・2・9 山形宮町 3・4 山形西高 5・7・10・12 河北熊野台
 <谷柏・扇田式> 17・18・25・26 東根扇田 19・20 米沢大清水 21・23 南陽沢田
 <三軒屋式> 32-34 川西竜蔵北 35-40 中山三軒屋
 <嶋式> 41-50 山形嶋

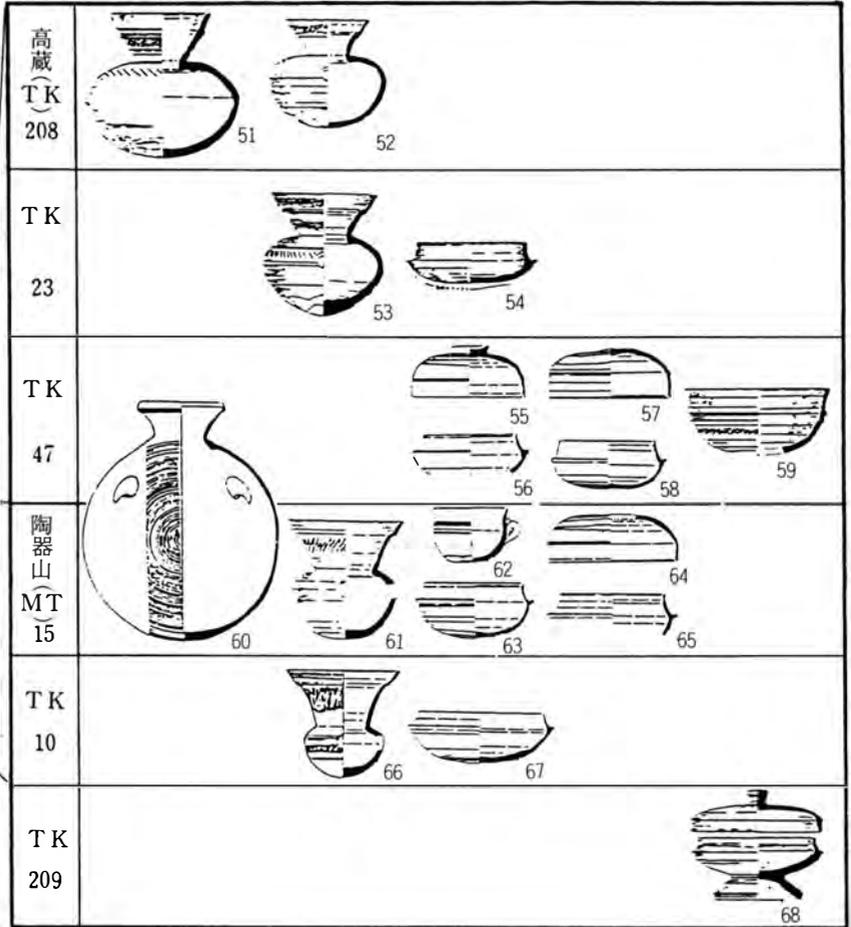
第3図 最上川流域の古墳時代土器編年



6・11-14 河北下模 8 山形坊屋敷
22・24 山形谷柏

B 搬入須恵器の変遷

縮尺不同



- <TK 208式> 51・52 山形七浦
 <TK 23式> 53 山形嶋 54 天童清地西
 <TK 47式> 55・56 天童西沼田 57・58 山形お花山古墳群
 59 上山土矢倉1号墳
 <TK 15式> 60 山形衛守塚1号墳 61 山形嶋
 62・63 天童西沼田 64・65 中山三軒屋
 <TK 10式> 66・67 中山三軒屋
 <TK 209式> 68 山形東金井

第2表 最上川流域の古墳時代土師器・須恵器編年表

		山形(村山)盆地				
時代 区分	型式	段階	土師器		須恵器	埴輪
			集落出土	古墳出土		
古墳時代	前期	前期	山形宮町			
			山形西高4住*			
	前期	中期	河北熊野台39住			
			山形坊屋敷70住			
	前期	中期	河北下楨			
			東根扇田	東根大塚古墳	山形七浦(TK208)	
	前期	中期	山形谷柏			
			東根扇田		山形嶋(TK23)	
	前期	後期	中山三軒屋I群 (物見台)		天童清池西(TK23)	
				山形お花山A群 山形大之越2号棺	山形お花山古墳群 (TK47)	山形菅沢 2号墳 (IV期)
後期	前期			上山土矢倉1号 ・3号墳(TK47)		
				天童西沼田(TK47)		
後期	中期	山形嶋I群	山形お花山B群 (4・19墳)	山形嶋(MT15)	上山土矢倉1号墳 (V期)	
		天童西沼田		天童西沼田(MT15)		
後期	後期	中山三軒屋II群	山形お花山C群 (1・9号墳)	中山三軒屋(TK10)		
		山形天神山**				
後期	後期	中山三軒屋III群	山形お花山D群 (13号墳)			
後期	前期	中山三軒屋1住		山形旧東金井村(TK209)		
		山形嶋				
後期	後期	山形嶋				
飛鳥						

4住：第4号住居跡、他これに準ずる。**祭祀遺跡

米 沢 (置 賜) 盆 地		庄 内 平 野		宮 城		
土 師 器		須 恵 器		型 式	段 階	年 代
集 落 出 土	古 墳 出 土	須 恵 器		土 師 器	須 恵 器	
米沢堂森比丘尼平			藤島三和		塩	I 4 世
南陽諏訪前	川西天神森古墳				釜	II 紀
南陽稻荷森	南陽稻荷森古墳		酒田関B			III
					南	I 5 世
					小	II
米沢八幡堂 2住 " 3住 " 4住			鶴岡清水 新田13住 " 31住 鶴岡矢馳B 12住	鶴岡清水 新田(TK47)	泉	III 紀
	南陽松沢 1号墳				住	I 6 世
高島川沼寝鹿	川西小森山61号墳		鶴岡矢馳A	鶴岡助作 (TK10)		II 紀
川西竜蔵北					社	III
					栗	I 7 世
	高島清水前古墳	米沢上浅川(TK48)			圃	II 紀
	高島北目 1号墳	高島北目 1号墳				III

多い。盆地北半でも、最上川左岸の河北町下横^四や熊野台^四などの遺跡があり、下横では四世紀代の堅穴住居から本村型琴柱形石製品が出土している。しかし山形盆地では、寒河江市高瀬山に方形周溝墓が発見されている^四だけで、四世紀にさかのぼる古墳は未だ確認されていない。

庄内平野では四世紀の古式土師器が、東田川郡藤島町三和^四と酒田市関B遺跡^四で出土している。北陸の古式土師器に共通する点が見られるが、方形周溝墓も円形周溝墓もまだ発見されていない。

西日本からの土師器の浸透や古墳の進入とは別に、弥生時代後期ないし古墳時代前期にかけて、北日本からの続縄文土器の貫入も見逃すわけにはゆかない、寒河江市高瀬山採集と目されている後北C式土器が、佐藤信行氏によって摘出されている^四。

高瀬山周辺の石田遺跡からは、筆者が石田I式およびII式と型式分類した弥生土器^四の出土が報じられている。前者に関しては、一九八二年に、宇野修平・佐藤嘉広氏らの手で、再葬墓の可能性をもつ土壙墓群が発掘されている^四。一方後者には、天王山式系弥生土器のうちでもより後出の二重口縁ある縄巻き縄文の土器がある。最上川流域の弥生土器最後の型式である。後北C式土器は、後者に強く関連しよう。その最上川流域への貫入は、三世紀末の気候冷涼化に一因がある、と筆者はみている^四。

〈注〉

(1) 加藤 稔「山形盆地における土師器の編年」(『山形市史』別巻I嶋遺跡)山形 一九六八年、加藤 稔「最上川流域における古墳文化の展開」

(『工藤定雄教授還暦記念論文集・最上川流域の歴史と文化』山形 一九

第1表 最上川流域の方形周溝墓

遺跡・遺構名	遺 跡 所 在	時 期	形 態	規 模 (m)	主 体	周 溝 内 副 葬 品	文 献 例：(1979)→('79)
比丘尼平 1号	米 沢 市	I	□	10.9×12.4	—	土師甕	置賜考古学会('79) 「其報告」
〃 2号		I	□?	×	—		
〃 3号		I	□?	? × 5.5	—		
大 清 水		II	□?	(6.5)×(6.5)	—	土師甕	米沢市埋調17('86)
八 幡 堂 1号		II	□	11.6×11.8	—	土師甕	米沢市埋調 8 ('83)
〃 2号	II	□?	8.3 × (8.5)	1	底部穿孔土師		
〃 3号	II	□	6.0 × 7.2	1	土師甕・高坏		
〃 4号	II	□?	(5.0)×(5.0)	—	土師甕		
〃 5号	II	□	(5.0)×(5.0)	1	土師甕		
上 浅 川		III	□	16.2×16.1	4	須恵蓋・土師甕	米沢市埋調15('86)
高 瀬 山 I	寒河江市	II	□?	21 × 20	—	土師	寒河江市調報 I ('81)

(注) 形態は、北側を上にし、?は形状未確認、また規模の()は推定を表わす。

主体部の「—」印は未確認を表わす。

は、四世紀代の集落の上に築造された、山形県下最大規模の前方後
 円墳の稲荷森古墳がある⁴⁶。
 主軸長九六メートルの稲荷森古墳は、盆地の南部の宝領塚や西部
 の天神森古墳、さらに北部の南陽市梨郷―竹原古墳群に結集した、
 天王川・吉野川・犬川流域の共同体を統率し、諏訪前遺跡+蒲生田
 古墳群を政治的基盤として、米沢盆地一円の政治的社会を統合した

首長層の記念碑である。その「前方部半截型」の企画と尺度⁴⁷から
 は、宮城県名取市雷神山古墳を盟主とする政治集団との同盟関係が
 予想される⁴⁸。
 四世紀の山形盆地南半には、南西の本沢川流域の坊屋敷遺跡⁴⁹、中
 央の馬見ヶ崎川(白川)扇状地の山形市宮町⁵⁰・山形市西高等学校校地
 内遺跡⁵¹、立谷川扇状地の扇端の湧水帯の七浦遺跡など集落遺跡が



第2図 最上川流域の主要古墳時代遺跡

1 大清水遺跡 (米沢市)	18 河井山古墳群 (長井市)	35 小塩古墳 (中山町)
2 八幡堂遺跡 (〃)	19 土矢倉古墳群 (上市市)	36 高瀬山遺跡・古墳(寒河江市)
3 比丘尼平遺跡 (〃)	20 谷柏古墳群 (山形市)	37 下楯遺跡 (河北町)
4 戸塚山古墳群 (〃)	21 坊屋敷遺跡 (〃)	38 熊野台遺跡 (〃)
5 八幡塚古墳 (〃)	22 二位田遺跡 (〃)	39 大塚古墳 (東根市)
6 宝鎮塚古墳 (〃)	23 菅沢古墳群 (〃)	40 扇田遺跡 (〃)
7 川沼遺跡 (高島町)	24 大之越古墳 (〃)	41 河島山古墳群 (村山市)
8 金原古墳 (〃)	25 山形西高校遺跡 (〃)	42 名取古墳 (〃)
9 松沢古墳群 (南陽市)	26 宮町遺跡 (〃)	43 八幡山遺跡 (尾花沢市)
10 稲荷森古墳 (〃)	27 お花山古墳群 (〃)	44 菱津古墳 (鶴岡市)
11 沢田遺跡 (〃)	28 嶋遺跡 (〃)	45 清水新田遺跡 (〃)
12 諏訪前遺跡 (〃)	29 狐山古墳群 (〃)	46 矢馳遺跡 (〃)
13 蒲生田古墳群 (〃)	30 七浦遺跡 (〃)	47 助作遺跡 (〃)
14 梨郷竹原古墳群(〃)	31 衛守塚古墳群 (〃)	48 三和遺跡 (藤島町)
15 天神森古墳 (川西町)	32 上遠矢塚古墳 (天童市)	49 関日遺跡 (酒田市)
16 龍蒙北遺跡 (〃)	33 西沼田遺跡 (〃)	
17 下小松古墳群 (〃)	34 坊主窪古墳群 (山辺町)	

はその築造年代をIV期・五世紀末期の年代と想定される⁽²⁾。なお、墳径の一八メートルは晋尺の七五尺、小尋尺の一二尺に一致する。五世紀の出羽の古墳とみるに不都合はない。後れても六世紀初頭の後I期におさまる。

筆者は、最上川流域の古墳造営が、盆地・平野での水稻耕作による富の蓄積を前提とすることを容認し、さらにその上に前期古墳の政治的記念碑としての意義を強調したい。古墳時代前期には、古墳は単に首長層の奥都城に止まらず、いわば共同体の「神殿」の役割を大きくもつた意義を強調したい。ヤマトにとつての北のフロンテニア出羽・陸奥にあつては、農民層に対する首長層の権威表現に加え、より北に住む「まつろわぬ」エミシへの示威をも兼ねたと考えられる。この視点⁽³⁾から、最上川流域の古墳時代史を概観する。

〈注〉

- (1) 柏倉亮吉「山形県の古墳」『山形攷古』三巻一号 一九七七年一月。
- (2) 青木 豊氏には、発掘調査時に現地で、種々ご教示いただくとともに、国学院大学考古学資料館河井山遺跡群学術調査団『河井山遺跡群第一号墳学術調査報告』東京 一九九〇年 の校正刷の閲読の機会を与えられた。

なお、青木氏らは河井山一号墳の墳径を「本墳丘は上面が平坦な直径二〇メートルの円形を呈する円墳」としたが、現地での観察と測量図面から一八メートルと解した。

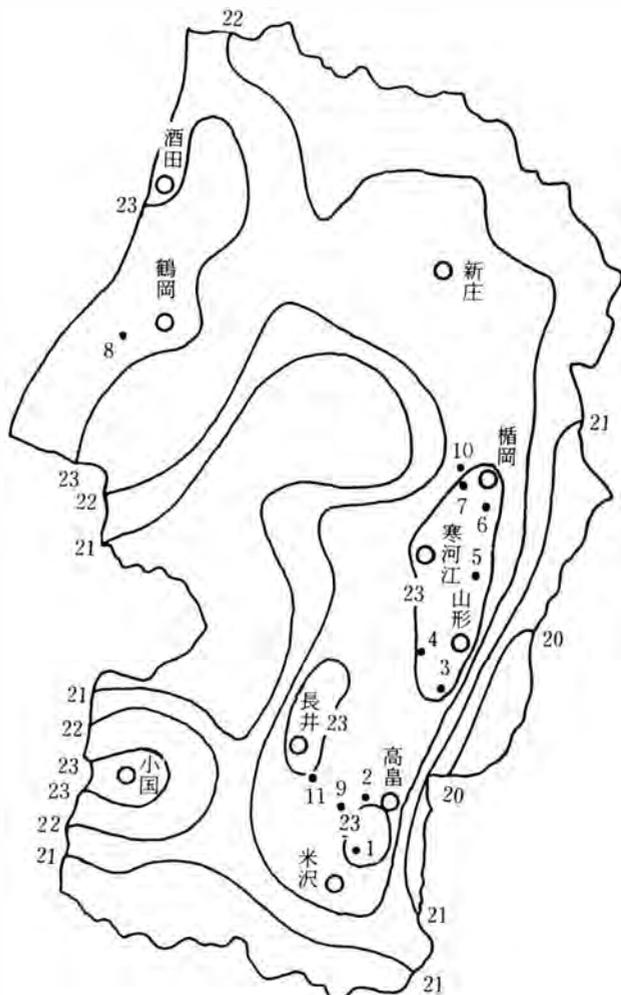
- (3) 加藤 稔・佐藤鎮雄「最上川流域の前方後円(方)墳」(『最上川 総合学術調査報告』山形 山形県総合学術調査会) 一九八二年

一 四世紀代

三世紀末、前方後円墳の時代は、弥生土器に替わった、土師器の使用で始まる。最上川流域では、山形盆地南半で、「宮町式」―「谷柏式」―「三軒屋式」―「嶋式」の四型式群が、それぞれ四・五・六・七世紀に消長した⁽⁴⁾。この四型式群は、仙台平野の「塩釜」・「南小泉II」・「住社」・「栗田」の各型式⁽⁵⁾に並行する。また互いに共通する点が多い。

米沢盆地では、四世紀代の代表的集落に、米沢市比丘尼平⁽³⁾・清水⁽⁴⁾・柿ノ木⁽⁵⁾、および南陽市諏訪前⁽⁶⁾・稻荷森⁽⁷⁾の各遺跡がある。土師器型式は、「比丘尼平式」で、比丘尼平と大清水には、有力農民の方形周溝墓が認められる。比丘尼平では方形周溝墓のほかに壺棺の土壙墓⁽⁸⁾もあつて、高島町大師森山の地獄岩洞窟の壺棺⁽⁹⁾と同様に、一般農民の墓は、弥生時代の壺・甕棺墓の伝統⁽¹⁰⁾を受け継ぐものであつた。

米沢市矢野目の宝領塚古墳⁽¹¹⁾や東置賜郡川西町上小松の天神森古墳⁽¹²⁾は、いずれも主軸長六〇メートル級から七〇メートル級の前方後方墳で古墳時代II期の天王川や大川流域の、在地の首長墓である。天神森の北西、下小松の眺山丘陵には、四世紀の後葉から六世紀前葉に造営された下小松古墳群約二〇〇基があり⁽¹³⁾、天神森古墳の被葬者にかかわる。南陽市梨郷―竹原地区には、前方後方墳・方墳・前方後円墳計二二基⁽¹⁴⁾の梨郷―竹原古墳群がある。南陽市蒲生田地区には、四世紀代から造営の始まった前方後方墳および前方後円墳を含む蒲生田古墳群がある⁽¹⁵⁾。その南方、長岡山丘陵突端の稻荷森に



第1図 山形県の7月等温線図(平均気温)と古式古墳分布(柏倉 1978 を利用)

(等温線図は山形地方気象台「山形県の気象」(昭37. 3)による。但し統計期間1951~1960、単位°C)

黒丸は古墳を示す

- No.1 戸塚山139号墳(前IV期)
- 2 稻荷森古墳(前II期)
- 3 土矢倉古墳群(後I期)
- 4 菅沢古墳(前IV期)
- 5 上遠矢塚古墳(前IV~後I期)
- 6 河島山古墳(前IV~後I期)
- 7 大塚古墳(前III期)
- 8 菱津古墳(前IV期)
- 9 天神森古墳(前II期)
- 10 名取古墳(前IV期)
- 11 河井山I号墳(前IV~後I期)

水稻の栽培摘地というものと、わりに古い古墳のあり場所、したがって豪族の発生というものが、密接な関係がある証拠となるだろうと思います。」

と、柏倉亮吉氏は指摘されたことがある。河井山古墳群の確認と調査は、その仮説をさらに補強した。

青木氏のご教示に若干の私見を加えると、河井山一号墳の規模は、底径一八メートルで、頂面が平坦で径一五メートル、高さは地表面から一・二メートル、周陸底から一・八メートルと低い。地山への墳丘盛土は、地山の上〇・三〇〇・五メートル程度である。周陸幅

は一・二〇一・五メートル、深さ〇・四〇〇・六メートルある。

埋葬施設は、盛土下約〇・五メートルで、墓壇を検出、検出面での形状は、全長四・六七メートル幅二・一五メートルの長方形である。内部主体は割竹形木棺直葬で、長さ三・八二メートル幅一・二メートルの大きさである。墳頂から墓壇底面までの深度は、約〇・九メートルで、墓壇の長軸はN⁴⁹°Wである。主体部棺内から、現在長九・六センチの刀子一口が出土した。また主体部直上の墳丘封土内から、南小泉II式後半並行の土師器高坏と平安期の須恵器高坏が出土した。前者は墳丘の造営に関わる資料とみてよい。青木氏

最上川流域の古墳時代史

加藤 稔

はしがき

ここで古墳時代とは、前方後円墳が造られた時代をいう。三世紀末から七世紀前半にかかる。これを大別して二期とする。前期は五世紀末まで、後期は七世紀中葉まで、とりあえずは大化以前としておく。前期を細分して、前I・II期はおおよそ三世紀末から四世紀代、前III・IV期はおおよそ五世紀代に、四分する。後期を細分して、三期とする。後I・II期はおおよそ六世紀代、後III期すなわち「終末期」はおおよそ七世紀前半にあたる。

確かに最上川流域では、飛鳥・奈良時代になっても「古墳」の築造が継続している。つまり古墳時代以後にも高塚墳墓が造営された。奈良県明日香村高松塚また然りである。これらを前方後円墳消滅後の「終末期」古墳と呼ぶ研究者がある。古墳時代の時期区分上、「終末期」を後期の終末段階つまり後III期とみるか、群集墳の形成が終った以後の、一部の限定された古墳を含めて考えるかまだ完全に一致した見解はない。とはいうものの、一般的には全国各地で、後期古墳終末段階つまり後III期の別称と理解されている。少なくとも、後期古墳時代以降のみを取り立てて、終末期とは呼ばない。

さて、一九八九年夏、国学院大学考古学資料館の青木 豊氏らは、佐藤正四郎氏が発見した、長井市河井山古墳群第一号円墳を発掘し

た。一号墳は、長井市東前にある。松川(最上川)と白川の合流点から南東へ〇・五キロの段丘面に立地する。海拔二三〇メートルの河井山山頂から北西へのびる突端にちかい稜線上である。この稜線の山頂から南東への延長線上には、六基の円墳群が確認されている。

長井盆地は、最上川流域の内陸盆地のうち、南の米沢盆地とはこの河井山から眺山丘陵を中において玉庭丘陵へつらなる山地で副さされている。盆地の中央は、七月の平均気温(統計期間一九五二～一九六〇年)が二三°Cある。八月には二四°Cを越える。

山形県域では、(1) 庄内平野の酒田市街東郊から鶴岡市街周辺を含んで海岸通りを温海町にかかる地域、(2) 山形盆地、北は村山市街周辺から、西は寒河江市街周辺にかかり、南は上市市金瓶までの地域、(3) 上山盆地のうち上市市街とその東郊、(4) 白鷹町中心部から長井市南郊にわたる長井盆地、(5) 米沢盆地、北部の南陽市街北郊から、東は高島町西郊、南は米沢市街北郊、(6) 小国盆地の小国町中心部、の六地域が、七月に平均気温が二三°Cになる。それぞれ地域には前期古墳が、また後れても後I期初頭には古墳の造営が、確認されている。長井盆地と小国盆地のみ未確認だった。

——「古式の古墳のあり場所はここ」「七月の平均気温が二三度に なっている所」に入るのでですね。やはり農業気象というものの、

平成2年3月20日 印刷

平成2年3月30日 発行

山形県立博物館研究報告 第11号

編集・発行 山形県立博物館©

〒990 山形市霞城町1番8号

電話 (0236) 45-1111

印刷所 株式会社 田宮印刷所

